

平成27年(2015年)
全国災害時気象概況

平成28年3月

気象庁

—— 目 次 ——

1	平成27年(2015年)の気象災害	1
1-1	気象の特徴	1
1-2	主な気象災害	2
資料1-2-1	主な気象災害に対応する天気図、降水量分布図等 ...	18
資料1-2-2	平成27年に発生した主な竜巻等の突風.....	25
資料1-2-3	平成27年(2015年)激甚災害指定状況一覧表.....	26
2	平成27年(2015年) 台風の概要.....	28
2-1	平成27年(2015年)に発生した台風	28
資料2-1-1	台風発生数一覧表	29
資料2-1-2	日本への台風上陸数一覧表.....	30
資料2-1-3	日本への台風接近数一覧表.....	31
資料2-1-4	北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表.....	32
資料2-1-5	平成27年(2015年)に発生した台風の一覧表.....	33
2-2	平成27年(2015年)に日本に影響した主な台風.....	34
資料2-2-1	平成27年(2015年)に日本に影響した台風の概要表	37
資料2-2-2	平成27年(2015年)に発生した台風の経路図.....	38
3	平成27年(2015年)の天気概況	44

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 27 年(2015 年)の気象災害

1-1 気象の特徴

○ 年平均気温は全国的に高く、北日本と沖縄・奄美ではかなり高い。ただし、西日本は 2 年連続の冷夏

夏から秋の一時期を除き、全国的に高温傾向が続いた。3 月は北日本で、5 月は北・東日本で、6 月と 11 月は沖縄・奄美で、12 月は東日本で記録的な高温となった。夏から秋にかけては西日本中心に低温の時期があり、西日本は 2 年連続の冷夏となった。年平均気温は、北日本と沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。

○ 年降水量は、西日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側が多い。また、「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」が発生

西日本では、夏に前線や台風、湿った気流の影響を受けやすく降水量が多かったことなどから年降水量が多く、西日本太平洋側では、かなり多かった。また、9 月に関東地方や東北地方で記録的な大雨（「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」と命名）となったことなどにより東日本太平洋側でも年降水量が多かった。一方、東日本日本海側では、夏の降水量がかなり少なかったことから、年降水量は少なかった。

○ 年間日照時間は、北日本と東日本日本海側で多く、西日本で少ない

北・東日本では、春の後半や秋の中頃に晴れの日が多く、日照時間がかなり多くなったことなどから、北日本と東日本日本海側では、年間日照時間が多かった。一方、西日本では夏に日照時間が少なかったことなどから、年間日照時間は少なかった。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成 27 年(2015 年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生期日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述した。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種類、< >内に気圧配置などの気象状況を記した。災害の種類別(大雨、大雪、暴風、突風、高波、高潮など)の一覧表を表 1. 1 に示す。

被害の具体的な数値は、内閣府、総務省消防庁、国土交通省の資料および地方気象台等が国や都道府県の防災機関等から入手し気象庁観測部情報管理室が取りまとめた資料による。また、地方気象台等が行った突風の被害状況等調査報告等も参考にした。

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(4)、(5)、(6)、(7)、(8)、(10)、(11)、(12)、(13)、(15)
大雪	(3)
暴風(暴風雪を含む)	(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(8)、(12)、(13)、(15)
突風(竜巻を含む)	(4)、(5)、(6)、(7)、(9)、(14)
高波	(1)、(3)、(4)、(5)、(6)、(8)、(12)、(13)、(15)
高潮	(8)、(15)

(1)1月7日～1月9日:東日本から北日本(暴風雪、高波)＜低気圧、冬型＞

1月7日から9日にかけては、オホーツク海に発達した低気圧が千島近海に発生した低気圧と一つにまとまって東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となった。これらにより、東日本や北日本では強風となり、北海道では暴風となったほか、北陸地方や北日本日本海側で大しけとなった。

この影響で、北日本で鉄道の運休や航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な最大風速]

1月7日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	33.3	m/s	西	[17:15]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	24.4	m/s	西北西	[08:16]
	北海道室蘭市室蘭(ムロラン)	23.7	m/s	西	[12:36]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	22.0	m/s	西北西	[02:40]
	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	20.5	m/s	西北西	[08:58]
1月8日	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤサキ)	21.1	m/s	北北西	[07:04]
1月9日	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	17.0	m/s	西北西	[17:33]

(2)3月2日:東日本から北日本(暴風雪)＜冬型＞

3月2日は、三陸沖の前線を伴う低気圧が発達しながら千島近海へ進み、日本付近は一時的に冬型の気圧配置となった。この影響で、近畿地方の日本海側から北日本にかけて雨や雪が降り、北海道を中心に暴風や強風となったところがあった。長野県では、強風や着雪による大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な最大風速]

3月2日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	22.2	m/s	西	[14:43]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.1	m/s	西	[12:08]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	20.0	m/s	西北西	[02:59]

(3)3月9日～3月12日:山陰から北日本(暴風雪、大雪、高波)＜低気圧、冬型＞

3月9日から10日にかけて、本州南岸を前線を伴った低気圧が発達しながら北東へ進み、日本海を北東に進んだ低気圧と北海道付近で一つにまとまって、日本付近は冬型の気圧配置となった。その後、低気圧は北海道付近にはほぼ停滞した後、千島近海へ進んだ。このため、沖縄・奄美で雨、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、北日本を中心に一部で大雪となった。また、全国的に暴風や強風となったところがあり、山陰や北陸、北日本では大しけとなったところがあった。

これらの影響により、山陰や北日本を中心に住家被害が生じたほか、停電や道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な最大風速]

3月9日	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	23.9	m/s	北西	[11:54]
3月10日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	27.6	m/s	西	[23:15]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	27.2	m/s	西	[16:56]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	22.5	m/s	西北西	[19:15]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	22.2	m/s	西南西	[15:36]
	新潟県佐渡市相川(アイカリ)	21.8	m/s	西北西	[19:01]

	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.2	m/s	西北西	[04:00]
	宮城県石巻市石巻(イシノマキ)	20.4	m/s	東南東	[01:11]
	秋田県にかほ市にかほ(ニカホ)	20.2	m/s	西南西	[16:47]
3月11日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	27.7	m/s	西	[03:13]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	25.6	m/s	西南西	[07:44]
	新潟県佐渡市相川(アイカワ)	21.6	m/s	西北西	[00:58]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	21.1	m/s	西南西	[09:32]
	秋田県にかほ市にかほ(ニカホ)	20.4	m/s	西南西	[03:41]
3月12日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	23.7	m/s	西南西	[00:50]

[主な日降雪量]

3月10日	岐阜県白川村白川(シラカワ)	60	cm	北海道平取町旭(アサヒ)	51	cm
	長野県小谷村小谷(オタリ)	49	cm	富山県富山市猪谷(イノタニ)	45	cm
	広島県庄原市高野(タカノ)	41	cm	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	37	cm
	鳥取県大山町大山(ダイセン)	35	cm	新潟県妙高市関山(セキヤマ)	34	cm
	福島県桧枝岐村桧枝岐(ヒノエマタ)	31	cm	岩手県宮古市区界(クサガキ)	30	cm
3月11日	福島県西会津町西会津(ニシアイツ)	56	cm	北海道七飯町大沼(オオヌマ)	47	cm
	岩手県雫石町雫石(シズクイシ)	43	cm	新潟県魚沼市守門(スモン)	37	cm
	岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	34	cm			
3月12日	北海道赤井川村赤井川(アカイカワ)	63	cm	山形県小国町小国(オクニ)	49	cm
	福島県金山町金山(カネヤマ)	46	cm	新潟県阿賀町津川(ツカワ)	40	cm

(4)5月11日～5月13日:沖縄・奄美から東日本(大雨、暴風、高波、突風)＜低気圧、台風第6号＞

5月4日03時にカロリン諸島で発生した台風第6号は、11日から12日にかけて南西諸島付近を北東に進み、12日15時に種子島の東の海上で温帯低気圧に変わった。その後、13日にかけて、台風から変わった低気圧は、前線を伴って本州南岸を進み、三陸沖を通過して千島近海に達した。このため、全国的に雨が降り、南西諸島や四国地方、近畿地方、東海地方で日降水量100ミリを超える大雨となったところがあった。また、南西諸島から東日本にかけて、一部で暴風や強風となり、南西諸島では大しけとなった。

これらの影響で、東日本を中心に住家被害が生じ、沖縄・奄美から東日本にかけての各地で停電や道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。このほか、12日には、台風に伴って南から暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が非常に不安定となったため、鹿児島県伊仙町で強さが藤田スケールでF1の竜巻が発生し、負傷者6名の人的被害や全壊を含む住家被害が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

5月11日	沖縄県石垣市川平(カヒラ)	147.5	mm			
5月12日	静岡県富士市富士(フジ)	149.0	mm	高知県本山町本山(モトヤマ)	148.5	mm
	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	130.0	mm	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	118.0	mm
	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	113.5	mm	和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	104.5	mm
5月13日	北海道美瑛町白金(シロガネ)	33.0	mm			

[主な最大風速]

5月11日	沖縄県石垣市石垣島(イシガキジマ)	28.8	m/s	北西	[23:44]
5月12日	沖縄県宮古島市下地(シモン)	45.8	m/s	西南西	[01:19]

	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	30.9	m/s	南	[10:39]
	東京都大田区羽田(ハネダ)	26.3	m/s	南	[23:05]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	22.8	m/s	南南東	[15:08]
	静岡県南伊豆町石廊崎(イロウザキ)	21.4	m/s	南南西	[22:08]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	21.2	m/s	南	[12:53]
	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	20.1	m/s	南	[23:07]
5月13日	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	19.6	m/s	南南西	[01:15]

(5)6月2日～7月26日:全国(大雨、暴風、高波、突風)＜梅雨前線、台風第9号、台風第11号、台風第12号、大気不安定＞

6月2日から7月26日にかけて、日本付近に停滞する梅雨前線の活動が断続的に活発となった。また、この間、7月9日から10日にかけて、台風第9号が沖縄地方に接近したほか、7月16日から17日にかけて台風第11号が、7月23日から26日にかけて台風第12号が日本に接近し上陸した。

台風や前線、暖かく湿った空気の影響により、全国各地で大雨となった。6月2日から7月26日にかけての総降水量は、九州南部・奄美地方で総降水量2000ミリを超えた。また、6月と7月の月別降水量平年値の合計との比較では、鹿児島県伊仙町伊仙で3倍を超えたほか、鹿児島県を中心に多くの地点で2倍を超え、記録的な大雨となった。最大1時間降水量は、九州南部・奄美地方、四国地方及び東北北部で、80ミリ以上の猛烈な雨を観測したところがあった。

また、台風の影響により、沖縄・奄美や四国地方、近畿地方で猛烈な風や非常に強い風を観測し、海は猛烈なしけや大しけとなった。

一方、前線の影響などにより大気の状態が非常に不安定となったため、京都府、群馬県、茨城県、山形県、岩手県でダウンバースト等の突風が発生した。

6月2日から6月4日まで

6月2日から3日にかけて、日本の南海上の梅雨前線が北上して九州付近から本州南岸にかけて停滞し、3日から4日にかけて、この前線上を低気圧が次々と東に進んだ。また、日本海に低気圧が発生し、前線を伴い北東に進んだ。これらの影響で、九州の多いところで日降水量200ミリを超え、四国地方や近畿地方、北海道地方でも多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月2日	熊本県天草市本渡(ホト)	104.5	mm		
6月3日	宮崎県えびの市加久藤(カトウ)	209.5	mm	熊本県五木村五木(イツキ)	205.5
	鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	193.0	mm	高知県土佐清水市三崎(ミサキ)	182.5
	和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	161.5	mm	北海道岩見沢市栗沢(クリザワ)	109.0
	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	104.5	mm	愛媛県内子町獅子越峠(シシゴエトウゲ)	101.5
6月4日	北海道標津町糸櫛別(イトキシベツ)	37.0	mm		

6月5日から6月6日まで

6月5日から6日にかけて、梅雨前線上の低気圧が、九州南部を通過し本州南岸を東に進んだ。その後、前線は沖縄地方まで南下した。これらの影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨が降った。

[主な日降水量]

6月5日	宮崎県串間市串間(クシマ)	99.0	mm
------	---------------	------	----

6月6日 沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ) 59.5 mm

6月7日から6月9日まで

6月7日から8日にかけて、梅雨前線が南西諸島から九州付近まで北上し、その後、9日にかけて前線上の低気圧が西日本から東日本を東に進んだ。これらの影響で、九州南部・奄美地方や近畿地方、東海地方、伊豆諸島の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月7日	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	171.0 mm		
6月8日	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	128.0 mm	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	123.5 mm
6月9日	鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)	172.5 mm	和歌山県田辺市栗栖川(クリガワ)	131.5 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	110.5 mm	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	110.0 mm

6月10日から6月12日まで

6月10日から12日にかけて、梅雨前線が九州付近に停滞した。この影響で、九州の多いところで日降水量が300ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

この大雨により、九州で土砂災害、浸水害、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成27年6月12日現在の国土交通省の情報による)

[主な日降水量]

6月10日	鹿児島県南大隅町佐多(サタ)	136.0 mm		
6月11日	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	306.5 mm	熊本県山都町山都(ヤマト)	244.0 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	189.0 mm	鹿児島県霧島市牧之原(マキノハラ)	165.0 mm
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	147.5 mm	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	121.5 mm
	高知県四万十町大正(タイショウ)	112.0 mm	和歌山県串本町潮岬(シオバサキ)	101.5 mm
6月12日	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	86.5 mm		

6月13日から6月18日まで

6月13日から18日にかけて、梅雨前線が九州南部から本州南岸にかけて停滞した。15日から17日にかけては、この前線上を次々に低気圧が東に進んだ影響で、九州南部や伊豆諸島で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、18日は前線上の別の低気圧が九州付近から東に進み、この低気圧や湿った空気の影響で、九州や四国地方、東海地方、関東地方北部の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

一方、6月15日から16日にかけて、上空の寒気や前線の影響で大気の状態が不安定となったため、群馬県や岩手県、京都府で竜巻等の突風が発生した。特に群馬県前橋市から伊勢崎市にかけて、強さが藤田スケールでF1のダウンバーストが発生し、負傷者2名の人的被害等が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

6月13日	鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	117.0 mm		
6月14日	鹿児島県指宿市指宿(イブスキ)	121.5 mm		
6月15日	鹿児島県屋久島町尾之間(オアイト)	116.5 mm		
6月16日	鹿児島県肝付町肝付前田(キモツキマエタ)	158.0 mm	東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	109.0 mm
6月17日	鹿児島県南種子町上中(カナカ)	80.5 mm		
6月18日	群馬県高崎市榛名山(ハルナサン)	167.0 mm	高知県土佐清水市清水(シミス)	141.5 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	135.0 mm	熊本県人吉市人吉(ヒトヨシ)	120.0 mm
	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	102.5 mm	鹿児島県錦江町田代(タシロ)	102.5 mm

6月19日から6月21日まで

6月19日から21日にかけて、梅雨前線が南西諸島から日本の南海上にかけて停滞した影響で、奄美地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、前線の北側では上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、北陸地方の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月19日	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	196.0 mm
6月20日	沖縄県読谷村読谷(ヨミタン)	75.5 mm
6月21日	石川県白山市白山河内(ハクサンカワチ)	102.5 mm

6月22日から6月25日まで

6月22日に梅雨前線が九州の南海上を北上し、23日から25日にかけて九州南部付近に停滞した。このため、九州南部の多いところで日降水量が300ミリを超える大雨となった。

この大雨の影響で、鹿児島県を中心に土砂災害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が生じた。(被害状況は、平成27年6月29日現在の国土交通省の情報による)

[主な日降水量]

6月22日	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	86.0 mm
6月23日	鹿児島県奄美市名瀬(ナセ)	172.5 mm
6月24日	鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイダ)	217.5 mm
6月25日	鹿児島県中種子町中種子(ナカタネ)	329.0 mm
	宮崎県日南市油津(アブラツ)	109.5 mm

6月26日から6月28日まで

6月26日は、前線が北上して西日本付近に停滞し、また、日本海西部に低気圧が発生してほぼ停滞した。27日から28日にかけては、前線が日本の南海上に南下し、前線上の伊豆諸島付近に低気圧が発生して北東に進んだ。一方、日本海の低気圧は秋田沖へ進んだのち、消滅した。これらの影響で、東北地方では多いところで日降水量が200ミリを超える大雨となったほか、奄美地方や九州北部地方、中国地方、東海地方、北日本では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月26日	岐阜県揖斐川町揖斐川(ヒガワ)	141.0 mm	三重県亀山市亀山(カヤマ)	130.0 mm
	山口県周南市和田(ワダ)	122.5 mm	島根県隠岐の島町西郷(サイコウ)	105.0 mm
6月27日	岩手県普代村普代(フダイ)	206.0 mm	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガダケ)	164.5 mm
	秋田県男鹿市男鹿真山(オガシサン)	121.5 mm	青森県七戸町七戸(シチノヘ)	113.5 mm
	北海道知内町知内(シノウチ)	105.5 mm		
6月28日	岩手県岩泉町小本(オモト)	187.0 mm	鹿児島県十島村諏訪之瀬島(スワノセジマ)	167.5 mm

6月29日から7月1日まで

6月29日は南西諸島に前線が停滞し、30日から7月1日にかけては前線上の低気圧が黄海から、本州を通過して三陸沖に進み、前線も本州付近まで北上した。これらの影響で、日降水量が奄美地方の多いところで300ミリ、九州の多いところで200ミリを超えたほか、西日本や東日本の各地で100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月29日	鹿児島県伊仙町伊仙(イセン)	390.0 mm		
6月30日	鹿児島県十島村諏訪之瀬島(スワノセジマ)	134.0 mm	熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ)	103.5 mm

7月1日	熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ)	204.0 mm	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	197.5 mm
	岐阜県揖斐川町揖斐川(イビガワ)	136.5 mm	東京都利島村利島(トシマ)	128.0 mm
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	124.5 mm	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	123.0 mm
	静岡県静岡市葵区井川(イカワ)	121.0 mm	愛媛県西予市宇和(ウワ)	120.0 mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	116.0 mm	鹿児島県十島村諏訪之瀬島(スワノセジマ)	104.5 mm

7月2日から7月6日まで

7月2日から6日にかけて、九州の南海上から本州南岸にかけて梅雨前線が停滞した。この前線の影響で、奄美地方の多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、九州南部や本州太平洋側を中心に日降水量100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月2日	鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	245.5 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	103.5 mm
7月3日	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	161.0 mm	東京都利島村利島(トシマ)	139.0 mm
	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	137.0 mm	山梨県南部町南部(ナンブ)	122.0 mm
	千葉県千葉市中央区千葉(チバ)	115.5 mm	鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	111.0 mm
	和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	104.0 mm	愛知県新城市新城(シンシロ)	101.0 mm
7月4日	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	176.5 mm	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	125.0 mm
7月5日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	120.5 mm		
7月6日	鹿児島県南さつま市加世田(カセダ)	107.0 mm		

7月7日から7月10日まで

7月7日から9日にかけて、梅雨前線が九州付近では北上し、中国地方付近から東日本の南岸にかけて停滞した。一方、台風第9号は、9日には非常に強い勢力に発達し、沖縄の南海上を北西に進み、10日午前中に宮古島と久米島の間を進んだ。

梅雨前線や台風の影響で、日降水量が沖縄本島地方の多いところで200ミリ、九州や伊豆諸島の多いところで100ミリを超える大雨となったほか、沖縄地方で猛烈な風、奄美地方で非常に強い風を観測したところがあった。また、9日から10日にかけて、沖縄近海の台風中心付近では猛烈なしけとなった。

[主な日降水量]

7月7日	長崎県五島市福江(フクエ)	145.0 mm		
7月8日	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	89.5 mm		
7月9日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	113.0 mm		
7月10日	沖縄県本部町本部(モトブ)	270.0 mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロシジマ)	113.0 mm

[主な最大風速]

7月9日	沖縄県南城市糸数(イトカス)	32.9 m/s	東	[23:46]
	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	21.6 m/s	東南東	[20:54]
7月10日	沖縄県南城市糸数(イトカス)	33.0 m/s	東	[01:28]
	鹿児島県与論町与論島(ヨロシジマ)	23.3 m/s	東南東	[11:55]

7月11日から7月14日まで

7月11日から12日にかけて、台風第9号が東シナ海から黄海を北上し、暖かく湿った空気が南西諸島や西日本を中心に流れ込んだ。その後13日09時に、台風は朝鮮半島北部で温帯低気圧に変わった。また、13日に沿海州で前線上に発生した温帯低気圧が、14日にかけて東へ進んで宗谷海峡付近に達し、暖かく湿った空

気が西日本や北海道地方を中心に流れ込んだ。これらの影響で、九州や四国地方、北海道地方の多いところで日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月11日	宮崎県西米良村西米良(ニシメヲ)	143.5 mm	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	113.5 mm
	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラフ)	104.5 mm		
7月12日	宮崎県美郷町神門(ミカト)	198.0 mm	高知県いの町本川(ホシカワ)	133.5 mm
	長崎県五島市福江(フクエ)	111.0 mm		
7月13日	熊本県天草市牛深(ウシヅカ)	165.0 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	156.0 mm
	北海道猿払村浜鬼志別(ハマオニシベツ)	139.5 mm	鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ)	121.0 mm
	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	103.5 mm		
7月14日	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	107.5 mm		

7月15日から7月18日まで

7月4日03時にマーシャル諸島近海で発生した台風第11号は、日本の南海上を北上し、16日23時頃、大型で強い勢力を保ったまま高知県室戸市付近に上陸した。台風は引き続き北上を続け、17日06時頃、岡山県倉敷市付近に再び上陸した。その後、台風は進路を北東に変え、同日21時に日本海で熱帯低気圧に変わった。この台風や台風に向かって流れ込む湿った空気の影響で、15日から18日にかけての総降水量は、近畿地方の多いところで700ミリ、四国地方の多いところで600ミリを超えたほか、近畿地方の10地点で、日降水量が統計開始以来の1位の値を更新するなど、西日本や東日本の各地で記録的な大雨となった。また、台風の接近や上陸に伴い、四国地方で猛烈な風を観測したほか、近畿地方で非常に強い風を観測し、太平洋側を中心に広い範囲で大しけとなり、特に、東海地方から四国地方の太平洋側で猛烈なしけとなった。さらに、南から湿った空気が流れ込んで大気の状態が非常に不安定となったため、15日には山形県、16日には茨城県で突風が発生した。

この台風の影響で、土砂災害や浸水害が発生し、兵庫県と埼玉県であわせて死者2名となったほか、四国地方や中国地方、近畿地方、東日本を中心に400棟を超す住家被害が生じた。また、各地で停電、水道被害、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行止め、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成27年9月4日現在の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

7月15日	福島県金山町金山(カネヤマ)	37.0 mm		
7月16日	奈良県上北山村上北山(カキタヤマ)	521.5 mm	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	495.5 mm
	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	425.0 mm	和歌山県田辺市本宮(ホングウ)	381.5 mm
	神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	366.5 mm	三重県大台町宮川(ミヤカワ)	354.0 mm
	山梨県上野原市上野原(ウエノハラ)	296.5 mm	静岡県静岡市葵区井川(イカワ)	263.0 mm
	東京都奥多摩町小河内(オゴウチ)	247.0 mm	埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	201.5 mm
	福島県川内村川内(カノウチ)	190.5 mm	栃木県佐野市葛生(クスウ)	173.5 mm
	群馬県館林市館林(タテバヤシ)	169.5 mm	長野県阿南町阿南(アナン)	159.0 mm
	愛知県豊田市阿蔵(アゾウ)	159.0 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	155.0 mm
	香川県高松市香南(コウナン)	144.0 mm	茨城県北茨城市花園(ハナゾノ)	127.0 mm
7月17日	和歌山県湯浅町湯浅(ユアサ)	358.0 mm	三重県大台町宮川(ミヤカワ)	319.0 mm
	兵庫県洲本市洲本(スモト)	319.0 mm	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	316.5 mm
	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	215.0 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	210.5 mm
	大阪府茨木市茨木(イバラキ)	209.5 mm	京都府長岡京市長岡京(ナガオカキョウ)	194.0 mm

	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	184.5 mm	岡山県瀬戸内市虫明(ムシアケ)	178.0 mm
	香川県小豆島町内海(ウチノ)	164.5 mm	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	134.0 mm
	静岡県川根本町川根本町(カワネホンチョウ)	121.5 mm	鳥取県大山町大山(ダイセン)	103.5 mm
7月18日	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	158.5 mm	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	128.5 mm
	和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	126.0 mm	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	113.0 mm
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	101.0 mm		

[主な最大風速]

7月15日	東京都小笠原村父島(チチジマ)	15.7 m/s	南南東	[22:41]
7月16日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	33.2 m/s	南西	[23:59]
	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	29.7 m/s	東	[22:37]
	和歌山県白浜町南紀白浜(ナンキシラハマ)	25.5 m/s	南東	[21:55]
7月17日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	33.9 m/s	南西	[00:13]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.3 m/s	南南東	[06:17]
7月18日	沖縄県南大東村南大東(ミナミダイトウ)	15.7 m/s	南南東	[23:21]

7月19日から7月23日まで

7月19日から20日にかけて、熱帯低気圧が九州の西海上を北上し、暖かく湿った空気が南西諸島や西日本に流れ込んだ。また、19日から23日にかけて北日本に梅雨前線が停滞した。熱帯低気圧の影響で、日降水量が九州南部・奄美地方の多いところで300ミリ、沖縄地方の多いところで200ミリを超えたほか、南西諸島や西日本日本海側の多くの地点で日降水量100ミリを超える大雨となった。また、前線の影響で、東日本から北日本にかけての多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

一方、22日には、暖かく湿った空気の流れ込みによって大気の状態が非常に不安定となり、山形県の複数の市町で強さが藤田スケールでF0からF1の突風が発生し、負傷者1名の人的被害や住家被害、停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

7月19日	高知県仁淀川町池川(イケガワ)	161.5 mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロシジマ)	155.0 mm
	沖縄県南大東村南大東(ミナミダイトウ)	128.0 mm	沖縄県伊是名村伊是名(イゼナ)	106.0 mm
7月20日	鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイダ)	318.0 mm	沖縄県東村東(ヒガシ)	255.5 mm
	福島県塙町東白川(ヒガシシラカワ)	110.0 mm		
7月21日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	310.5 mm	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	134.0 mm
	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	133.5 mm		
7月22日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	193.0 mm	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	180.0 mm
	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンザン)	146.5 mm	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	141.5 mm
	長崎県長崎市長浦岳(ナガウラダケ)	134.0 mm	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	119.0 mm
	鹿児島県南大隅町佐多(サタ)	117.0 mm	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	116.5 mm
	北海道幌加内町朱鞠内(シュマリナイ)	113.0 mm	熊本県山都町山都(ヤマト)	108.0 mm
7月23日	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	142.0 mm	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	133.5 mm
	秋田県秋田市仁別(ニベツ)	108.5 mm		

7月24日から7月26日まで

7月13日03時に、発達した熱帯低気圧が東経180度を越えて北西太平洋に進み、台風第12号となった。台風は17日09時に熱帯低気圧に変わったが、その後再発達し、20日03時に北マリアナ諸島の東の海上で

再び台風第12号となった。台風第12号は、23日から25日にかけて、沖縄・奄美に接近し、その後、26日に九州の西海上を北上して同日18時頃に長崎県西海市付近を通過、同日19時頃長崎県佐世保市付近に上陸し、同日21時に対馬海峡で熱帯低気圧に変わった。この台風の影響で、25日に鹿児島県伊仙町伊仙で1時間に114.5ミリの猛烈な雨を観測したほか、日降水量が奄美地方の多いところで300ミリ、沖縄本島地方の多いところで200ミリを超える大雨となった。また、大東島地方や奄美地方で猛烈な風を観測した。また、台風の接近に伴い、24日から26日にかけて、大東島地方や奄美地方、九州の南海上では大しけとなった。一方、前線が引き続き北日本に停滞した影響で、東北北部の多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

台風第12号の影響で、鹿児島県で住家の浸水が発生したほか、道路の通行不能やフェリーの欠航等の交通障害が発生した。また、前線による大雨の影響で、秋田県で河川の堤防が決壊し、浸水害が発生した。(被害状況は、平成27年7月27日現在の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

7月24日	秋田県東成瀬村東成瀬(ヒガシナルセ)	61.0	mm		
7月25日	鹿児島県伊仙町伊仙(イセン)	347.5	mm	沖縄県国頭村奥(オク)	251.0 mm
	秋田県仙北市角館(カクノダテ)	182.5	mm	岩手県西和賀町沢内(サワウチ)	166.0 mm
7月26日	鹿児島県十島村宝島(タカラジマ)	102.0	mm		

[主な最大風速]

7月24日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	20.6	m/s	東北東	[17:54]
7月25日	沖縄県南大東村南大東(ミナダイトウ)	31.7	m/s	南南東	[06:11]
	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	29.0	m/s	南	[22:44]
7月26日	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	31.6	m/s	南南西	[00:15]

(6)8月6日～8月12日:南西諸島から東日本(大雨、暴風、高波、突風)＜台風第13号、台風第14号＞

8月1日15時にマリアナ諸島の東の海上で発生した台風第13号は、西北西に進み、7日から8日にかけて先島諸島に接近した。また、8月7日15時に小笠原諸島の南東の海上で発生した台風第14号は、小笠原近海で進路を北に変え、その後速度を上げながら北東に進んだ。

台風第13号の影響で、八重山地方を中心に住家被害が発生したほか、停電、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。また、8日には沖縄県石垣市で強さが藤田スケールでF0の竜巻と見られる突風が発生し、負傷者2名となったほか住家屋根の飛散等の被害が発生した。一方、台風第14号の影響で、東京都小笠原村母島で8日の日降水量が214.0ミリとなる大雨となった。10日から12日にかけては、台風や台風から変わった熱帯低気圧による高波の影響により、沖縄県、徳島県、千葉県であわせて7名が海で流され死亡した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月6日	三重県紀北町紀伊長島(キイガシマ)	101.0	mm		
8月7日	沖縄県石垣市石垣島(シガキジマ)	110.5	mm		
8月8日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	384.5	mm	東京都小笠原村母島(ハハジマ)	214.0 mm
8月9日	東京都小笠原村父島(チチジマ)	72.5	mm		
8月10日	北海道標茶町標茶(シベチャ)	169.0	mm		
8月11日	宮城県大衡村大衡(オオヒラ)	78.0	mm		
8月12日	長崎県大村市大村(オオムラ)	231.0	mm	佐賀県白石町白石(シロイシ)	140.0 mm
	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	116.0	mm		

[主な最大風速]

8月6日	沖縄県南城市糸数(トカズ)	16.2 m/s	東	[21:43]
8月7日	沖縄県竹富町大原(オオハラ)	36.9 m/s	東	[23:51]
8月8日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	45.1 m/s	南東	[03:20]
8月9日	東京都小笠原村父島(チヂジマ)	17.5 m/s	南南東	[01:32]
8月10日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	14.0 m/s	東北東	[12:49]
8月11日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	12.8 m/s	北東	[04:53]
8月12日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	19.1 m/s	西南西	[22:35]

(7)8月17日:東日本(大雨、突風)＜大気不安定＞

8月17日は、前線が九州付近から関東付近にかけて停滞し、低気圧が日本海中部を北東へ進んだ。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった影響で、東海地方で200ミリを超える大雨となった。また、東海地方や関東地方を中心に突風が発生し、停電や住家被害が発生した。特に神奈川県藤沢市から横浜市にかけて強さが藤田スケールでF0の竜巻が発生し負傷者2名となり、30棟を超える住家被害が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月17日	岐阜県郡上市八幡(ハチマン)	210.0 mm	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガタケ)	170.0 mm
	三重県桑名市桑名(クワナ)	156.5 mm	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	149.5 mm
	愛知県愛西市愛西(アイサイ)	140.5 mm	静岡県静岡市葵区井川(イカワ)	136.5 mm
	群馬県高崎市榛名山(ハルナサン)	130.0 mm	和歌山県白浜町日置川(ヒキガワ)	125.5 mm
	鹿児島県南大隅町佐多(サタ)	117.5 mm	山梨県南部町南部(ナンブ)	113.5 mm
	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	111.5 mm	埼玉県熊谷市熊谷(クマガヤ)	105.0 mm

(8)8月21日～8月26日:沖縄・奄美から東日本(大雨、暴風、高波、高潮)＜台風第15号、台風第16号＞

8月21日から22日にかけて、本州付近に前線が停滞し、前線上の低気圧が対馬海峡から秋田沖へ進んだ。また、8月15日03時にグアム島の東の海上で発生した台風第15号が、沖縄の南海上を北上して、23日に非常に強い勢力で西表島付近を通過した。その後、台風は進路を北東に変え、25日04時過ぎに鹿児島県阿久根市付近、同日05時過ぎに熊本県宇城市付近を通過した後、同日06時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸した。台風は、日本海に抜けた後、25日21時に隠岐諸島の北西の海上で温帯低気圧に変わった。このため、沖縄県石垣市石垣島で23日21時16分に71.0メートルの最大瞬間風速を観測するなど、南西諸島や九州を中心に猛烈な風が吹き、海上は猛烈なしけとなったほか、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、西日本では大雨となったところがあった。一方、台風第16号が、21日から23日にかけて小笠原諸島の東の海上を通り、その後、北東へ進んだ。これらの台風の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で風が強く、うねりを伴い波が高くなり、一部で高潮となったところがあった。

台風第15号の影響により、熊本県で死者1名となり、九州を中心に2000棟を超える住家被害が生じた。また、熊本県で集落が孤立したほか、各地で停電、水道被害、電話の不通等ライフラインへの被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。(被害状況は、9月8日現在の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

8月21日	長崎県対馬市鱒浦(ワユラ)	88.5 mm
8月22日	岩手県普代村普代(フダイ)	88.5 mm
8月23日	沖縄県石垣市石垣島(シガキジマ)	241.0 mm

8月24日	鹿児島県肝付町肝付前田(キモツキマエタ)	146.0 mm	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	142.0 mm
	宮崎県都農町都農(ツノ)	116.0 mm		
8月25日	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	667.5 mm	奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	331.5 mm
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	288.0 mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	251.5 mm
	宮崎県椎葉村椎葉(シイハ)	247.5 mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	245.0 mm
	高知県仁淀川町鳥形山(トリカタヤマ)	239.5 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジュシヤ)	216.5 mm
	広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ)	209.5 mm	山口県岩国市羅漢山(ラカンザン)	190.0 mm
	鹿児島県薩摩川内市中甕(ナカコシキ)	189.0 mm	和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	177.0 mm
	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	176.5 mm	福岡県北九州市小倉南区東谷(ヒガシタニ)	159.5 mm
	島根県吉賀町吉賀(ヨシカ)	146.0 mm	佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	115.5 mm
	兵庫県香美町兎野高原(ウツノコウゲン)	104.0 mm		
8月26日	東京都大島町大島泉津(オオシマセンヅ)	116.0 mm		

[主な最大風速]

8月21日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	13.6 m/s	南南東	[19:52]
8月22日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	15.0 m/s	北東	[13:10]
8月23日	沖縄県石垣市石垣島(イシガキジマ)	47.9 m/s	南西	[22:21]
8月24日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	40.7 m/s	南	[10:21]
	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	26.7 m/s	南	[20:34]
8月25日	鹿児島県枕崎市枕崎(マクラサキ)	32.2 m/s	南南東	[02:27]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	31.2 m/s	南南東	[08:50]
	福岡県北九州市小倉南区空港北町(クウクキタマチ)	29.5 m/s	東北東	[07:19]
	山口県宇部市宇部(ウヘ)	28.6 m/s	東	[07:59]
	熊本県人吉市人吉(ヒトヨシ)	26.5 m/s	東南東	[04:32]
	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	25.9 m/s	南南東	[04:49]
	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	25.0 m/s	南南東	[06:18]
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	25.0 m/s	北東	[04:43]
	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	24.4 m/s	北北東	[06:16]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	23.1 m/s	東南東	[20:58]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	22.8 m/s	南南東	[15:49]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	22.4 m/s	南	[13:47]
	島根県隠岐の島町西郷(サイコウ)	21.9 m/s	東	[16:07]
	徳島県阿南市蒲生田(カモダ)	20.8 m/s	東南東	[09:13]
	福井県敦賀市敦賀(ツルガ)	20.4 m/s	南東	[17:49]
8月26日	島根県隠岐の島町西郷岬(サイコウサキ)	21.9 m/s	南南西	[00:32]

(9)9月6日:近畿地方から東日本(突風)＜前線＞

9月6日は、九州付近から関東付近にかけて前線がのび、前線上を低気圧が東へ進んだ。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となり、近畿地方や東日本で竜巻等の突風が発生した。特に、千葉県千葉市では強さが藤田スケールでF1の竜巻が発生し、全壊4棟を含む約100棟の住家被害等が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

(10)9月7日～9月11日:全国(大雨)<台風第18号、台風第17号、暖湿気>

9月7日21時に小笠原諸島の西の海上で台風第18号が発生し、日本の南海上を北上した後、9日09時半頃に愛知県西尾市付近に上陸した。その後、台風は日本海に進み、同日15時に温帯低気圧に変わった。

台風第18号や前線の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に9日から11日にかけては、台風第18号から変わった低気圧に流れ込む南よりの風、後には台風第17号の周辺からの南東風が主体となり、湿った空気が流れ込み続けた影響で、多数の線状降水帯が次々と発生し、関東地方と東北地方では記録的な大雨となった。7日から11日までの総雨量は、関東地方で600ミリ、東北地方で500ミリを超えたほか、9月の月降水量の平年値の2倍を超える大雨となったところがあった。

この大雨により、土砂災害、浸水、河川の氾濫等が発生し、宮城県、茨城県及び栃木県であわせて死者8名の人的被害となったほか、関東地方や東北地方を中心に損壊家屋6,000棟以上、浸水家屋12,000棟以上の住家被害が生じた。このほか、各地で停電、水道被害、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成28年1月12日現在の内閣府の情報による)

9月9日から11日にかけて関東地方及び東北地方で発生し甚大な被害をもたらした大雨について、気象庁は「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名した。

[主な日降水量]

9月7日	静岡県御前崎市御前崎(オマエサキ)	117.0 mm		
9月8日	静岡県浜松市中区浜松(ハママツ)	219.0 mm	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	203.0 mm
	鳥取県鳥取市鹿野(シカノ)	198.0 mm	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	160.5 mm
	愛知県新城市新城(シンシロ)	114.0 mm	和歌山県新宮市新宮(シングウ)	113.5 mm
	奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	107.5 mm		
9月9日	栃木県日光市土呂部(トロボ)	405.5 mm	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	273.0 mm
	三重県鳥羽市鳥羽(トバ)	247.0 mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	220.0 mm
	茨城県古河市古河(コガ)	214.5 mm	埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	207.0 mm
	群馬県高崎市榛名山(ハルナサン)	192.0 mm	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	182.0 mm
	宮城県丸森町筆甫(ヒツポ)	173.5 mm	東京都檜原村小沢(オザワ)	170.5 mm
	山梨県富士河口湖町河口湖(カワグチコ)	162.5 mm	島根県浜田市弥栄(ヤサカ)	137.0 mm
	鳥取県大山町大山(ダイセン)	129.0 mm	愛知県田原市伊良湖(イラコ)	123.5 mm
	滋賀県甲賀市土山(ツチヤマ)	121.0 mm	香川県三豊市財田(サイタ)	114.5 mm
	大阪府堺市堺区堺(サカイ)	112.0 mm	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	108.5 mm
	福井県南越前町今庄(イマシヨウ)	100.0 mm		
9月10日	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガタケ)	265.5 mm	栃木県日光市五十里(イカリ)	265.0 mm
	福島県川内村川内(カウチ)	213.0 mm	千葉県市原市牛久(ウシク)	158.0 mm
	茨城県つくば市つくば(ツクバ)	140.0 mm	山形県最上町向町(ムカイマチ)	132.0 mm
	岩手県大槌町大槌(オオツチ)	131.5 mm		
9月11日	宮城県大衡村大衡(オオヒラ)	168.5 mm	福島県南相馬市原町(ハラマチ)	130.5 mm
	青森県東通村小田野沢(オダノサワ)	108.0 mm	岩手県一関市祭時(マツルベ)	103.5 mm

(11)9月23日～9月24日:四国地方(大雨)<前線>

9月23日から24日にかけて、華中の低気圧が前線を伴い九州の西海上へ進んでほぼ停滞した。また、前線上の本州南岸に低気圧が発生した。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、四国の太平洋側

を中心に大雨となった。

この大雨により高知県や徳島県を中心に、住家の浸水が発生したほか、道路の通行不能や鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

9月23日	長崎県新上五島町頭ヶ島(カシラガシマ)	121.5	mm			
9月24日	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	469.0	mm	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	395.5	mm
	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	186.5	mm	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	163.0	mm
	和歌山県新宮市新宮(シングウ)	130.0	mm	愛媛県鬼北町近永(チカナガ)	115.0	mm
	宮崎県延岡市延岡(ノヘオカ)	100.0	mm			

(12)9月26日～9月29日:沖縄地方(大雨、暴風、高波)＜台風第21号＞

9月22日21時に沖ノ島島の南南東の海上で発生した台風第21号は、26日から27日にかけて沖縄の南の海上を北西に進んだ後、28日に猛烈な勢力で先島諸島に接近した。その後、台風は台湾に上陸し、引き続き西へ進んだ。この台風の影響で、沖縄県与那国町与那国島では、28日に最大瞬間風速81.1メートルを観測し、統計開始以来の1位の値を更新したほか、八重山地方を中心に猛烈な風が吹き、先島諸島ではうねりを伴い猛烈なしけ、沖縄本島地方でも大しけとなった。

このため、与那国島では300棟を超す住家被害が発生したほか、八重山地方を中心に停電や電話の不通等のライフライン被害が生じた。(被害状況は、平成27年10月5日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

9月26日	高知県須崎市須崎(スサキ)	54.0	mm
9月27日	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	99.0	mm
9月28日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	203.0	mm
9月29日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	95.0	mm

[主な最大風速]

9月26日	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	16.3	m/s	北	[21:58]
9月27日	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	17.7	m/s	東北東	[23:44]
9月28日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	54.6	m/s	南東	[16:08]
9月29日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	22.0	m/s	南東	[00:03]

(13)10月1日～10月3日:東日本から北日本(大雨、暴風、高波)＜低気圧＞

10月1日から2日にかけて、黄海の低気圧が急速に発達しながら日本海を北東に進み、伴う前線が日本付近を通過した。その後、3日にかけて低気圧はオホーツク海に進んだ。このため、全国的に雨が降り、九州北部地方を中心に大雨となったところがあった。また、北海道で暴風となり、西日本から北日本にかけて暴風や強風となったところがあったほか、北日本を中心に大しけとなった。

低気圧の影響により、北海道で死者1名となり、北海道を中心に300棟を超す住家被害が生じたほか、東日本や北日本で停電や電話の不通等のライフライン被害や道路の通行止め、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成27年10月9日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

10月1日	長崎県新上五島町頭ヶ島(カシラガシマ)	177.5	mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	169.0	mm
	福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	134.0	mm	岐阜県白川村御母衣(ミホロ)	132.0	mm

	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	113.0 mm	山口県岩国市広瀬(ヒロセ)	104.5 mm
10月2日	北海道えりも町目黒(メグロ)	128.0 mm		
10月3日	秋田県秋田市大正寺(ダイショウジ)	58.5 mm		
[主な最大風速]				
10月1日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	24.7 m/s	南	[23:01]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	22.9 m/s	西南西	[23:25]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	22.0 m/s	南南西	[22:05]
	兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	21.3 m/s	南南西	[22:43]
	北海道釧路町知方学(チホコマナイ)	20.9 m/s	南	[24:00]
10月2日	北海道利尻富士町本泊(モトマリ)	32.6 m/s	南西	[06:32]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	24.8 m/s	西南西	[01:56]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.5 m/s	南	[00:23]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	21.7 m/s	南西	[01:21]
	兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	21.0 m/s	南南西	[00:42]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	20.7 m/s	西南西	[09:04]
	東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリンカイ)	20.7 m/s	南南西	[04:17]
10月3日	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	21.5 m/s	西	[00:03]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.1 m/s	西南西	[13:05]

(14)10月3日:秋田県(突風)＜大気不安定＞

10月3日は上空に寒気が流れ込んだ影響で大気の状態が不安定となり、秋田県美郷町で強さが藤田スケールでF1の竜巻が発生し、住宅1棟が半壊するなどの住家被害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

(15)10月7日～10月9日:北日本(大雨、暴風、高波、高潮)＜台風第23号＞

10月2日15時にウェーク島の南の海上で発生した台風第23号は、西北西へ進み、南鳥島の西海上で北に向きを変えた後、日本の東海上を北上し、8日03時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。台風から変わった温帯低気圧は引き続き北へ進み、北海道の東海上を通過して、9日にはオホーツク海に達した。

この台風や台風から変わった低気圧の影響で、北陸や北日本で雨が降り、北海道オホーツク海側で大雨となったところがあったほか、北日本の一部で暴風や強風となり、東日本や北日本の太平洋側では大しけ、北海道の一部では猛烈なしけとなった。また、北海道では高潮となったところがあった。

このため、北海道で強風により死者1名となり、北海道や秋田県で住家被害や浸水害が発生したほか、停電や道路の通行不能、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が生じた。(被害状況は、平成27年10月9日現在の内閣府の情報等による)

[主な日降水量]

10月8日	北海道紋別市紋別(モンベツ)	192.0 mm
10月9日	沖縄県宮古島市鏡原(カガミハラ)	65.5 mm

[主な最大風速]

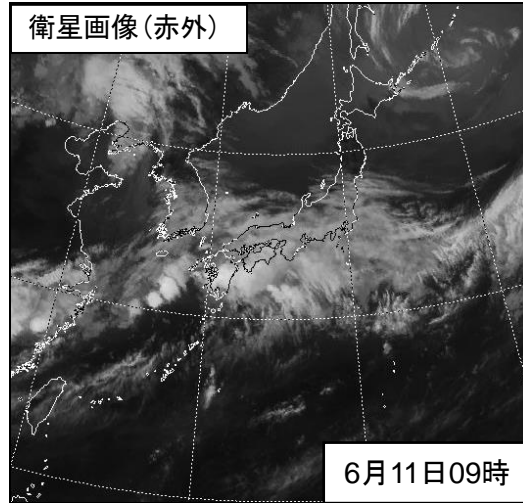
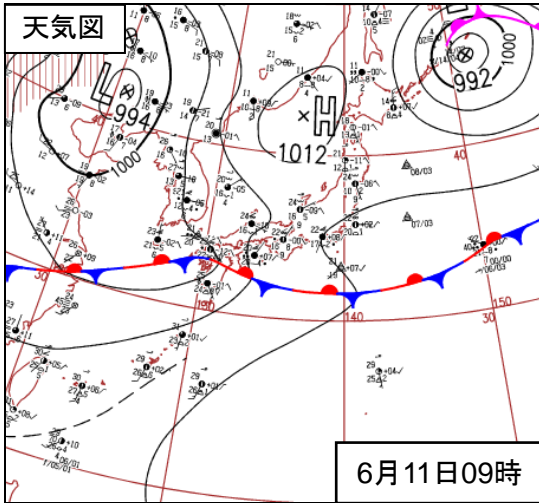
10月7日	千葉県銚子市銚子(チヨウジ)	21.5 m/s	北	[14:37]
10月8日	北海道釧路市釧路(クシロ)	25.0 m/s	北	[09:42]
	宮城県名取市名取(ナトリ)	20.2 m/s	西北西	[12:48]

10月9日 北海道えりも町えりも岬(エリモサキ) 28.9 m/s 西 [12:28]

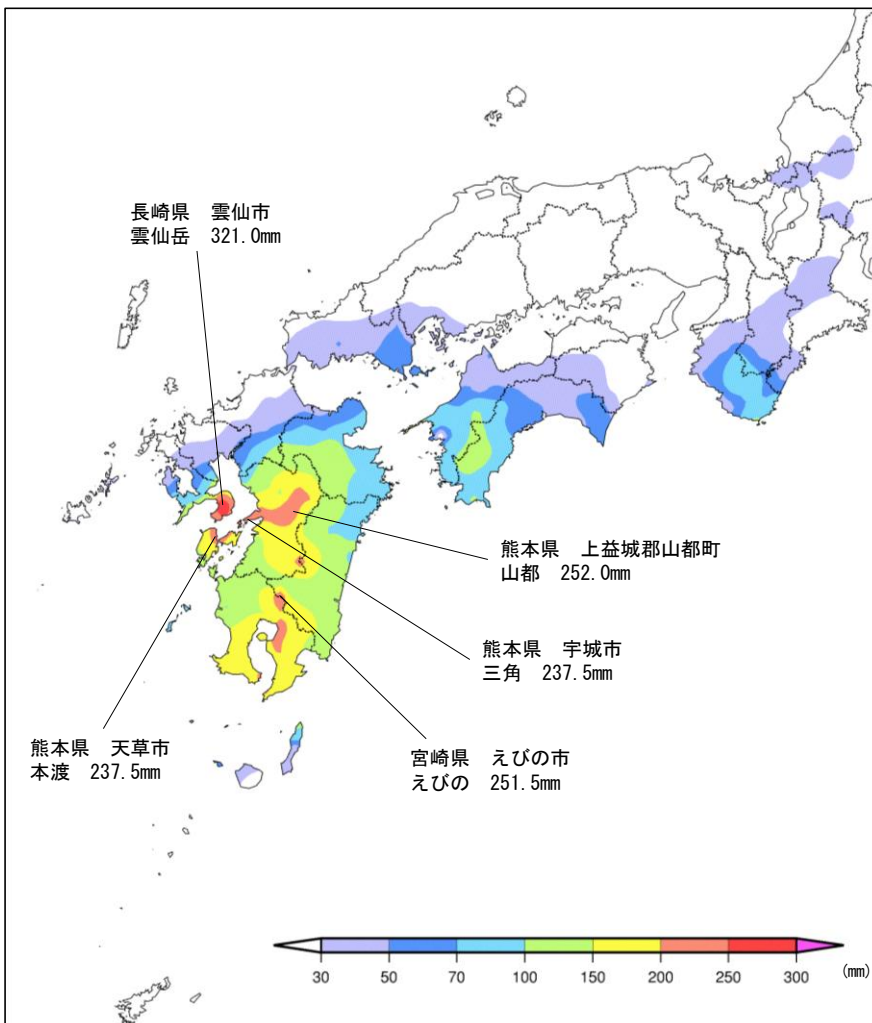
資料 1-2-1 主な気象災害に対応する天気図、降水量分布図等

災害番号 (5)

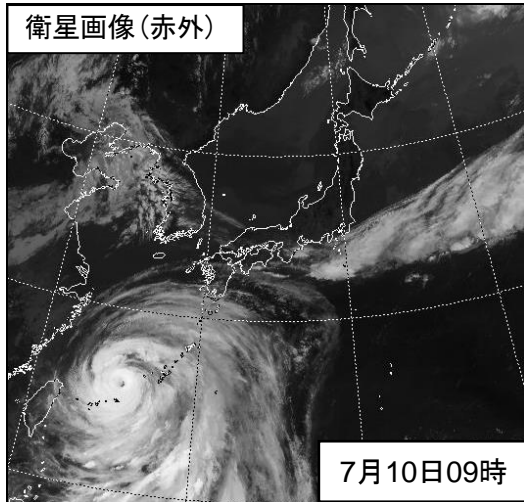
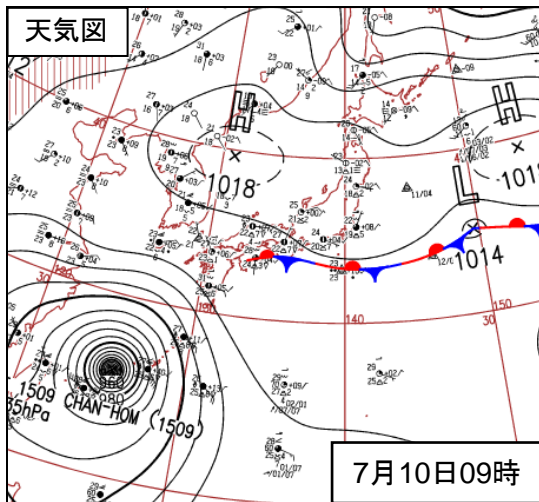
天気図等



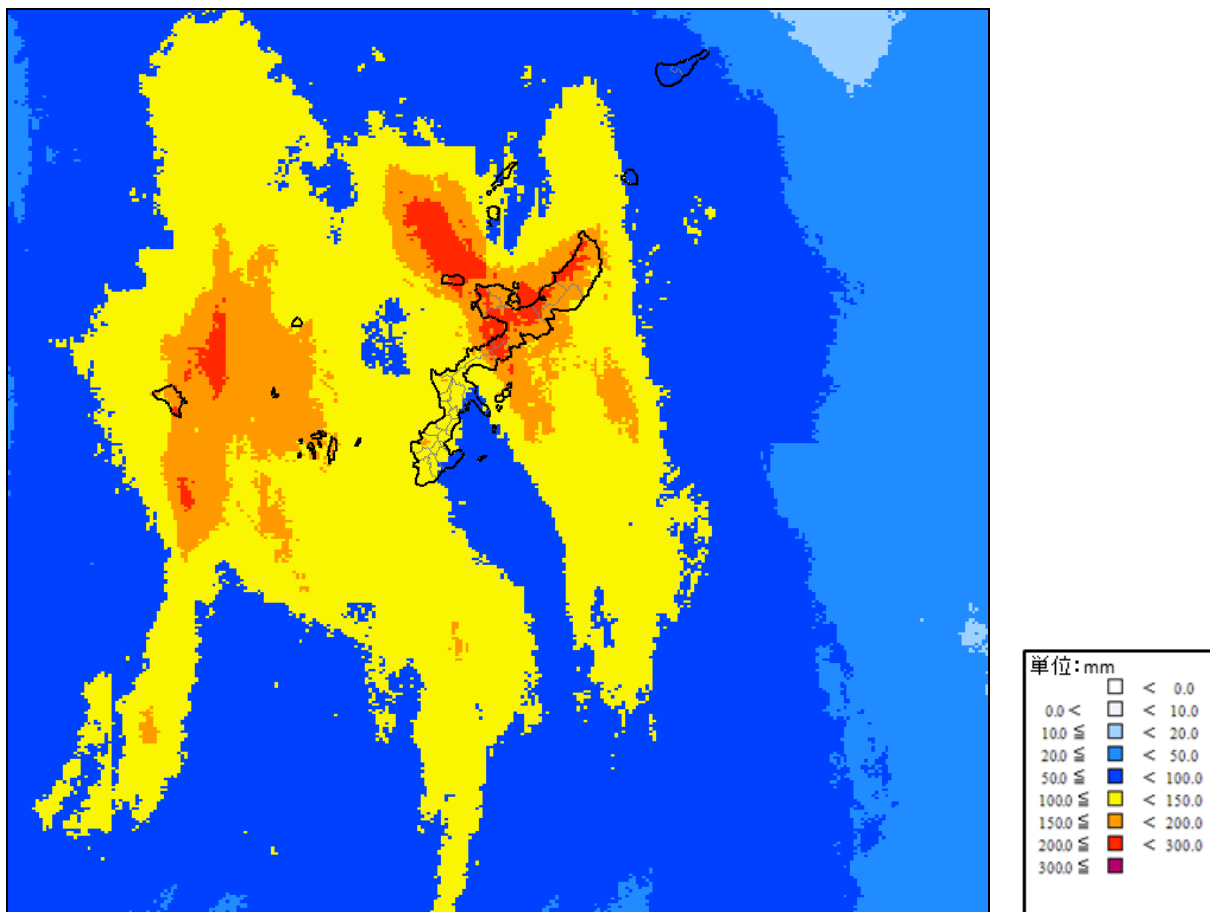
総降水量分布図 [期間：6月10日～6月12日]



天気図等

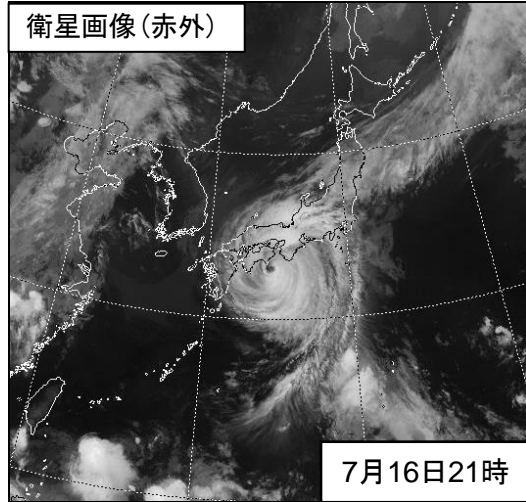
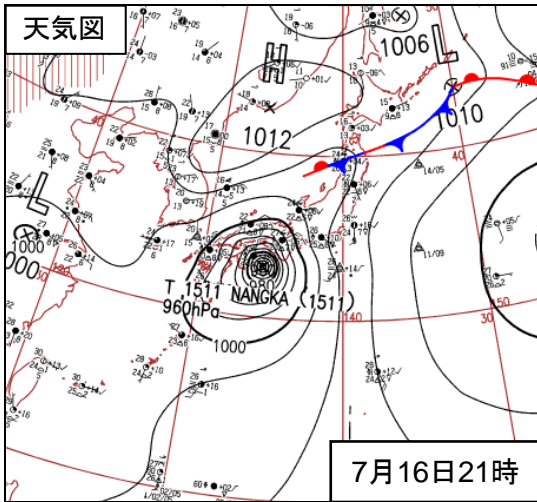


解析雨量 [期間：7月10日00時～24時]

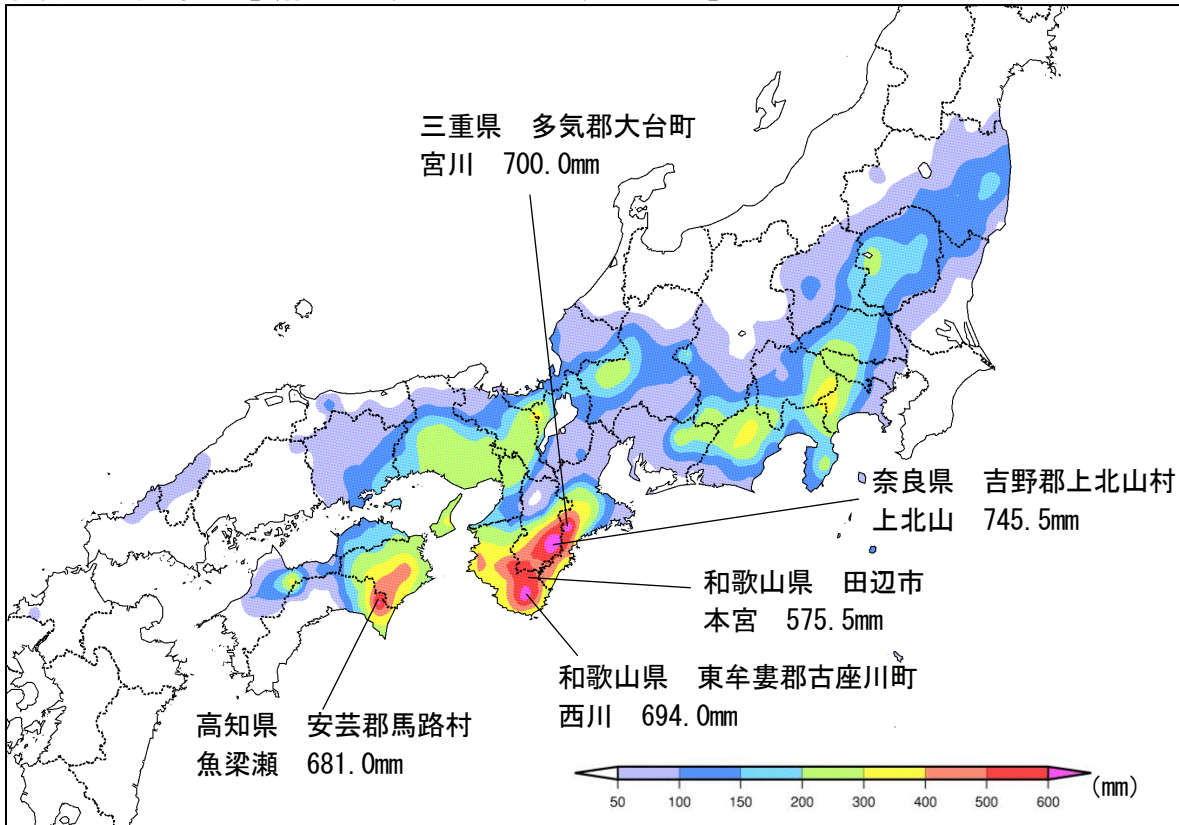


※解析雨量とは、気象レーダーと、アメダス等の雨量計を組み合わせ、雨量分布を1km四方の細かさで解析したもの。

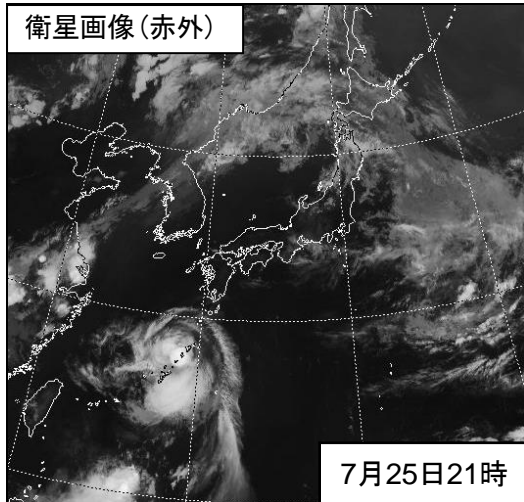
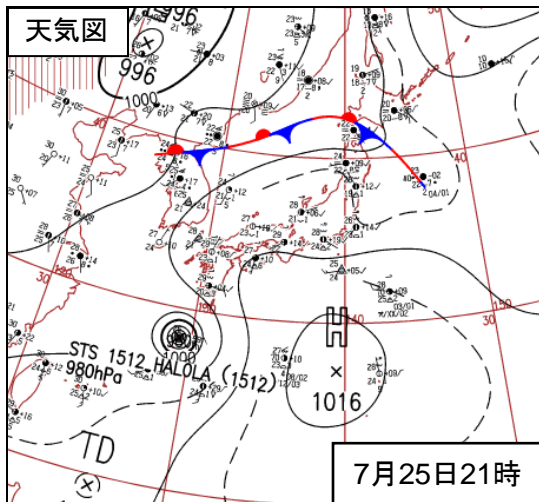
天気図等



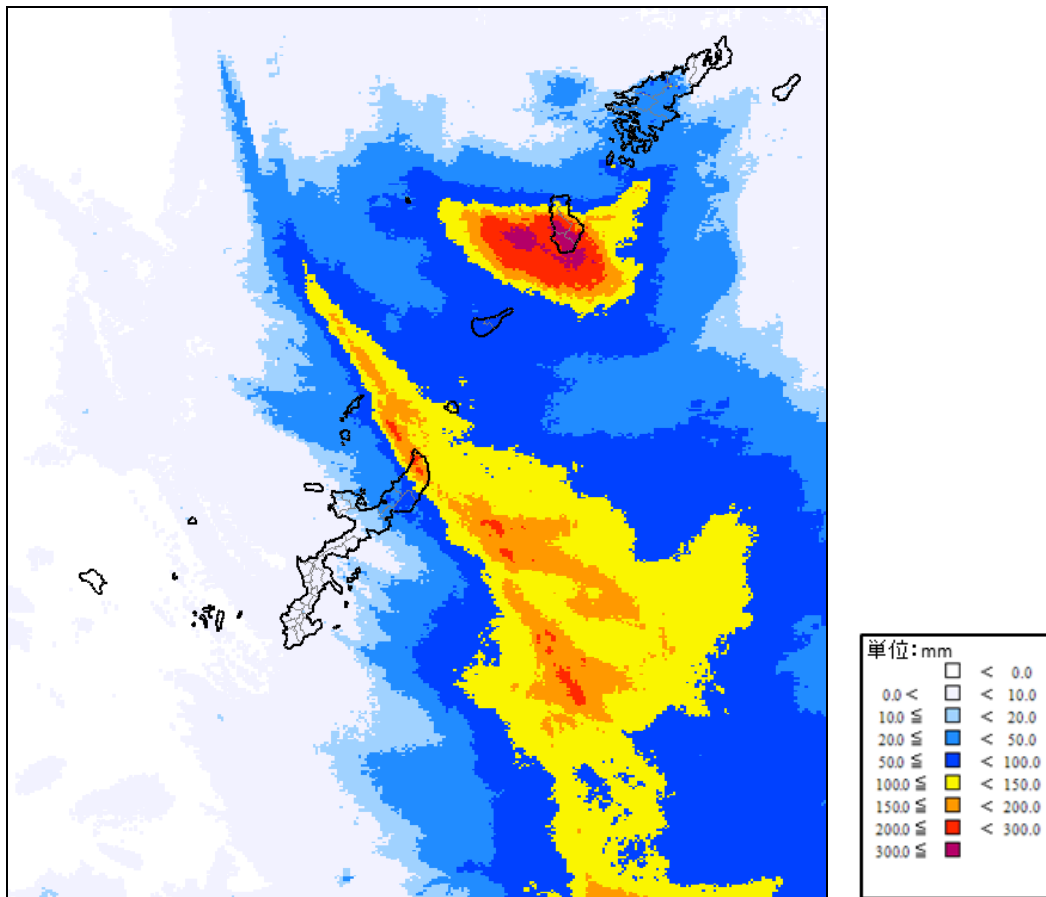
総降水量分布図 [期間：7月15日～7月18日]



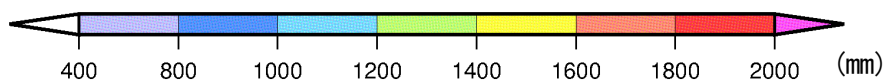
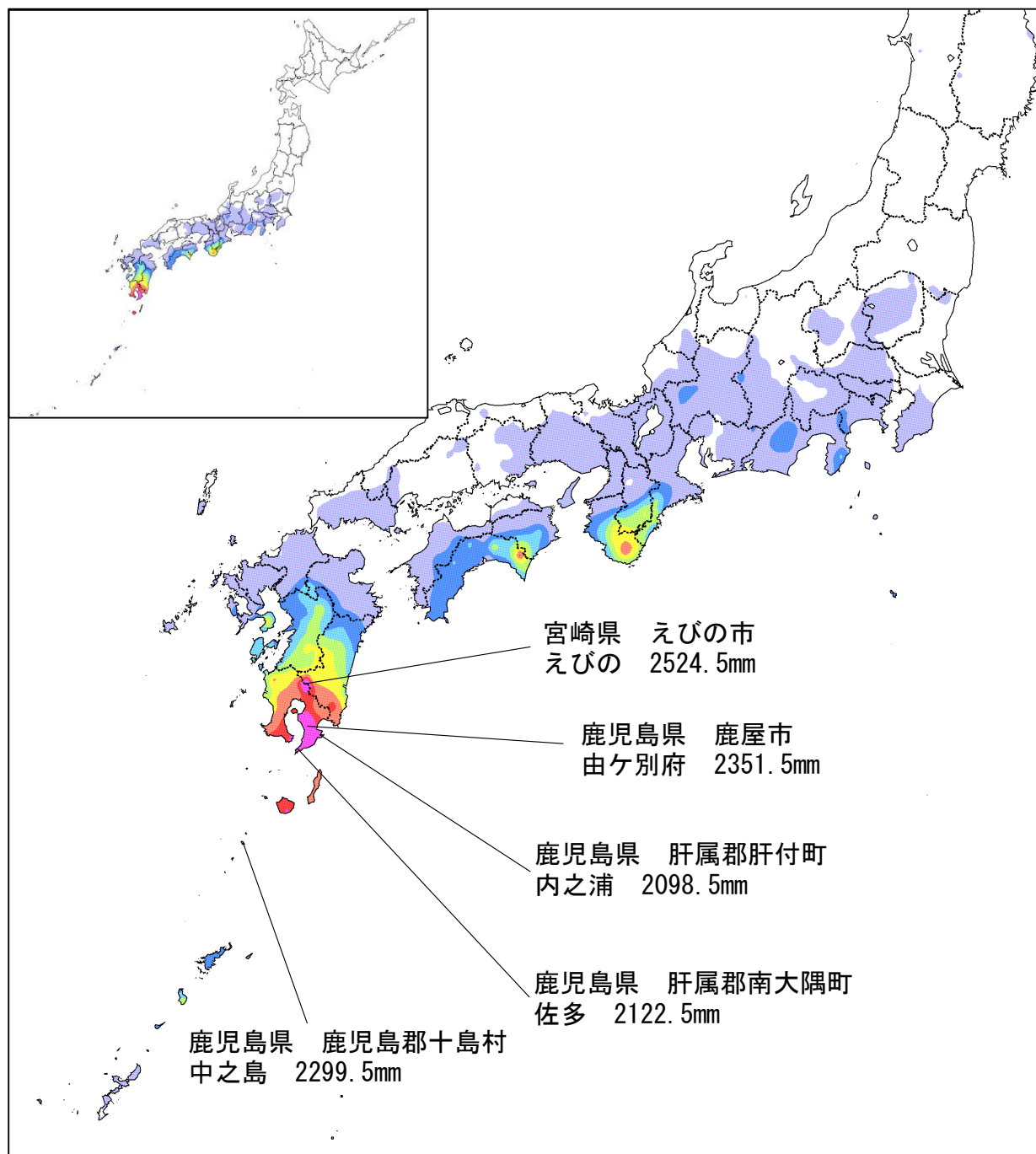
天気図等



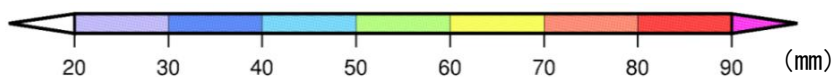
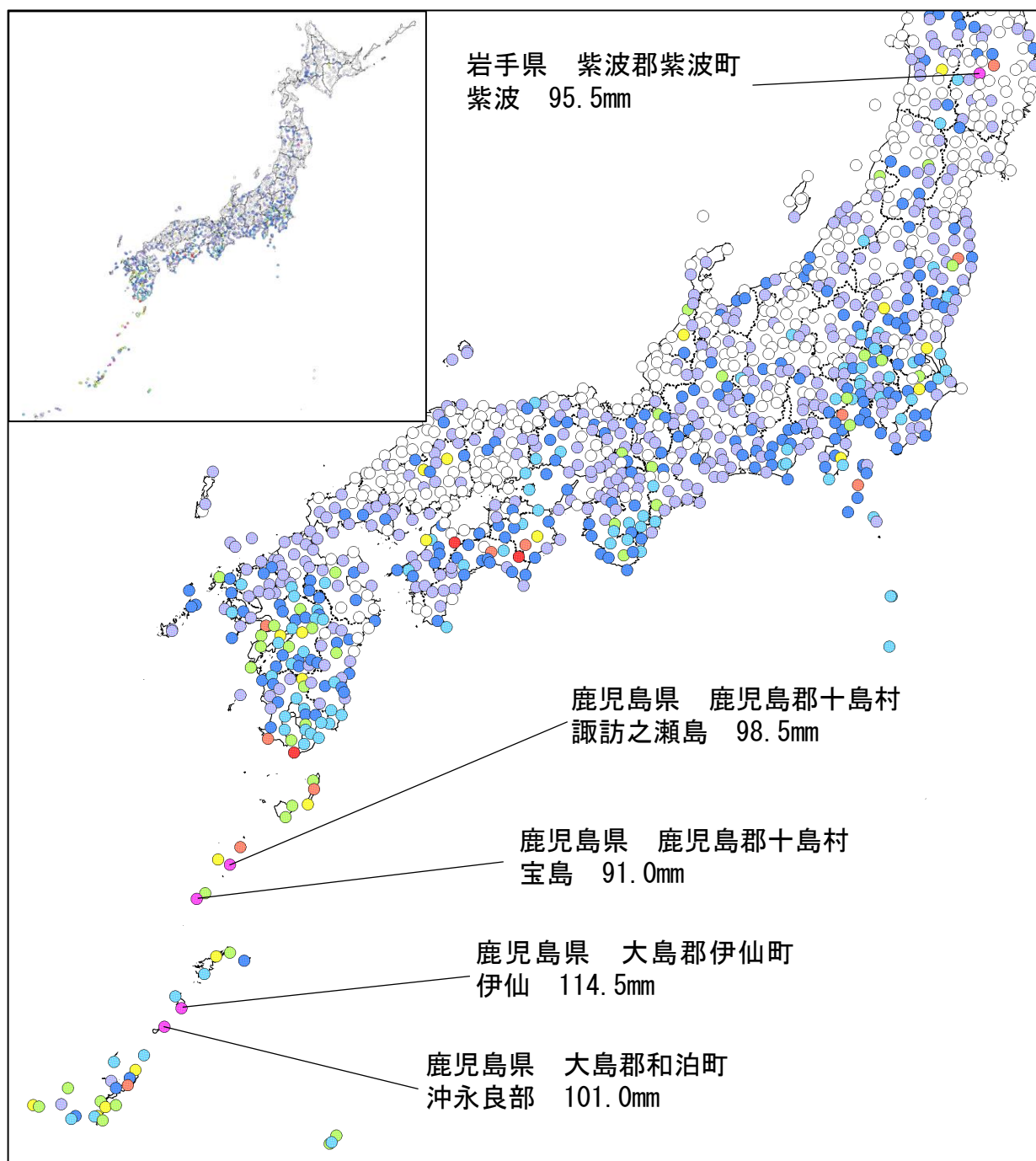
解析雨量 [期間：7月25日00時～24時]



総降水量分布図 [期間：6月2日～7月26日]

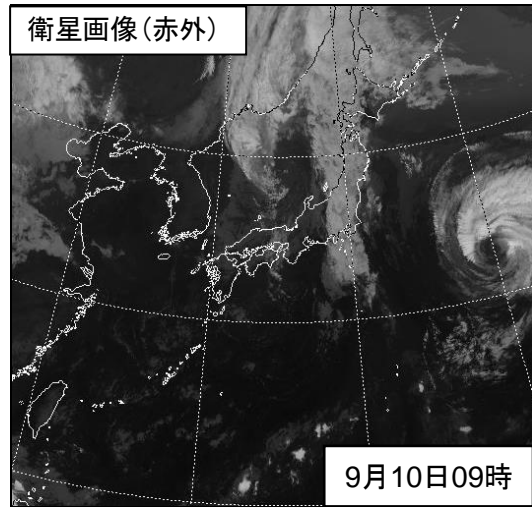
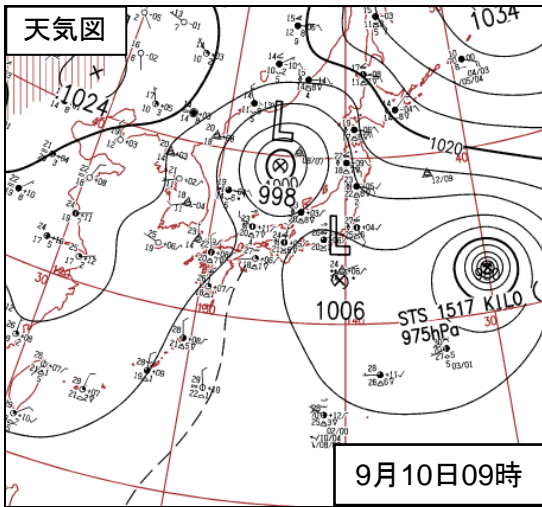


最大1時間降水量分布図 [期間：6月2日～7月26日]

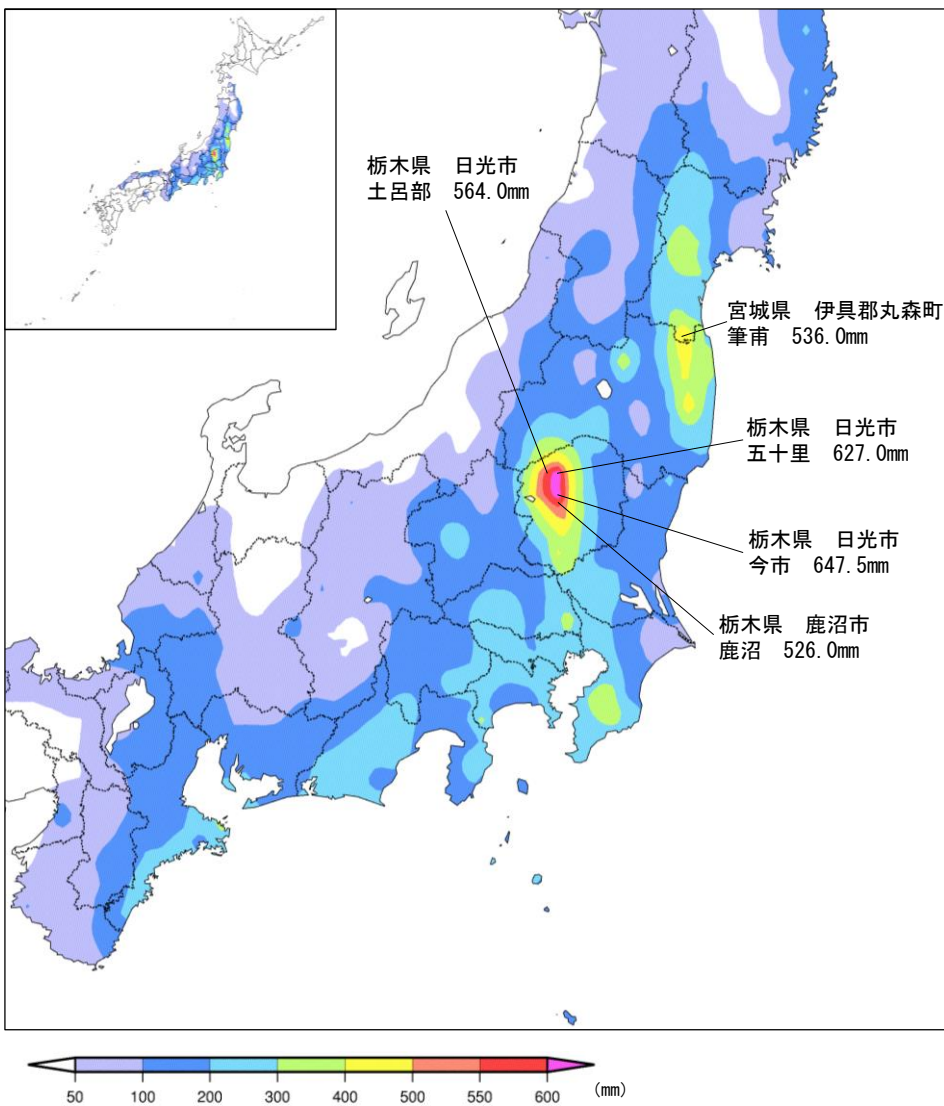


災害番号 (10)

天気図等



総降水量分布図 [期間：9月7日～9月11日]



資料1-2-2 平成27年に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	藤田 スケール	気象状況
5月12日 07時30分頃	竜巻	鹿児島県 大島郡伊 仙町	住家全壊3棟	F1	台風・ 暖気の移流
6月15日 16時00分頃	ダウンバースト	群馬県 前橋市、伊 勢崎市	負傷者2名	F1	寒気の移流
8月1日 14時40分頃	じん旋風	長野県 佐久市	負傷者1名	F0	高気圧
8月8日 13時50分頃	竜巻	沖縄県 石垣市	負傷者2名	F0	台風
8月17日 14時00分頃	竜巻	神奈川県 藤沢市、 横浜市	負傷者1名	F0	停滞前線
9月6日 21時30分頃	竜巻	千葉県 千葉市	負傷者3名、住家全壊4棟、 半壊15棟	F1	停滞前線
10月3日 19時45分頃	竜巻	秋田県 仙北郡美郷 町	住家半壊1棟	F1	寒気の移流

※被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したもの

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。
(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

資料 1-2-3 平成 27 年（2015 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

■激甚災害（本激：地域を特定せず、災害そのものを指定）

<内閣府作成資料等から引用>

期間	災害原因	気象要因
6/2～7/26※	豪雨、暴風雨	梅雨前線、台風第 9 号、台風第 11 号、台風第 12 号
9/7～9/11※	暴風雨、豪雨	台風第 18 号等

■局地激甚災害（局激：市町村単位で災害を指定）

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
1/7～1/9	風浪	低気圧	北海道	利尻富士町
5/12	暴風雨	台風第6号	和歌山県	那智勝浦町
6/2～7/26※	豪雨、 暴風雨	梅雨前線、 台風第9号、 台風第11号、 台風第12号	奈良県	黒滝村
			高知県	安田町、馬路村
			熊本県	苓北町
			宮崎県	椎葉村
			鹿児島県	十島村、宇検村
8/24～8/26	暴風雨	台風第15号	三重県	大台町、紀北町
			高知県	仁淀川町、梶原町
			宮崎県	諸塚村、椎葉村
			鹿児島県	三島村
9/7～9/11※	暴風雨、 豪雨	台風第18号等	宮城県	丸森町
			福島県	南会津町、昭和村、葛尾村
9/23～9/24	豪雨	前線	高知県	北川村、佐川町
10/2～10/3	風浪	低気圧	北海道	利尻町

※本激は農地等、局激は公共土木施設等

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

＜内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用＞

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 27 年(2015 年)台風の概要

2-1 平成 27 年(2015 年)に発生した台風

台風の発生数は平年並の 27 個(平年値 25.6 個)であった。日本への接近数は平年より多い 14 個(平年値 11.4 個)であり、日本への上陸数は昨年と同様、平年を上回る 4 個(平年値 2.7 個)となった。

表 2.1 平成 27 年(2015 年)の台風発生数、日本への上陸数^{*1}、日本への接近数^{*2}と平年値及び平成 26 年(2014 年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	
上陸数						0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
接近数					0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成 26 年 (2014 年)	発生数	2	1		2		2	5	1	5	2	1	2	23
	上陸数							1	1		2			4
	接近数						2	3	2	3	2	1		12
平成 27 年 (2015 年)	発生数	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27
	上陸数							2	1	1				4
	接近数					2		3	4	4		1		14

(注)・平年値は、昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年)の 30 年平均。

- ・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸^{*1} 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近^{*2} 台風の中心が、日本から概ね 300km 以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	7	7	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
15 27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27 (0)
平年値 1981-2010	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

台風の発生日:熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。

合計の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H.1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7
1981-2010													

台風の日本への上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H.1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
15 27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	0	14
平年値 1981-2010	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4

台風の接近: 台風が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
平年値 1981-2010	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5

台風の北海道・本州・四国・九州への接近: 台風の中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成27年(2015年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		海面気圧		風速		強風半径		熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置					
		熱帯低気圧の発生		台風の発生		海面気圧		風速		強風半径		熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置					
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km	月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯
1	MEKKHALA	1 13 09	8.7	142.9	1 13 21	8.6	141.7	1 17 15	975	1 17 15	30	N:390 S:280	1 19 03	16.0	122.5	TD	1 21 03	17.3	125.2
2	HIGOS	2 6 21	8.6	158.3	2 8 03	11.6	157.5	2 10 15	940	2 10 15	45	N:390 S:220	2 11 21	16.1	152.5	TD	2 12 21	18.2	152.8
3	BAVI	3 10 15	4.3	173.4	3 11 15	6.8	170.0	3 15 15	990	3 15 21	23	N:600 S:220	3 17 21	15.4	134.5	TD	3 21 21	13.8	121.7
4	MAYSAK	3 26 21	6.7	159.9	3 28 03	7.8	156.8	4 2 03	910	4 2 03	55	N:330 S:280	4 5 15	18.6	121.1	TD	4 7 09	20.6	116.8
5	HAI SHEN	4 3 03	7.3	156.9	4 4 15	8.7	152.3	4 5 15	998	4 5 15	18	150	4 5 21	8.9	150.8	TD	4 6 09	8.9	150.7
6	NOUL	5 2 15	7.4	144.1	5 4 03	9.4	140.7	5 10 15	920	5 10 15	55	280	5 12 15	30.4	132.2	L	5 16 09	48.7	178.1
7	DOLPHIN	5 6 21	4.0	157.9	5 9 21	5.2	161.9	5 17 03	925	5 17 03	50	NE:440 SW:280	5 21 09	39.7	155.7	L	5 24 15	域外	
8	KUJIRA	6 20 03	15.0	112.2	6 21 09	15.6	111.4	6 24 09	985	6 24 09	23	SW:260 NE:150	6 25 03	21.6	106.3	TD	6 25 09	22.4	105.9
9	CHAN-HOM	6 29 15	8.6	160.4	6 30 21	10.3	160.4	7 10 18	935	7 10 18	45	E:700 W:500	7 13 09	40.0	126.0	L	7 13 09	40.0	126.0
10	LINFA	7 2 03	13.4	129.8	7 2 21	14.6	128.4	7 9 09	980	7 9 15	25	S:390 N:280	7 10 09	21.4	111.2	TD	7 10 09	21.4	111.2
11	NANGKA	7 3 03	8.3	171.8	7 4 03	9.8	170.8	7 10 09	925	7 10 09	50	E:700 W:500	7 17 21	36.8	134.3	TD	7 18 15	40.0	136.5
12	HALOLA	域外			7 13 09	13.0	179.8	7 23 03	955	7 23 03	40	SE:300 NW:260	7 26 21	33.8	130.0	TD	7 26 21	33.8	130.0
13	SOUDELOR	7 30 03	13.3	162.2	8 1 15	14.0	152.1	8 4 15	900	8 4 15	60	E:650 W:500	8 11 21	33.0	123.3	TD	8 12 09	33.3	126.7
14	MOLAVE	8 6 09	17.6	149.3	8 7 15	22.6	147.2	8 11 21	985	8 11 21	23	SE:390 NW:280	8 14 09	37.2	161.6	L	8 18 09	域外	
15	GONI	8 14 03	12.2	151.1	8 15 03	13.0	148.2	8 24 18	930	8 24 18	50	460	8 25 21	36.5	132.3	L	8 30 15	45.5	125.8
16	ATSANI	8 14 09	14.8	163.5	8 15 03	14.8	162.4	8 20 09	925	8 20 09	50	600	8 25 09	37.6	158.0	L	8 29 15	47.7	168.7
17	KILO	域外			9 2 09	24.0	179.8	9 6 15	950	9 6 15	40	E:750 W:330	9 11 21	43.0	148.0	L	9 13 09	域外	
18	ETAU	9 6 09	19.8	139.7	9 7 21	25.1	138.4	9 9 03	985	9 9 03	25	N:390 S:280	9 9 15	37.2	136.3	L	9 11 21	41.0	138.5
19	VAMCO	9 13 09	15.6	112.9	9 14 03	15.1	110.8	9 14 21	998	9 15 03	18	NW:330 SE:280	9 15 09	15.3	106.2	TD	9 15 15	14.3	105.8
20	KROVANH	9 14 03	13.9	151.6	9 16 03	18.7	149.1	9 18 09	945	9 18 09	45	NE:330 SW:220	9 21 21	37.0	152.2	L	9 26 15	44.4	174.0
21	DUJUAN	9 20 03	13.5	148.1	9 22 21	16.2	137.5	9 28 15	925	9 28 15	55	NW:560 SE:500	9 29 21	26.4	116.4	TD	9 30 15	28.7	116.7
22	MUJIGAE	10 1 03	12.6	126.4	10 1 21	15.2	122.7	10 4 15	950	10 4 15	45	E:440 W:280	10 5 09	23.6	108.2	TD	10 5 09	23.6	108.2
23	CHOI-WAN	10 1 15	16.9	166.9	10 2 15	18.5	167.2	10 7 21	965	10 7 21	30	N:850 S:750	10 8 03	37.4	149.8	L	10 12 03	55.8	153.5
24	KOPPU	10 12 09	13.8	151.0	10 13 21	16.0	139.2	10 18 03	925	10 18 03	50	N:440 S:330	10 21 15	19.4	122.7	TD	10 21 15	19.4	122.7
25	CHAMPI	10 13 09	12.5	161.4	10 14 09	14.0	156.7	10 19 09	930	10 19 09	50	SE:560 NW:390	10 25 21	37.0	167.6	L	10 27 03	域外	
26	IN-FA	11 17 03	3.5	163.6	11 17 21	4.7	159.8	11 21 15	935	11 21 15	50	NE:390 SW:280	11 27 09	28.1	147.4	L	11 27 15	29.6	150.4
27	MELOR	12 10 09	7.1	145.2	12 11 15	8.9	138.0	12 14 15	935	12 14 15	50	N:280 S:220	12 17 09	12.5	120.1	TD	12 17 09	12.5	120.1

表中の日時はすべて日本時(JST)。
 「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。
 (但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)
 強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。
 種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。
 域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 平成 27 年(2015 年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。

(1) 台風第6号 (1506 NOUL ノウル)

5月2日15時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、4日03時にヤップ島の東の海上で台風第6号となった。台風は徐々に北西に進路を変え、10日09時にルソン島の東の海上で勢力が最大となった。その後、台風は徐々に北東に進路を変え、南西諸島に沿って加速しながら進み、12日15時に種子島の東の海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は引き続き北東へ進み、16日15時に日付変更線付近で消滅した。

(2) 台風第7号 (1507 DOLPHIN ドルフィン)

5月6日21時にポンペイ島の南の海上で発生した熱帯低気圧は東へ進み、北西に進路を変えた後、9日21時に同島の東の海上で台風第7号となった。台風は北へ進んだ後、西に進路を変え、16日15時にマリアナ諸島の西の海上で勢力が最大となった。その後、台風は北東に進路を変えて加速し、21日09時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は引き続き北東へ進み、24日15時前にベーリング海で東経180度を越えた。

(3) 台風第9号 (1509 CHAN-HOM チャンホン)

6月29日15時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は北北東へ進んだ後、北西に進路を変え、30日21時に同海域で台風第9号となった。台風は、徐々に進路を西南西に変えた後、北に進み、その後進路を北西に変え、7月10日03時に宮古島近海で勢力が最大となった。台風は引き続き北西に進み、同日の午前中に宮古島と久米島の間を通過し、東シナ海で北北東に進路を変えた後、13日09時に朝鮮半島北部で温帯低気圧に変わり、14日00時に同地域で消滅した。

(4) 台風第11号 (1511 NANGKA ナンカー)

7月3日03時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、4日03時に同海域で台風第11号となり、徐々に進路を西に変えた。台風は進路を北西に変えた後、9日15時にマリアナ諸島北部で勢力が最大となった。その後、台風は日本の南海上で急激に進路を北北西に変え、16日23時頃高知県室戸市付近に上陸し、四国を抜けた後、17日06時頃岡山県倉敷市付近に再び上陸した。台風は進路を北東に変え、その後17日21時に日本海で熱帯低気圧に変わり、18日21時に同海域で消滅した。

(5) 台風第12号 (1512 HALOLA ハロラ)

7月13日03時に、発達した熱帯低気圧がマーシャル諸島の東の海上で東経180度を越えて北太平洋西部に進み、台風第12号となった。台風は西北西に進み、進路を西に変えた後、17日09時にウェーク島の西の海上で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は進路を西北西に変えた後、再び発達して20日03時に北マリアナ

諸島の東の海上で台風第12号となり、22日03時に硫黄島の南の海上で勢力が最大となった。台風は進路を北に変え、奄美群島を通過した後、引き続き北に進み、26日18時に長崎県西海市付近を通過し、同日19時に長崎県佐世保市付近に上陸した。その後、台風は進路を北北東に変え、同日21時に九州の北西の海上で熱帯低気圧に変わり、27日03時に同海域で消滅した。

(6) 台風第13号 (1513 SOUDELOR ソウデロア)

7月30日03時にマーシャル諸島の北西の海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、8月1日15時にマリアナ諸島の東の海上で台風第13号となった。台風は、徐々に進路を西北西に変え、4日03時にマリアナ諸島の西の海上で勢力が最大となった後、8日に台湾を横断し、9日21時に中国の南部で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は徐々に進路を東北東に変え、11日09時に東シナ海で再び台風第13号となった後、同海域で同日21時に熱帯低気圧に変わり、その後、同海域で12日03時に温帯低気圧に変わり、12日15時に済州島付近で消滅した。

(7) 台風第14号 (1514 MOLAVE モラヴェ)

8月6日09時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、進路を北西に変えた後、7日15時に小笠原諸島の南東の海上で台風第14号となった。台風は進路を北に変えた後、11日03時に鳥島の東の海上で勢力が最大となった。台風は速度を上げながら北東方向に進み、14日09時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった後、東へ進み、18日09時に東経180度を越えた。

(8) 台風第15号 (1515 GONI コーニー)

8月14日03時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、15日03時にグアム島の東の海上で台風第15号となった。台風は、17日15時にマリアナ諸島の西の海上で勢力が最大となり、徐々に進路を西に変え、3日間以上西に進んだ後、ルソン島の北の海上で急激に進路を北に変え、23日19時に西表島付近を通過した。その後、台風は進路を北東に変え、25日04時過ぎに鹿児島県阿久根市付近、同日05時過ぎに熊本県宇城市付近を通過した後、同日06時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸した。台風は、日本海に抜けた後、25日21時に隠岐諸島の北西の海上で温帯低気圧に変わり、同海域を北に進んだ後、30日21時に中国東北区で消滅した。

(9) 台風第16号 (1516 ATSANI アッサニー)

8月14日09時にマーシャル諸島の北西で発生した熱帯低気圧はゆっくりとした速度で西に進み、15日03時に同海域で台風第16号となった。台風は北西に向きを変え、19日09時にマリアナ諸島の東で勢力が最大となった後、引き続き北西へ進み、小笠原諸島の東の海上を通り、徐々に進路を北東に変えた。台風は、日本のはるか東の海上で速度を上げながら北東に進み、25日15時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は徐々に速度を下げながら引き続き北東に進み、29日21時にカムチャツカ半島の南東の海上で消滅した。

(10) 台風第17号 (1517 KILO キロ)

9月2日03時過ぎに、発達した熱帯低気圧がウェーク島の北東の海上で東経180度を越えて北太平洋西部

に進み、台風第17号となった。台風は、東経180度を越える前の2日03時に勢力が最大となった後、西に進み、徐々に進路を北西に変えた。その後、台風は進路を北北東に変え、11日21時に北海道の東の海上で温帯低気圧に変わり、千島列島を通過した後、オホーツク海に進み、13日09時前に北緯60度を越えた。

(11) 台風第18号 (1518 ETAU アータウ)

9月6日09時に沖ノ鳥島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北北西に進み、7日21時に小笠原諸島の西の海上で台風第18号となり、8日15時に鳥島の南西で勢力が最大となった。台風は9日09時過ぎに愛知県渥美半島を通過した後、同日09時半頃に愛知県西尾市付近に上陸した。台風は、本州を進んで日本海に抜けた後、9日15時に能登沖で温帯低気圧に変わり、徐々に進路を北東に変えた後、12日03時に津軽海峡の西の海上で消滅した。

(12) 台風第20号 (1520 KROVANH クロヴァン)

9月14日03時にグアム島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、その後進路を北西に変えた後、16日03時に北マリアナ諸島の東の海上で台風第20号となった。台風は、引き続き北西に進み、17日21時に小笠原諸島の南の海上で勢力が最大となった後、徐々に進路を北東に変え、21日21時に日本の東の海上で温帯低気圧に変わり、26日21時にアリューシャン列島の南で消滅した。

(13) 台風第21号 (1521 DUJUAN ドゥージェン)

9月20日03時にグアム島の東の海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、徐々に進路を北西に変えた後、22日21時に沖ノ鳥島の南南東の海上で台風第21号となった。台風は引き続き北西に進み、27日09時に宮古島の南東の海上で勢力が最大となった後、進路を西に変え、28日18時に台湾に上陸した。台風は、台湾を横断して台湾海峡に進み、進路を北西に変え、29日09時に華南の沿岸に上陸した。その後台風は北西に進み、同日21時に華南で熱帯低気圧に変わった後、30日21時に華中で消滅した。

(14) 台風第25号 (1525 CHAMPI チャンパー)

10月13日09時にポンペイ島の北東の海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、14日09時に同島の北の海上で台風第25号となった。台風は、進路を北西に変えた後、速度を下げながら北へ進み、18日21時に沖ノ鳥島の東の海上で勢力が最大となった。その後、台風は進路を北東に変えて速度を上げながら進み、25日21時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わり、27日03時に東経180度を越えた。

(15) 台風第26号 (1526 IN-FA インファ)

11月17日03時にポンペイ島の南東の海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、同日21時に同島の南の海上で台風第26号となった。台風は、引き続き西北西に進み、21日09時にグアム島の南西の海上で勢力が最大となった後、フィリピンの東の海上で徐々に進路を北東に変えた。その後、台風は27日09時に父島の東北東の海上で温帯低気圧に変わり、同日21時に同海域で消滅した。

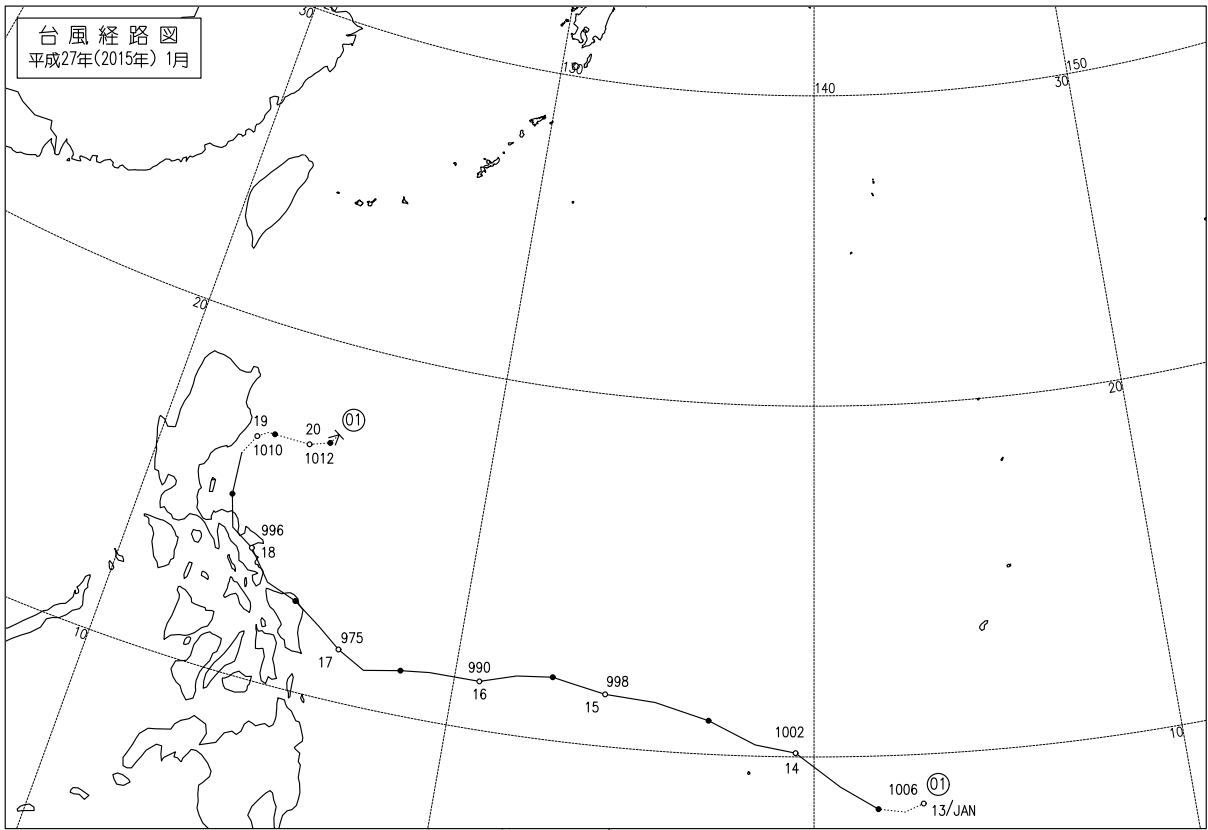
資料2-2-1 平成27年(2015年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響 (台風が中心が日本から概ね500km以内に入った場合)				日本への接近 (台風が中心が日本から概ね300km以内に入った場合)				上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域			
	始	終		始	終				
6	5/11	5/12	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	5/11	5/12	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	上陸または通過せず。		
7	5/19	5/20	伊豆・小笠原諸島	5/19	5/20	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。		
9	7/9	7/12	沖縄・奄美、九州北部地方	7/9	7/10	沖縄地方	上陸または通過せず。		
11	7/15	7/17	西日本、東日本	7/16	7/17	西日本、東海地方、北陸地方	16日23時頃、高知県室戸市付近に上陸した。 17日06時頃、岡山県倉敷市付近に上陸した。		
12	7/21	7/26	沖縄・奄美、西日本、伊豆・小笠原諸島	7/24	7/26	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	26日18時頃、長崎県西海市付近を通過した。 26日19時頃、長崎県佐世保市付近に上陸した。		
13	8/6	8/9	沖縄地方	8/7	8/8	沖縄地方	上陸または通過せず。		
14	8/7	8/11	東海地方、関東甲信地方、伊豆・小笠原諸島	8/8	8/11	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。		
15	8/22	8/25	沖縄・奄美、西日本、東海地方、北陸地方	8/23	8/25	沖縄・奄美、西日本	23日19時頃、西表島付近を通過した。 25日04時過ぎ、鹿児島県阿久根市付近を通過した。 25日05時過ぎ、熊本県宇城市付近を通過した。 25日06時過ぎ、熊本県荒尾市付近に上陸した。		
16	8/21	8/23	伊豆・小笠原諸島	8/22	8/22	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。		
17	9/11	9/11	北日本	9/11	9/11	北海道地方	上陸または通過せず。		
18	9/7	9/9	四国地方、中国地方、近畿地方、東日本、東北地方	9/8	9/9	四国地方、中国地方、近畿地方、東日本	9日09時過ぎ、愛知県渥美半島を通過した。 9日09時半頃、愛知県西尾市付近に上陸した		
20	9/18	9/19	伊豆・小笠原諸島	9/18	9/19	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。		
21	9/26	9/29	沖縄地方	9/27	9/29	沖縄地方	上陸または通過せず。		
25	10/21	10/23	伊豆・小笠原諸島				上陸または通過せず。		
26	11/26	11/27	伊豆・小笠原諸島	11/26	11/27	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。		

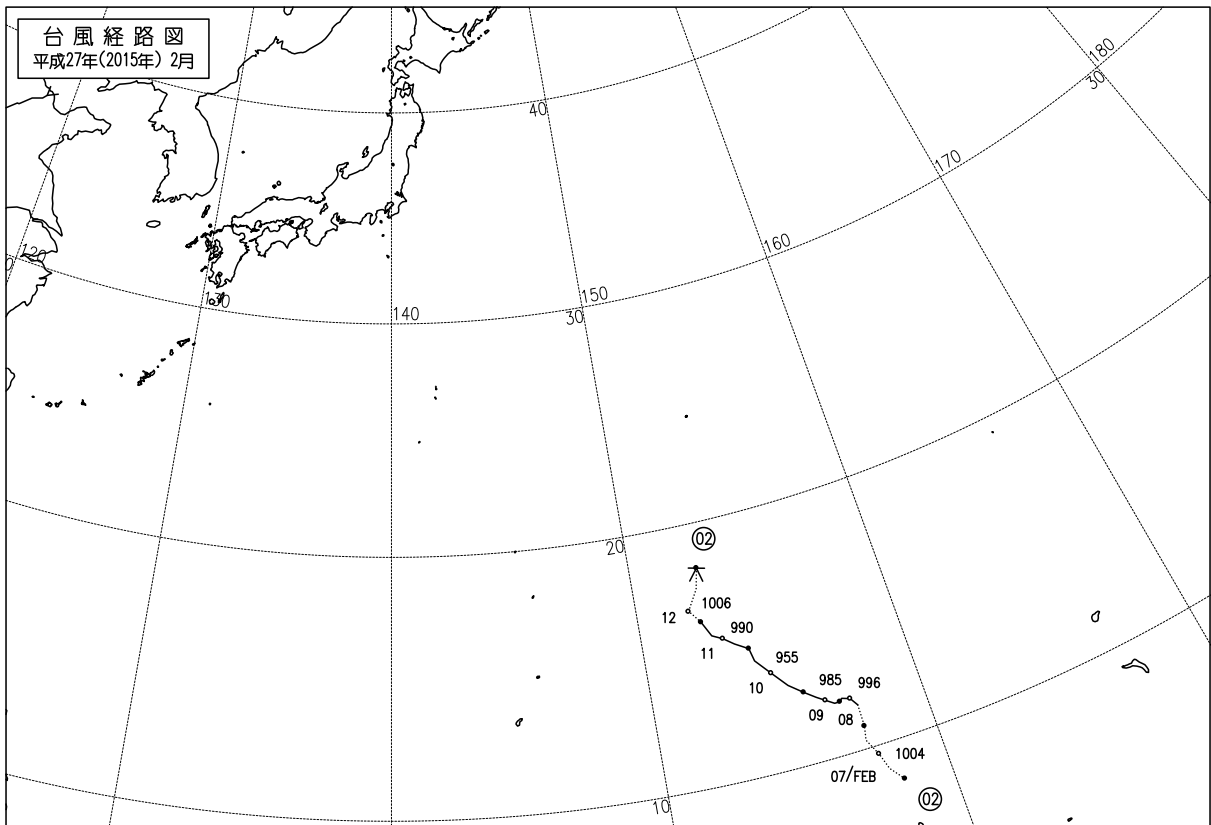
台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

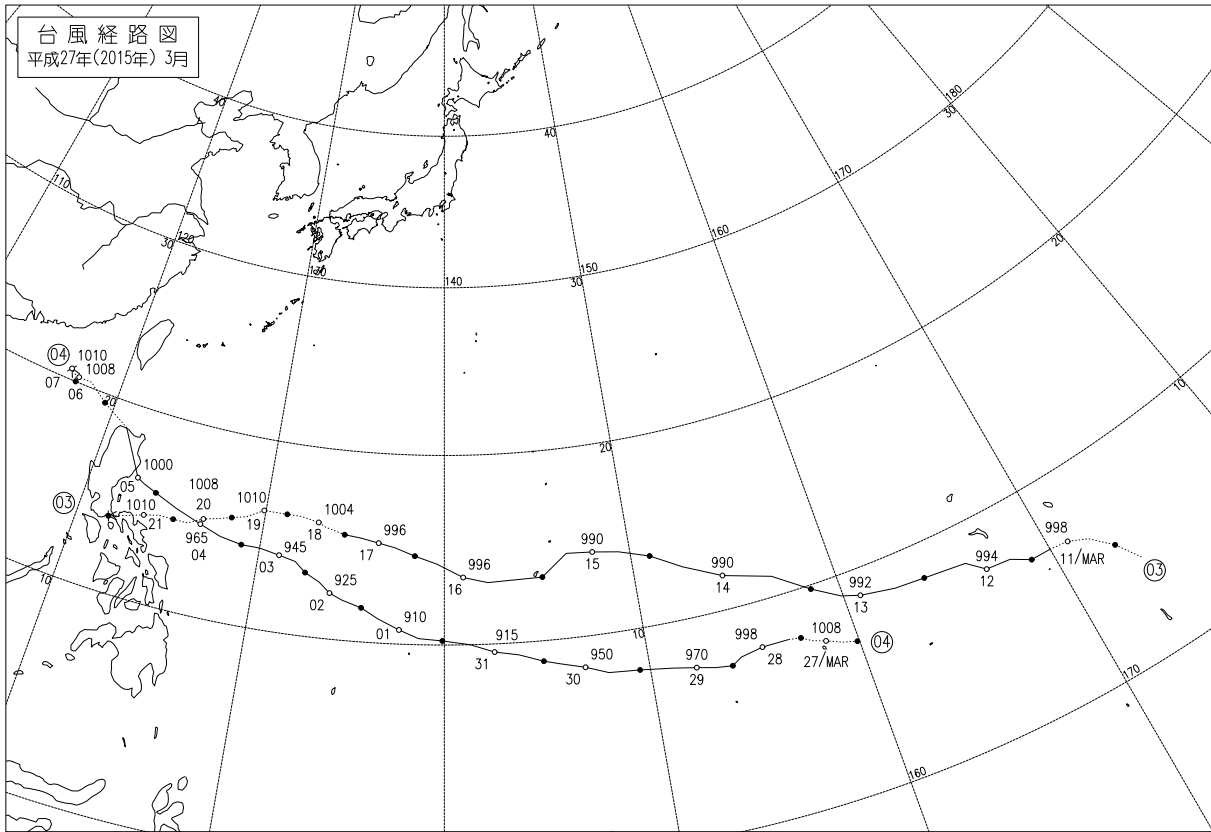
資料 2-2-2 平成 27 年 (2015 年) に発生した台風の経路図



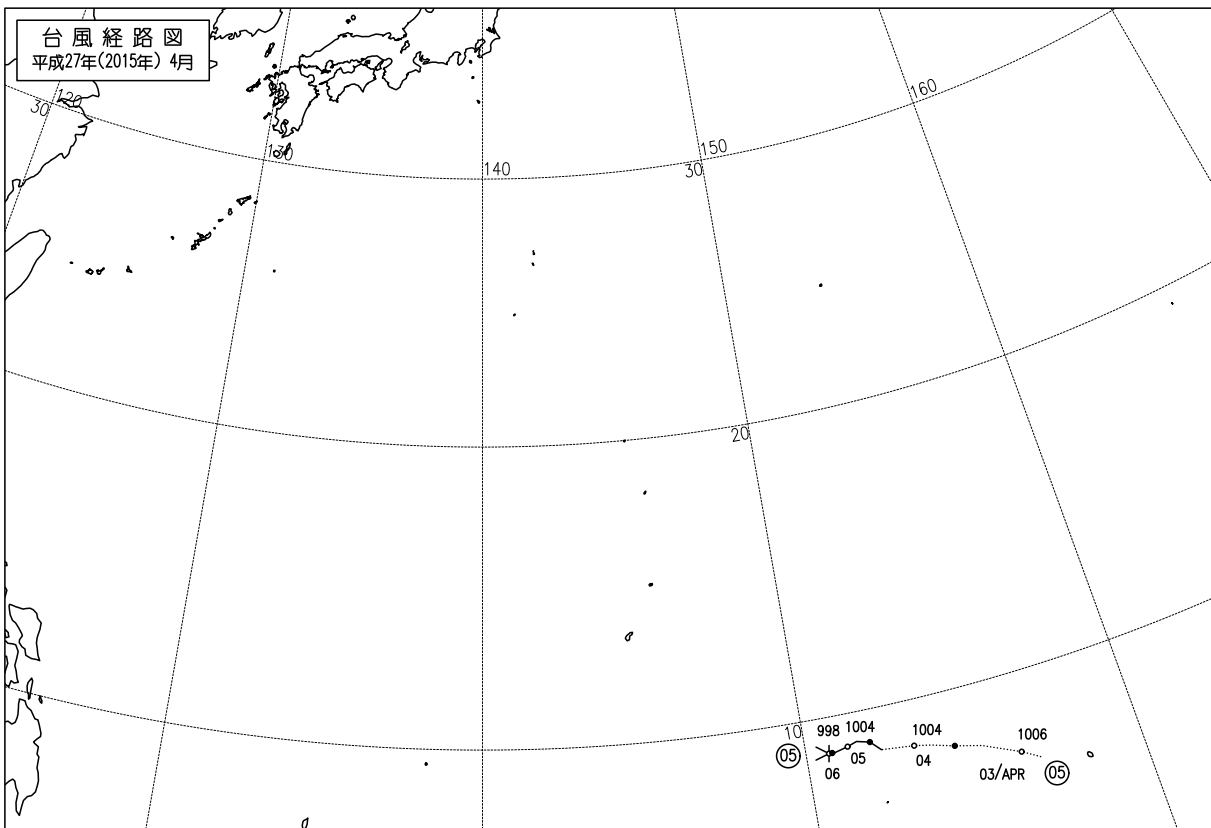
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



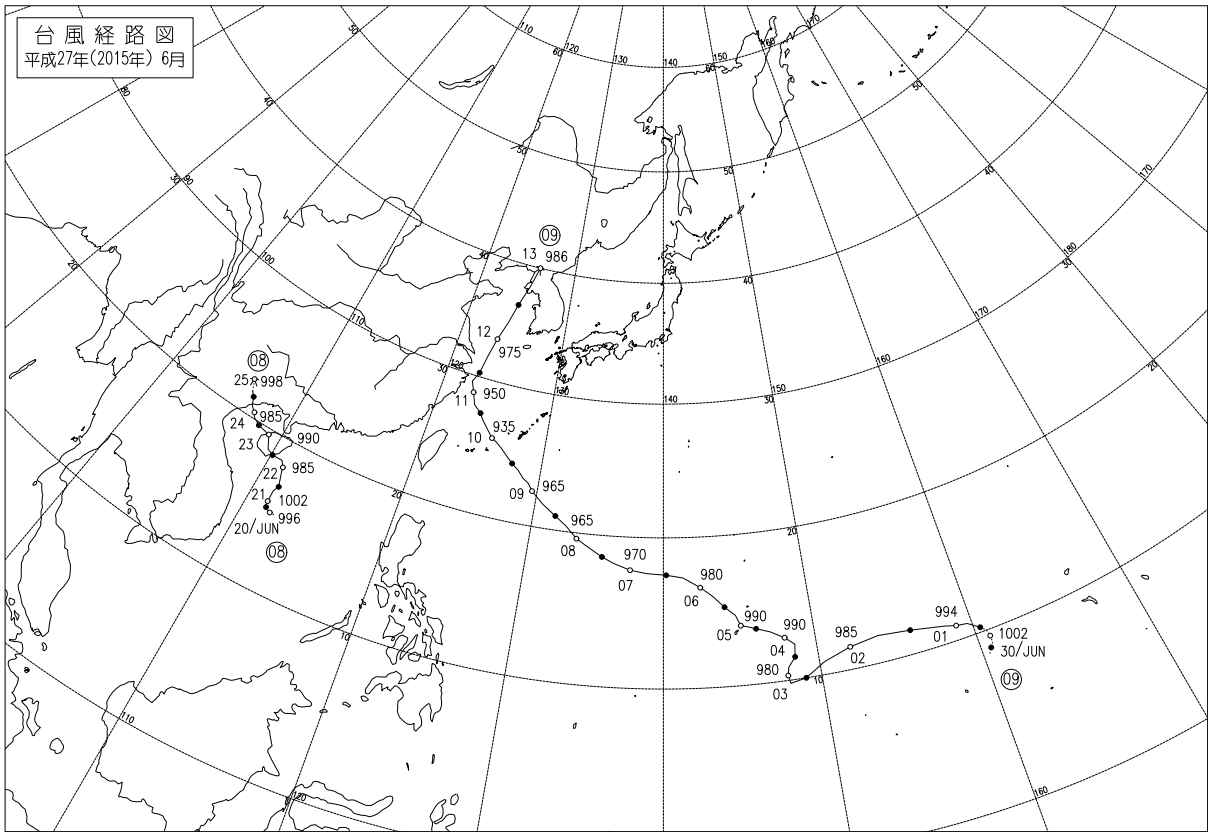
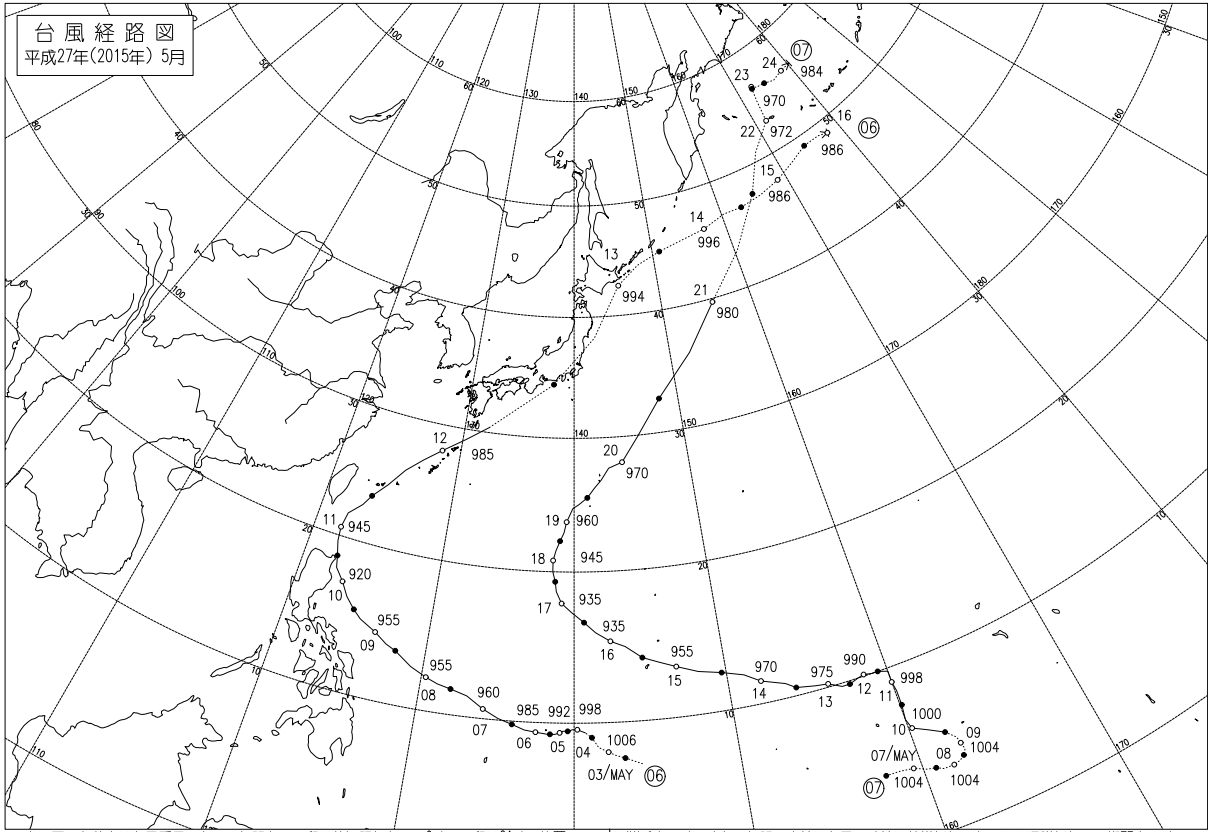
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

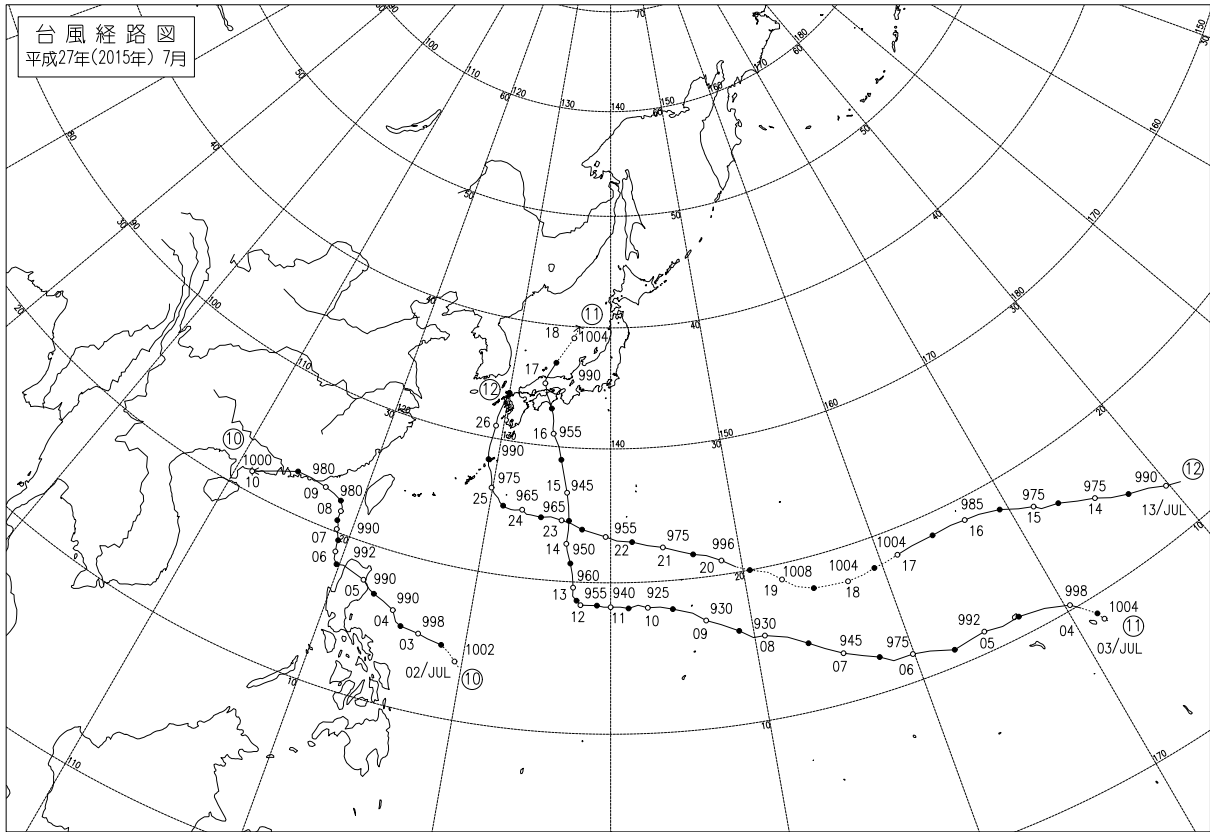


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

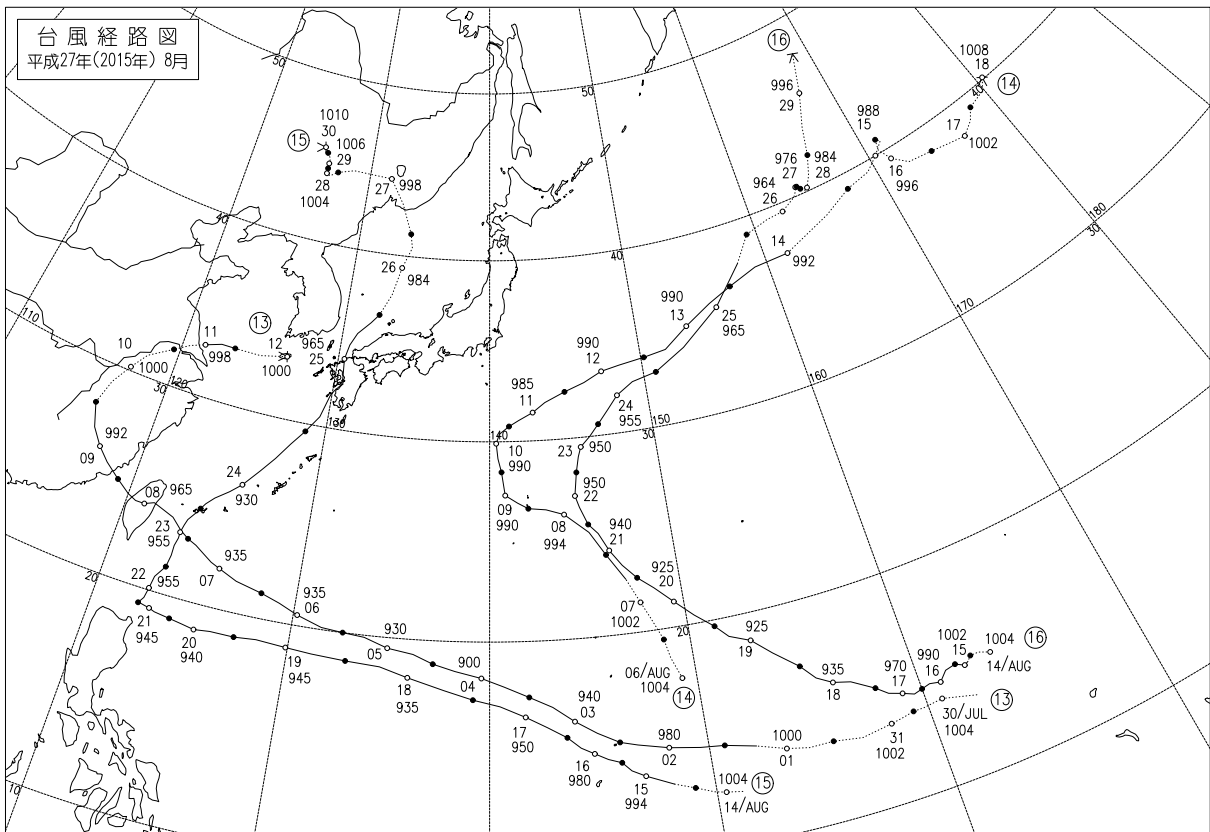


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

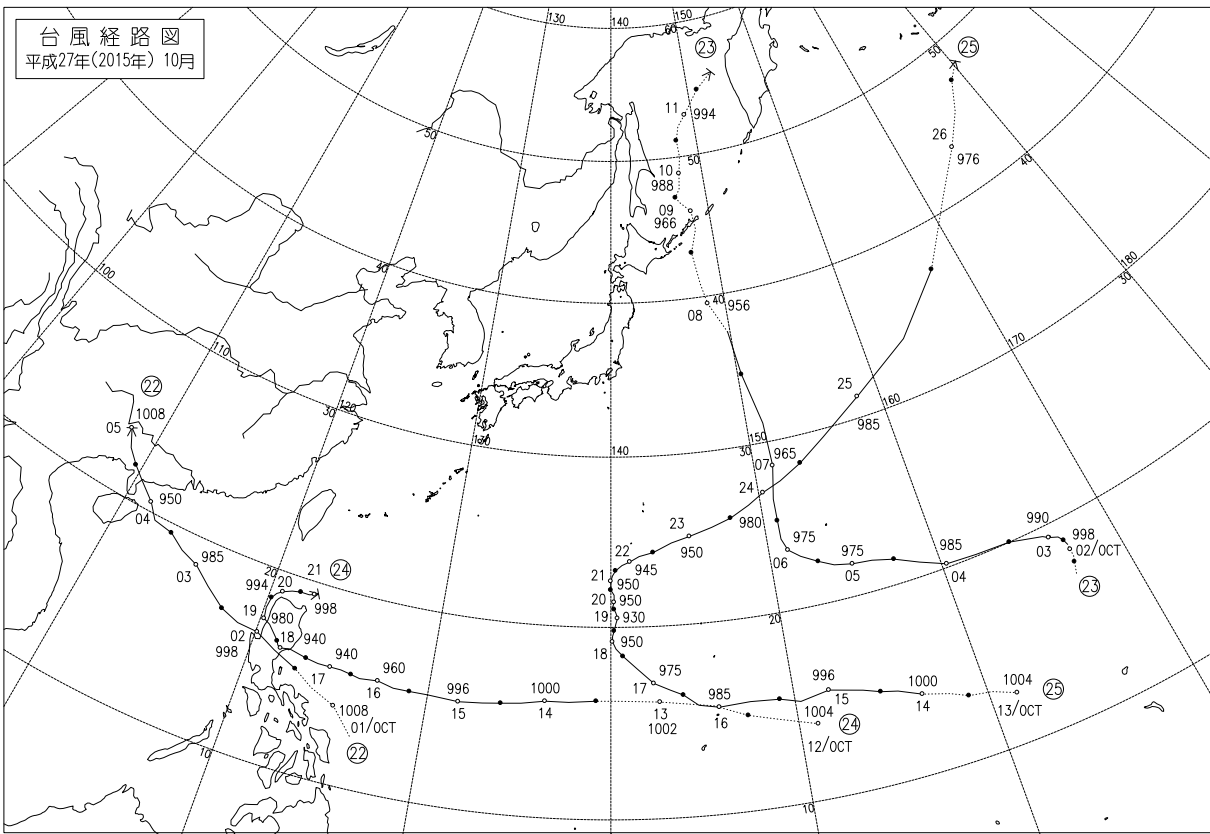
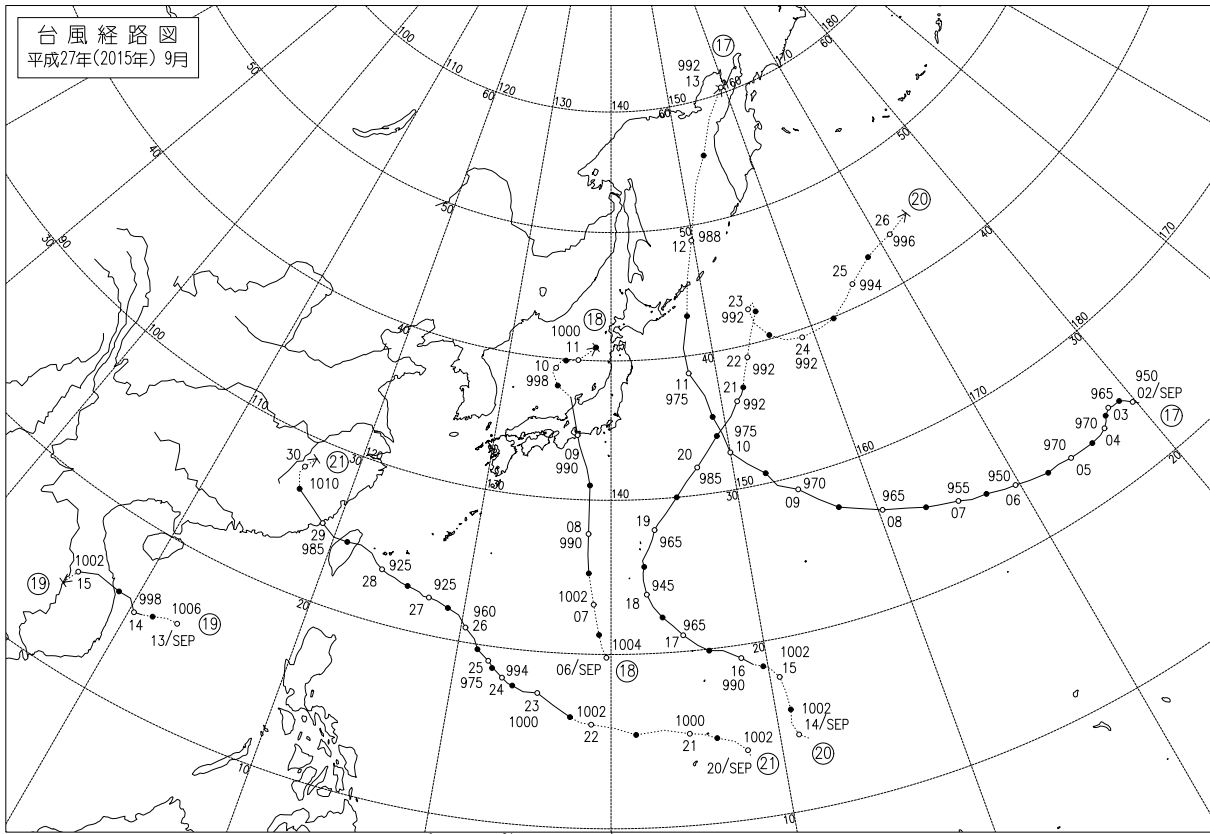


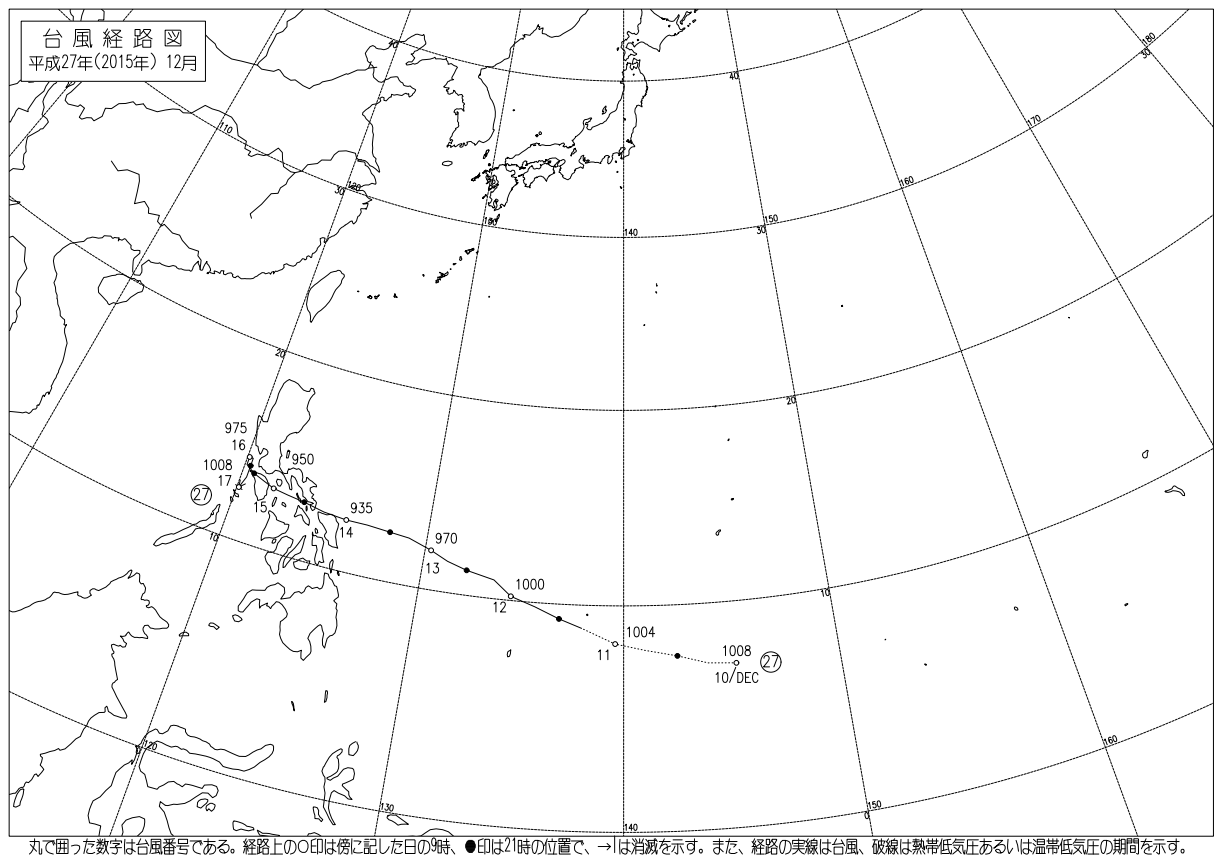
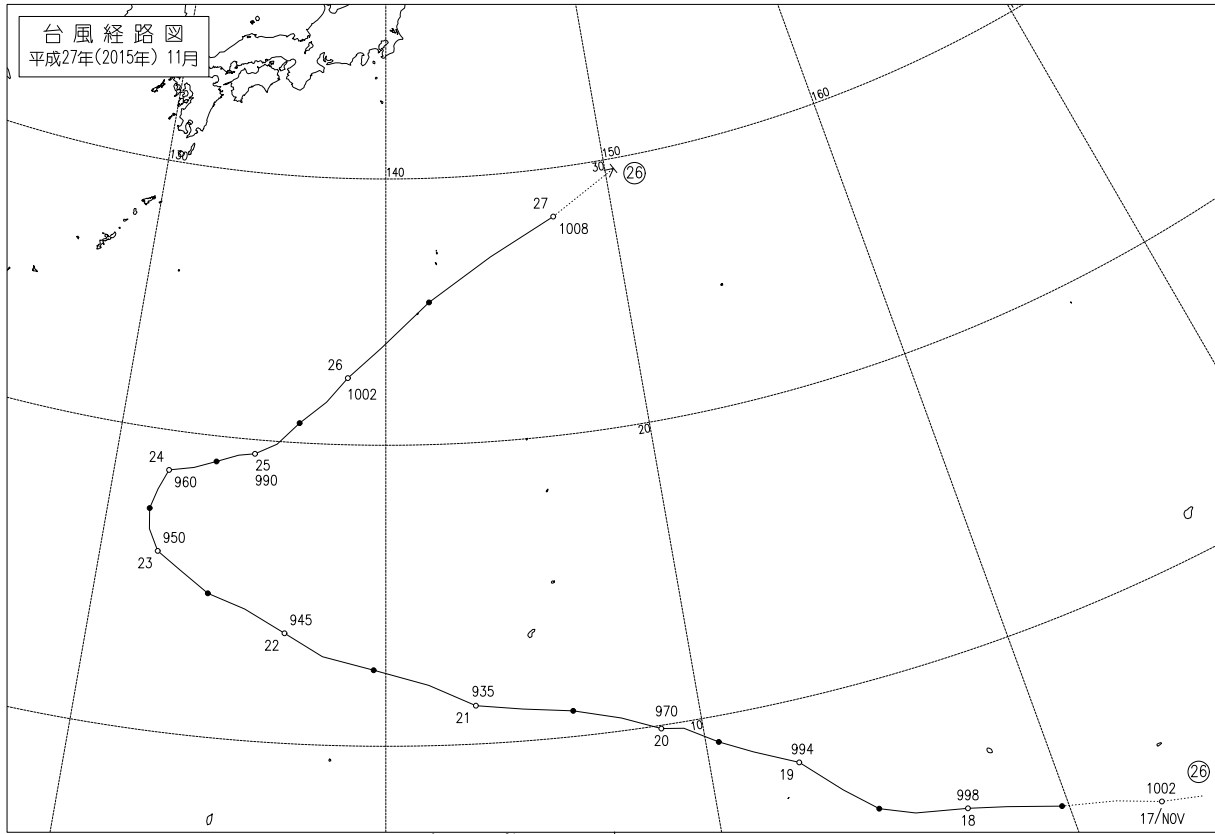


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は例に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は例に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。





3 平成27年(2015年)の天気概況

1月

発達した低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本にかけて雪、日本海側を中心に大雪(1日~5日)

1日は、三陸沖の低気圧が発達しながら東に進み、日本付近は冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった。この影響で、西日本から北日本にかけて雪が降り、近畿から東北地方にかけての日本海側を中心に大雪となった。中国地方や北陸の一部では雷を伴い、西日本では暴風や強風となったところもあった。2日は、日本付近は引き続き冬型となり、西日本から北日本にかけて雪が降り、九州や四国の一部では強風となったところもあった。3日は、引き続き冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪が降ったが、冬型は西から徐々に緩み、西日本から東日本の太平洋側では概ね晴れた。4日は、上空の寒気の影響で、北陸から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。5日は、引き続き上空の寒気の影響で、近畿から東北地方にかけての日本海側の一部で雨や雪が降った。西日本から北日本太平洋側にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。また、黄海と日本海中部に前線を伴う低気圧が発生した。

発達した低気圧の影響で全国的に雨、その後冬型の気圧配置となり日本海側は雪(6日~13日)

6日は、日本海中部の低気圧が発達しながらサハリンの西海上へ進み、伴う前線が、対馬海峡から東に進んだ低気圧に伴う前線と一体となって日本付近を通過した。この影響で、全国的に雨や雪が降り、九州や関東甲信から北海道にかけては強風となったところもあった。7日は、日本海北部の低気圧は南へ進んで不明瞭となり、オホーツク海の低気圧が千島近海に進み、別の低気圧がオホーツク海に発生し、日本付近は冬型となった。これらの影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道では暴風、東日本や北日本では強風となったところもあった。8日は、千島付近の低気圧がひとつにまとまり、東に進んだ。日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道では暴風や強風となったところもあった。9日から10日にかけても冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。11日は、日本海の低気圧が北陸付近に進み消滅した。また、別の低気圧が関東の東海上に発生した。これらの影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、中国地方や北陸の一部では雷を伴った。北陸の一部では強風となったところもあった。12日は、日本付近は冬型が強まり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降った。その他の地方は概ね晴れた。13日は、はじめ冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側の一部で雪が降ったが、その後冬型は緩み、日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れた。

本州南岸を通過した低気圧の影響で沖縄から東北地方にかけて雨や雪(14日~15日)

14日は、東シナ海の低気圧が前線を伴い、北東に進んだ。この影響で、沖縄から中国地方にかけて雨が降った。15日は、九州の南海上の低気圧が関東の東海上に進んだ。この影響で、西日本から東北地方にかけて雨や雪が降り、四国の一部では大雨となったところもあった。また、九州や四国の一部では雷を伴い、関東の一部では暴風、九州の一部では強風となったところもあった。

低気圧の影響で雨や雪、北海道を中心に暴風や強風(16日~20日)

16日は、関東の東海上の低気圧が東に進んだ。日本海に発生した低気圧と、関東付近に発生した低気圧の影響で、西日本や東日本の所々で雨が降った。北日本は寒気の影響で、所々で雪が降った。17日は、日本海の低気圧と関東の東海上の低気圧が、発達しながらひとつにまとまり、北海道の東海上に進んだ。その後、日本付近は冬型となった。これらの影響で、四国から北海道にかけて雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。九州や東日本から北日本にかけて暴風や強風となったところもあった。18日は、北海道の東海上の低気圧が東に進み、引き続き冬型となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側では雪や雨が降り、北海道では暴風や強風となったところもあった。その後、冬型は西から次第に緩み、西日本から東日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。19日、日本海の低気圧が北日本を通過して三陸沖に進み、関東の東海上で発生した低気圧は前線を伴い東に進んだ。その後、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。20日は、日本付近ははじめ冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道の一部では強

風となった。その後冬型は緩み、高気圧に覆われ、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に概ね晴れた。

発達した低気圧の影響で全国的に雨や雪（21日～24日）

21日は、東シナ海に発生した低気圧が、九州の南海上に進んだ。この影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降った。また、東海沖に発生した低気圧が関東の東海上に進んだ影響で、関東から東北南部にかけて雨が降った。また、日本海北部に発生した低気圧の影響で、北海道の一部では雪が降った。22日は、四国沖の低気圧が東海沖に進み、日本の南海上の低気圧が前線を伴い、関東の東海上に進んだ。これらの影響で、全国的に雨や雪が降った。23日は、三陸沖の低気圧が発達しながら北海道の東海上に進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、四国から北海道にかけて雨や雪が降った。24日は、北日本を中心に引き続き冬型となった。また、日本海西部の低気圧が南東に進み、関東の東海上に低気圧が発生した。これらの影響で、北陸から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。

低気圧の通過とその後の冬型の影響で、全国的に雨や雪（25日～28日）

25日は、気圧の谷と上空の寒気の影響で、北陸や北日本で雨や雪が降った。また、黄海に発生した低気圧と湿った空気の影響で、九州北部地方で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。26日は、対馬海峡付近の低気圧が消滅し、四国付近に前線を伴う低気圧が発生した。また、日本海に低気圧が発生し、前線を伴って北東に進んだ。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東日本にかけて雨が降り、近畿の一部では雷を伴った。27日は、東海沖の低気圧が関東の東海上に進んだ。また、日本海北部の低気圧がオホーツク海に進み、伴う前線が東日本から北日本を通過した。これらの影響で、中国地方から北日本にかけて雨や雪が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄では雨が降り、大雨となったところもあった。28日は、日本付近は冬型となった。また、関東の東海上に低気圧が発生し、北東に進んだ。これらの影響で、山陰から北海道にかけての日本海側と関東甲信で雪や雨が降った。また、引き続き湿った空気の影響で、沖縄では雨が降った。

発達した低気圧の通過とその後の冬型の影響で、全国的に雪や雨（29日～31日）

29日は、はじめ冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側で雪が降った。その後、日本付近は高気圧に覆われたが、九州の南海上に発生した低気圧と湿った空気の影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降った。30日は、九州の南海上の低気圧が前線を伴い、関東の東海上に進んだ。また、日本海の低気圧が東に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄では雨が降った。31日は、三陸沖の低気圧が発達しながら北海道の東海上に進んだ。また、日本海の低気圧は秋田沖で消滅した。その後、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から東日本にかけての日本海側と、北日本では雪や雨が降り、北陸の一部で暴風、北海道の一部で強風となったところもあった。

2月

冬型の気圧配置となり北日本を中心に雪（1日～3日）

1日から2日にかけては、千島近海で低気圧がほぼ停滞し、日本付近は冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。この影響で、山陰から北日本にかけて雪が降り、東北地方から北海道にかけては、強風となったところもあった。3日は、はじめ冬型となり、北陸や北日本の一部で雪が降ったが、千島近海の低気圧が千島の東海上へ進み、冬型は次第に緩んだ。

低気圧の影響で西日本や東日本で雨や雪（4日～6日）

4日は、対馬海峡付近と九州の南海上に発生した低気圧の影響で、沖縄から中国地方にかけて雨が降ったところがあった。5日は、山陰沖の低気圧と、本州の南岸から関東の東海上へ進んだ低気圧の影響で、西日本の日本海側と東日本の太平洋側を中心に雨が降り、西日本の一部で雷を伴った。また、四国では強風となったところもあった。6日は、日本付近は一時的に冬型となり、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で、全国的に雨や雪、北陸で大雪（7日～10日）

7日は、はじめ高気圧に覆われたが、気圧の谷の影響で、九州の一部や関東の一部で雨が降った。8日は、前線を伴う低気圧が本州太平洋岸に沿って進み、また、日本海北部の低気圧が東へ進んで、三陸沖でまとまっ

た。この影響で、全国的に雨や雪が降り、強風となったところもあった。9日は、サハリン付近の低気圧がほぼ停滞し、日本付近は冬型となった。この影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸では大雪となった。また、北陸の一部で雷を伴い、北日本を中心に暴風や強風となったところもあった。10日は、日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り一部で雷を伴ったが、冬型は西から次第に緩んだ。

低気圧の影響で、日本海側を中心に雪や雨（11日～12日）

11日は、日本海西部に発生した低気圧が秋田沖へ進んだ。この影響で、北陸から北海道にかけての日本海側や山陰で雪や雨が降った。12日は、日本海西部に発生した上空の寒気を伴う低気圧が東に進み、伊豆諸島付近で発生した低気圧が北東に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて日本海側を中心に雪や雨が降り、一部で雷を伴った。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で、山陰から北日本にかけて雪や雨（13日～15日）

13日から14日にかけては、日本海の低気圧が北日本を通過して釧路沖へ進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、山陰から北日本にかけて雪や雨が降り、北日本を中心に一部で暴風や強風となった。15日は、東日本や北日本を中心に冬型が続き、近畿から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、東日本から北日本にかけての一部で強風となり、北海道では暴風となったところもあった。

低気圧と冬型の気圧配置の影響で、本州を中心に雨や雪（16日～20日）

16日は、黄海と東シナ海の低気圧がそれぞれ朝鮮半島と九州付近に進んだ。これらと湿った空気の影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降った。また、北日本を中心に引き続き冬型となり、一部で強風となった。17日は、前線を伴う低気圧が本州南岸を東に進み、朝鮮半島の低気圧が日本海に進んだ。これらの影響で、西日本から東日本にかけて雨や雪が降った。18日は、関東の東海上の低気圧と日本海の2つの低気圧の影響で、東日本を中心に雨や雪が降った。一方、西日本は冬型となり、山陰を中心に雨や雪が降った。19日は、日本海中部の低気圧が消滅し、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降った。20日は、はじめ冬型となり、近畿の日本海側から北日本にかけて雪や雨が降ったが、その後、西から次第に高気圧に覆われた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨や雪（21日～23日）

21日は、前線が九州付近にのびた影響で、西日本では雨が降った。東日本や北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。22日は、日本海西部の低気圧が前線を伴って沿海州付近へ進み、また、前線が台湾付近から本州を通過して関東の東海上にのびた。これらの影響で、全国的に雨や雪が降った。23日は、日本海北部の低気圧がサハリン付近へ進み、伴う前線が関東の東海上を通過して台湾付近にのびた。これらの影響で、近畿から北日本にかけて雨や雪が降り、南西諸島で雨が降った。

北日本は冬型の気圧配置で雪や雨、南西諸島や九州は前線や気圧の谷の影響で雨（24日～25日）

24日は、サハリン付近の低気圧がオホーツク海へ進み、北日本を中心に冬型となった。この影響で、北日本の日本海側を中心に雪や雨が降った。また、沖縄付近は停滞する前線の影響で、雨が降った。25日は、前線が華南から九州の南にのびた影響で、九州や四国を中心に雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

発達する低気圧の通過で全国的に雨や雪、一部で大雪（26日～28日）

26日は、九州の西海上の前線上に発生した低気圧が本州南岸に進み、日本海西部の低気圧が、前線を伴い東に進んだ。これらの影響で、全国的に雨や雪が降った。27日は、日本海の低気圧と関東の東海上の低気圧が、発達しながらひとつにまとまって北海道の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から東日本にかけての日本海側と北日本では雨や雪が降り、北海道では大雪となった。また、東北地方の一部で雷を伴い、東日本を中心として暴風や強風となったところがあった。28日は、はじめ冬型となり、北陸や北日本で雪や雨が降ったところがあった。一方、東シナ海に発生した低気圧が、前線を伴って東へ進んだ影響で、沖縄から九州にかけて雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

3月

発達した低気圧が相次いで通過した影響で全国的に雨や雪（1日～5日）

1日は、九州付近の前線を伴う低気圧が本州南岸を通過して関東付近へ進み、日本海中部に発生した低気圧が秋田沖に進んだ。これらの影響で、全国的に雨や雪が降り、関東を中心として一部で強風となったところもあった。2日は、三陸沖の前線を伴う低気圧が発達しながら千島近海へ進み、北日本を中心に冬型の気圧配置（以下冬型と略す）となった。これらの影響で、近畿の日本海側から北日本にかけて雨や雪が降り、北海道を中心として一部で強風となった。その後、南西諸島から東日本にかけては次第に高気圧に覆われ、概ね晴れた。3日は、はじめ北日本を中心として冬型となり、雪や雨が降った。一方、東シナ海付近の低気圧が前線を伴って四国沖へ進んだ影響で、東日本の一部や南西諸島から西日本にかけて雨が降った。4日は、東海地方付近の前線を伴った低気圧が本州の太平洋岸を通過して千島近海へ進み、日本海中部の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、山陰から北日本にかけて雨や雪が降り、東日本から北日本にかけての一部で強風となった。また、低気圧からのびる前線の影響で、南西諸島で雨が降った。5日は、発達した低気圧が千島付近にはほぼ停滞し、日本海中部の低気圧が津軽海峡付近へ進んで消滅し、日本付近は一時的に冬型となった。これらの影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に一部で雨や雪が降り、東北地方を中心として一部で強風となった。また、南西諸島では湿った空気の影響で、雨が降った。

低気圧や湿った空気の影響で南西諸島から東日本にかけて雨（6日～8日）

6日は、前線が沖縄付近に発生した影響で、南西諸島で雨が降った。また、湿った空気の影響で、九州から四国にかけての一部や東海地方から関東南部にかけて、雨が降った。7日は、低気圧が日本の南海上を東へ進み、別の低気圧が本州南岸に発生した。これらの低気圧と湿った空気の影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、また、湿った空気の影響で、北海道の一部で雪や雨が降った。8日は、日本の南海上の前線を伴った低気圧が東へ進んだ。この低気圧と湿った空気の影響で、近畿から東日本を中心に雨が降った。

発達した低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で全国的に雨や雪、一部で暴風や強風（9日～12日）

9日は、九州の西海上の低気圧が前線を伴って本州南岸へ進み、日本海西部の低気圧が北東へ進んだ影響で、全国的に雨が降った。また、南西諸島から四国にかけての一部では強風となり、九州では暴風となったところもあった。関東では一部で雷を伴った。10日は、関東の東海上の前線を伴った低気圧が発達しながら北へ進み、北海道付近で日本海北部の低気圧とまとまり、日本付近は冬型となった。これらの影響で、九州から北海道にかけて雨や雪が降り、一部で暴風や強風となった。また、雷を伴ったところもあった。11日は、宗谷海峡付近に低気圧がほぼ停滞し、東日本や北日本を中心に冬型が続いた。これらの影響で、北陸や北日本を中心に雪が降り、東日本の一部で暴風や強風となった。12日は、引き続き東日本や北日本を中心に冬型となり、東日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪が降った。北日本を中心に一部で暴風や強風となり、北陸では一部で雷を伴った。また、沖縄は湿った空気の影響で雨が降った。

気圧の谷の影響で日本海側を中心に雨や雪（13日～14日）

13日は、北日本を中心に冬型が続き、また、気圧の谷が日本海付近を南下した影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。南西諸島から本州にかけての太平洋側は、高気圧に覆われ概ね晴れた。14日は、華中から九州の南海上にかけて前線がのび、南西諸島で雨が降った。また、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、西日本の日本海側を中心に雨が降った。

前線や気圧の谷の影響で南西諸島から東北地方にかけて雨や雪（15日～19日）

15日から16日にかけては、本州の南岸に前線が停滞し、九州の南海上の前線上に低気圧が発生して東へ進んだ。これらの影響で、東日本の太平洋側や九州、四国を中心に雨が降った。北陸から北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。17日は、はじめ関東の南海上に低気圧がほぼ停滞し、また九州の南海上から本州南岸にかけて前線が停滞した影響で、南西諸島の一部や関東の一部で雨が降った。また、気圧の谷が北日本付近を通過した影響で、北日本の一部で雨や雪が降ったが、その他の地域では概ね晴れた。18日は、華中の低気圧が前線を伴って九州の西海上へ進んだ影響で、西日本を中心に雨が降り、一部で雷を伴った。19日は、山陰付近の前線を伴った低気圧が三陸沖へ進んだ影響で、九州から東北地方にかけて雨や雪が降った。

日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れ（20日～21日）

20日から21日にかけては、湿った空気の影響で、本州や北海道の一部で雨や雪が降ったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。

気圧の谷の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雨や雪（22日～25日）

22日は、はじめ高気圧に覆われ、西日本から東日本にかけて概ね晴れたが、その後、気圧の谷の影響で、東海地方や北日本を中心に一部で雨や雪が降り、東海地方や東北地方を中心に一部で雷を伴った。また、沖縄では、湿った空気の影響で雨が降った。

23日は、日本海北部に低気圧がほぼ停滞し、また、低気圧が日本の東海上を北東へ進んだ影響で、近畿の日本海側から北日本にかけて雨や雪が降り、東日本から北日本にかけての一部で暴風や強風となったほか、東北地方では一部で雷を伴った。また、沖縄では湿った空気の影響で雨が降った。

24日は、北海道付近の低気圧が東へ進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、山陰から北日本にかけて雨や雪が降り、北日本を中心に一部で強風となった。

25日は、北海道の東海上に低気圧がほぼ停滞し、日本付近は冬型となった。この影響で、北海道の一部や山陰から東北地方にかけての日本海側で雨や雪が降った。

日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れ（26日～28日）

26日は、湿った空気の影響で沖縄の一部で雨が降ったが、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。27日は、東シナ海に2つの低気圧が発生した影響で、南西諸島では雨が降った。また、日本の南の高気圧とサハラ付近の気圧の谷の影響で、北日本では暴風や強風となったところがあったが、西日本から北日本にかけては概ね晴れた。28日は、東シナ海の低気圧が九州の南海上に進んだ影響で、南西諸島では雨が降ったが、その他の地域では概ね晴れた。

日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れ（29日～31日）

29日は、九州の南海上の低気圧が東へ進み、また、気圧の谷が日本付近を通過した影響で、九州から東北南部にかけて雨や雪が降ったところがあった。30日は、日本付近は次第に高気圧に覆われ概ね晴れた。31日は、沿海州の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北海道付近を通過した。この影響で、北海道を中心に雨や雪が降った。また、湿った空気の影響で、四国から中国地方にかけての一部や九州で雨が降った。

4月

低気圧の影響で九州から北海道にかけて雨や雪、一部で大雨や暴風（1日～3日）

1日は、オホーツク海の低気圧からのびる前線が本州付近を通過し、また、関東の東海上に発生した低気圧が前線を伴って東へ進んだ。これらの影響で、九州から北海道にかけて雨や雪が降った。2日は、日本付近ははじめ高気圧に覆われ概ね晴れたが、黄海の低気圧から西日本付近にのびる前線と湿った空気の影響で、西日本の太平洋側で雨が降ったところがあった。3日は、日本海西部の低気圧が北海道付近へ進み、伴う前線が本州付近を通過した。これらの影響で、九州から北陸にかけて、および北日本で雨や雪が降り、九州や四国では大雨となったところがあった。また、九州や東日本を中心に一部で暴風や強風となり、西日本の一部で雷を伴った。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪（4日～8日）

4日は、はじめ千島近海の低気圧の影響で、北海道では暴風や強風となったところがあった。また、前線が九州の西海上から関東の東海上にかけて停滞し、前線上の関東の南海上に発生した低気圧が東へ進んだほか、山陰沖に低気圧が発生した。これらの影響で、九州から関東甲信にかけて、雨が降り、西日本の一部で雷を伴った。5日は、前線が本州付近にほぼ停滞し、この前線上の三陸沖に低気圧が発生した。また、日本海中部の低気圧が北へ進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、九州や北海道で強風となったところがあったほか、九州や中国地方を中心に一部で雷を伴った。6日は、三陸沖の前線を伴う低気圧が千島近海へ進み、また、前線が東シナ海から本州の南岸にかけて停滞した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、九州の一部で雷を伴った。7日から8日にかけては、沖縄付近から関東の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の本州南岸に発生した二つの低気圧が東へ進んだ。これらと湿った空気の影響で、南西諸島から東日本を中心に雨が降り、伊豆諸島を中心に一部で大雨や強風となった。

沖縄・奄美は前線の影響、西日本から北日本にかけては低気圧の影響で雨（9日～11日）

9日は、沖縄の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の九州の南海上に低気圧が発生した。これらの影響で、九州や四国を中心として雨が降った。東日本から北日本にかけては、高気圧に覆われ概ね晴れた。10日は、九州付近の低気圧が前線を伴って北東へ進み、別の低気圧が関東の南海上の前線上に発生したほか、沖縄付近に前線が停滞した。これらの影響で、南西諸島から東北地方南部を中心に雨が降り、九州では大雨となったところがあった。11日は、関東の南海上の低気圧が前線を伴って日本の東海上に進んだ影響で、四国から北海道にかけて雨が降り、また、前線が沖縄の南海上から日本の南海上にかけて停滞した影響で、沖縄・奄美で雨が降った。

低気圧や上空の寒気の影響で全国的に雨、西日本や東日本の一部で大雨（12日～16日）

12日は、前線上の九州の南海上に発生した低気圧が北へ進んだ影響で、南西諸島から中国地方にかけて雨が降った。13日は、九州付近の低気圧がはじめ前線を伴って北へ進み、別の低気圧が前線上の四国沖に発生した。これらの影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨が降り、四国や伊豆諸島を中心に大雨となったところがあった。14日は、四国沖の低気圧と関東の東海上の低気圧が、前線を伴ってそれぞれ関東の南海上と北海道の東海上へ進み、また、黄海の低気圧と対馬海峡の低気圧がそれぞれ九州付近と日本海中部へ進んだ。これらと上空の寒気の影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、九州を中心に一部で雷を伴った。15日は、三陸沖の低気圧が前線を伴って釧路沖へ進み、日本海中部の低気圧が北へ進んだほか、瀬戸内海付近の低気圧が三陸沖へ進んだ。これらと上空の寒気の影響で、九州から北海道にかけて雨が降り、北陸や関東、東北地方を中心に一部で雷を伴った。16日は、北海道の東海上の低気圧が東へ進み、この低気圧や上空の寒気の影響で、北陸から北海道にかけての一部で雨が降った。また、黄海の低気圧が前線を伴って日本海西部へ進んだ影響で、九州を中心に雨が降り、一部で雷を伴った。

低気圧が相次いで通過した影響で全国的に雨、南西諸島から東日本にかけての一部で大雨（17日～21日）

17日は、日本海中部の低気圧が前線を伴って北へ進み、本州付近に発生した低気圧が前線を伴って三陸沖へ進んだ。これらの影響で、九州から北海道にかけて一部で雨が降り、北海道の一部で強風となったほか、北陸や関東を中心に雷を伴ったところがあった。18日は、北海道の東海上の低気圧が千島近海へ進み、また、日本海北部に低気圧がほぼ停滞した影響で、東北北部から北海道にかけての一部で雨が降った。また、前線が華中から九州北部にのびた影響で、九州北部や山陰で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。19日は、黄海の低気圧が朝鮮半島付近へ進み、伴う前線が東日本付近に達した影響で、南西諸島から北陸にかけて雨が降り、沖縄や九州北部では大雨となったところがあった。また、千島近海の低気圧が西へ進んで消滅した影響で、北海道の一部で雨が降った。20日は、対馬海峡の低気圧が津軽海峡へ進み、伴う前線が本州の一部や南西諸島を通過した影響で、全国的に雨が降り、南西諸島から東海地方にかけて大雨となったところがあった。また、沖縄では一部で雷を伴った。21日は、北海道付近の低気圧が北東へ進み、伴う前線が東日本付近を通過した影響で、近畿から北海道を中心に雨が降った。また、前線が沖縄の南海上に停滞した影響で、沖縄で雨が降った。

全国的に概ね晴れたが、低気圧や上空の寒気の影響で一部で雨（22日～27日）

22日は、本州南岸に発生した低気圧が東へ進んだ影響で、関東南部や伊豆諸島で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。23日は、日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れた。24日は、沿海州の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本付近を通過した影響で、北海道の一部で雨が降ったほか、北日本では強風となったところがあった。本州付近は高気圧に覆われ概ね晴れた。25日は、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、関東甲信を中心に一部で雨が降り雷を伴ったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。26日から27日にかけては、はじめサハリンの西海上の低気圧が東へ進んだ影響で、北海道の一部で強風となったが、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で南西諸島から西日本を中心に雨、南西諸島や九州の一部で大雨（28日～30日）

28日は、前線が華南から日本の南海上にのびた影響で、九州南部地方の一部や四国の一部、および沖縄で雨が降り、南西諸島では大雨となったところがあった。また、沖縄では一部で雷を伴った。29日は、沖縄付近から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の日本の南海上に発生した低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、沖縄から関東にかけての太平洋岸を中心に一部で雨が降った。また、黄海に低気圧がほぼ停滞した影

響で、九州北部で雨が降り、一部で雷を伴った。30日は、黄海の低気圧が九州の西海上へ進んで消滅し、別の低気圧が九州の南海上に発生してほぼ停滞した。これらと湿った空気の影響で、九州を中心に雨が降り、九州の南部では一部で大雨となり雷を伴ったところがあった。

5月

低気圧の影響で全国的に雨（1日～5日）

1日～2日は、はじめ九州の南海上に上空の寒気を伴った低気圧がほぼ停滞し、この影響で九州南部地方で雨が降り、一部で大雨となった。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。3日は、黄海の低気圧が対馬海峡付近へ進み、伴う前線が南西諸島付近や九州付近にのびた。これらの影響で、西日本を中心に雨が降り、先島諸島で大雨となったところがあったほか、沖縄・奄美の一部で雷を伴った。4日は、日本海西部の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が北海道付近や本州付近を東へ進んだ。また、沖縄の南海上から四国付近を通過して日本の南海上にのびる別の前線が東へ進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて、および先島諸島で雨が降った。5日は、サハリンの西海上の低気圧が北へ進み、伴う前線が北海道付近を通過して東日本の太平洋岸にのび、東へ進んだ。これらの影響で、東日本の一部や北海道で雨が降ったほか、北海道では強風となったところがあった。

前線の影響で南西諸島や西日本で雨、東日本や北日本は気圧の谷や低気圧の影響で一部で雨（6日～10日）

6日は、本州付近は高気圧に覆われ概ね晴れたが、華南から九州の南海上に前線がのびた影響で、南西諸島から九州南部にかけての一部で雨が降った。7日は、前線上の九州の南海上に低気圧が発生し、東へ進んだ。これらと気圧の谷の影響で、南西諸島から西日本にかけて雨が降り、近畿の一部で雷を伴った。8日は、はじめ気圧の谷の影響で近畿や北陸、伊豆諸島で雨が降ったところがあったが、その後南西諸島から東日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。一方、日本海北部の低気圧が北海道付近へ進んだ影響で、北海道の一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。9日は、前線が華南から本州南岸を通過して日本の東海上へのび、前線上の東シナ海に発生した低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、奄美地方から西日本にかけて、および伊豆諸島で雨が降った。一方、日本海西部の低気圧が秋田沖へ進んだ影響や気圧の谷の影響で、東日本や北日本で雨が降ったところがあった。10日は、三陸沖の低気圧が東へ進んだ影響で、北日本を中心に一部で雨が降った。また、前線や湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。西日本や東日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。

台風第6号や低気圧の影響で全国的に雨、一部で大雨（11日～13日）

11日は、台風第6号が沖縄の南海上を北上し先島諸島付近に達した。この影響で、先島諸島で雨が降り、一部で大雨や暴風、強風となった。また、低気圧が華中から黄海へ進み、伴う前線が九州付近へ達した影響で、中国地方の日本海側や九州で雨が降ったところがあった。東日本や北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。12日は、朝鮮半島の低気圧が沿海州へ進み、伴う前線が西日本や東日本を通過した。また、台風第6号が種子島の東の海上で温帯低気圧に変わり、前線を伴って日本の南岸を東へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、四国や本州、これらの太平洋側を中心に大雨となったところがあったほか、南西諸島から東日本にかけての一部で暴風や強風となった。また、沖縄・奄美の一部で雷を伴った。13日は、三陸沖の低気圧が前線を伴って千島列島付近へ進んだ。これらの影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、東日本の一部で強風となったほか、北海道で雷を伴ったところがあった。

前線や気圧の谷の影響で南西諸島から東日本にかけて雨、北日本は気圧の谷や低気圧の影響で雨（14日～21日）

14日は、はじめ北海道の東海上の低気圧の影響で北海道を中心に雨が降った。また、高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、南西諸島から西日本にかけて雨が降ったところがあったほか、四国や中国地方の一部で雷を伴った。15日は、前線が華中から九州付近を通過して本州南岸へのびた影響で、西日本で雨が降り、九州南部地方では大雨となったところがあった。また、日本海西部の低気圧が秋田沖へ進んだ影響で、北日本を中心に雨が降り、東北地方の一部で雷を伴った。16日は、はじめ前線が九州や本州南岸に停滞し、前線上の関東付近に発生した低気圧が北東へ進んだほか、三陸沖の低気圧が千島近海へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、北陸や東北地方では雷を伴ったところがあった。17日は、サハリンの西海上の低気圧が東

へ進んだ影響で、北海道で雨が降ったところがあった。一方、南西諸島付近に前線が停滞した影響で、奄美地方の一部で雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。18日は、華中から日本の南海上にかけてのびる前線が西から北上し、九州付近に停滞した影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、九州の一部で強風となった。19日は、華中から本州南岸にかけてのびる前線上の関東付近に低気圧が発生して北東へ進み、前線が西から南下して南西諸島付近に停滞した。また、日本海の低気圧が北東へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降った。20日は、台風第7号が小笠原諸島付近を通過した影響で、小笠原諸島では暴風となった。一方、低気圧が日本海北部を次々に北東へ進んだ影響で、北海道を中心に雨が降り、一部で強風となったほか、上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、四国から関東にかけて一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。また、沖縄付近に停滞する前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。21日は、はじめ上空の寒気や気圧の谷の影響で、北日本の一部や近畿から関東にかけての太平洋側で雨が降り、関東では雷を伴った。また、沖縄の南海上に前線が停滞した影響で、先島諸島を中心に雨が降った。

前線の影響で南西諸島で雨、北日本は気圧の谷や低気圧の影響で雨（22日～28日）

22日は、沖縄付近に前線が停滞し、前線上の先島諸島付近に低気圧が発生した。これらの影響で、沖縄・奄美で雨が降り、先島諸島では大雨となったところがあった。また、気圧の谷が北日本付近を通過した影響で、北海道の一部で雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。23日から24日にかけては、華南から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上を複数の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島の一部で大雨となり、西日本から東日本にかけての太平洋側や伊豆諸島で雨が降ったところがあった。また、北海道付近を低気圧が東へ進んだ影響で、北海道の一部で雨が降ったほか、東北地方で暴風となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。25日は、引き続き華南から日本の南海上にかけて前線が停滞し、低気圧が次々に前線上を東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島や伊豆諸島で雨が降り、南西諸島の一部では大雨となった。また、上空の寒気の影響で、中国地方の一部や東日本の一部で雨が降った。26日は、沖縄の南海上に前線が停滞し、低気圧が前線上を東へ進んだ影響で、南西諸島で雨が降った。また、日本海北部の低気圧が釧路沖へ進んだ影響で、北海道で雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。27日は、沖縄の南海上の前線が北上した影響で、沖縄で雨が降った。また、上空の寒気と湿った空気の影響で、東北北部を中心に雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。28日は、東シナ海に低気圧が発生し、九州の南海上へ進んだ影響で、南西諸島や九州南部で雨が降り、一部で大雨となった。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で南西諸島から東日本にかけて雨、北陸や北日本は気圧の谷の影響で雨（29日～31日）

29日は、日本の南海上を低気圧が東へ進んだ影響で、関東や伊豆諸島を中心に雨が降った。また、前線が華中から沖縄付近へのびた影響で、南西諸島の一部で雨が降った。30日は、前線が華南から日本の南海上へのび、前線上の低気圧が九州付近へ進んだ影響で、南西諸島や西日本で雨が降った。また、関東の東海上の低気圧が北東へ進んだ影響や寒冷前線が日本海北部を東へ進んだ影響で、東日本や北日本の一部で雨が降った。31日は、華南から関東の東海上にかけて前線がのび、前線上の低気圧が東へ進んだ影響で、南西諸島や西日本、伊豆諸島で雨が降ったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北陸や北日本を中心に雨が降った。

6月

前線と低気圧の影響で全国的に雨、西日本で大雨（1日～4日）

1日は、南西諸島から日本の南海上にかけて前線が停滞した影響で、南西諸島や伊豆諸島で雨が降り、南西諸島の一部で雷を伴った。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、九州の南海上の前線が北上して九州から本州南岸にかけて停滞した影響で、西日本や伊豆諸島で雨が降り、九州では大雨となったところがあったほか、九州の一部で雷を伴った。また、沿海州の低気圧が千島近海へ進んだ影響で、北海道の一部で雨が降った。3日は、九州付近から日本の南岸にかけて停滞する前線上を低気圧が東へ進み、日本海中部の低気圧が前線を伴って日本海北部へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州、四国から近畿にかけての太平洋側、及び北海道では一部で大雨となったほか、九州では強風となったところがあった。また、北海道の一部で雷を伴った。4日は、北海道付近の低気圧が千島近海へ進んだ影響で、東北地方の日本海側や北

海道を中心に雨が降った。また、南西諸島付近に前線が停滞したほか、前線上の本州南岸の低気圧が東へ進んだ影響で、南西諸島や伊豆諸島で雨が降った。

前線や前線上の低気圧の影響で全国的に雨（5日～9日）

5日は、東シナ海の低気圧が前線を伴って本州南岸を東へ進んだ影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降った。また、はじめ千島近海に低気圧がほぼ停滞した影響で、北海道で雨が降った。6日は、関東の南海上の低気圧が前線を伴って東へ進んだ影響で、関東を中心に中国地方から東北南部にかけて雨が降った。また、南西諸島付近に停滞する前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。7日から8日にかけては、南西諸島付近から日本の南海上にかけてのびる前線が北上して九州付近や本州南岸に停滞し、前線上の九州の西海上に低気圧が発生した。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、九州や近畿で大雨となったところがあった。また、湿った空気の影響で、北海道の一部で雨が降った。9日は、九州付近から本州南岸にかけてのびる前線上の低気圧が東へ進み、三陸沖に達した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、九州や近畿、伊豆諸島では一部で大雨となった。

前線の影響で西日本や東日本で雨、九州の南部を中心に大雨、北日本は低気圧の影響で雨（10日～13日）

10日は、九州の南海上から本州の南海上にかけて前線が停滞した影響で、九州や伊豆諸島で雨が降り、九州の南部では大雨となったところがあった。また、三陸沖の低気圧が前線を伴って北東へ進み、千島近海へ達した影響で、北日本で雨が降った。11日は、九州付近から本州南岸にかけて前線が停滞した影響で、西日本や東海地方、伊豆諸島を中心に雨が降り、西日本で大雨となったところがあったほか、九州では雷を伴ったところがあった。12日は、前線上の関東の南海上に低気圧が発生して東へ進み、前線が西から南下して九州の南海上に停滞した。これらの影響で、九州南部地方から東日本にかけて雨が降った。また、日本海西部の低気圧が秋田沖へ進んだ影響で、北海道の一部や東北地方で雨が降った。13日は、九州の南海上に前線が停滞した影響で、南西諸島や九州の南部を中心に雨が降り、奄美で大雨となったところがあった。また、日本海北部の低気圧が北へ進んだ影響で、北日本で雨が降った。

前線の影響で西日本を中心に雨、九州の南部で大雨、東日本や北日本は上空の寒気の影響で雨（14日～18日）

14日は、九州付近から本州南岸にかけて前線が停滞した影響で、四国から関東にかけての太平洋側や九州で雨が降り、九州の南部で大雨となったところがあったほか、一部で雷を伴った。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で、北日本の一部で雨が降り、東北地方では一部で雷を伴ったところがあった。15日から16日にかけては、引き続き九州付近から本州南岸にかけて前線が停滞し、前線上の九州の西海上に低気圧が発生して東へ進んだ。これらと上空の寒気の影響で、西日本や東日本を中心に雨が降り、九州の南部や伊豆諸島で大雨となったところがあったほか、関東や東北地方では一部で雷を伴った。17日は、引き続き上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、東日本を中心に雨が降ったほか、関東甲信や東北地方の一部で雷を伴った。また、華中から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の低気圧が華中から九州の西海上へ進んだ影響で、九州や四国を中心に雨が降った。18日は、九州付近に前線が停滞し、前線上の低気圧が九州の西海上から四国沖に進んだ。これらと湿った空気の影響で、九州南部地方から東日本にかけて雨が降り、西日本の太平洋側を中心に一部で大雨となった。また、北日本の一部で雨が降った。

前線の影響で沖縄・奄美や九州を中心に雨、一部で大雨、本州や北海道は上空の寒気や低気圧の影響で雨（19日～25日）

19日は、本州南岸の前線上の低気圧が東へ進み、前線が沖縄本島付近に南下したほか、能登半島付近に低気圧が発生してほぼ停滞した。これらの影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨が降り、奄美の一部で大雨となった。また、気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨が降った。20日は、能登半島付近に低気圧がほぼ停滞した後消滅した。この低気圧と上空の寒気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降ったところがあった。また、沖縄本島付近に前線が停滞した影響で、南西諸島で雨が降った。21日は、沖縄本島付近から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の日本の南海上の低気圧が東へ進んだ。これらと上空の寒気の影響で、中国地方から東北地方にかけて雨が降り、北陸地方で大雨となったところや雷を伴ったところがあった。また、前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。22日は、南西諸島付近に前線が停滞した影響で、南西諸島や九州で雨が降った。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、近畿から北海道にかけての一部で雨が降った。23日は、

九州の南海上に前線が停滞し、その後九州付近に北上した影響で、南西諸島や九州で雨が降り、奄美では大雨となったところがあったほか、奄美の一部で雷を伴った。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で、東日本や北海道を中心に雨が降ったほか、東日本や東北地方の一部で雷を伴った。24日から25日にかけては、九州付近に前線が停滞した影響で、南西諸島や九州を中心に雨が降り、九州南部地方では一部で大雨となったほか、沖縄・奄美で雷を伴ったところがあった。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で、本州の一部や北海道で雨が降った。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、一部で大雨（26日～28日）

26日は、前線上の黄海の低気圧が東へ進み、また前線が北上して西日本付近に停滞した。これらの影響で、西日本から東北南部にかけて雨が降り、本州の一部で大雨となった。また、北海道の東海上に低気圧が発生し東へ進んだ影響で、北海道のオホーツク海側を中心に雨が降った。27日は、日本海中部の低気圧と前線上の関東の南海上の低気圧がそれぞれ東へ進み、また前線が九州の南海上に停滞した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、北日本では大雨となったところがあった。28日は、秋田沖の低気圧がほぼ停滞した後消滅し、三陸沖の低気圧が前線を伴って東へ進んだ。これらの影響で、山陰や北陸、北日本を中心に雨が降り、東北北部では大雨となったところがあった。また、九州の南海上に引き続き前線が停滞した影響で、奄美や九州の南部を中心に雨が降り、奄美では一部で大雨となった。

前線の影響で西日本を中心に雨、北海道は湿った空気の影響で雨（29日～30日）

29日は、前線が奄美付近に停滞した影響で、奄美で雨が降り、一部で大雨となった。その他の地域は、はじめ三陸沖の低気圧の影響で北陸や北日本の一部で雨が降ったところがあったが、その後概ね晴れた。30日は、前線上の華中に発生した低気圧が対馬海峡付近へ進み、また前線上の日本の南海上の低気圧が関東の東海上へ進んだ。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、奄美を中心に一部で大雨となったほか、九州では雷を伴ったところがあった。一方、湿った空気の影響で、北海道で雨が降った。

7月

前線の影響で西日本から東日本にかけての太平洋側や南西諸島で雨、一部で大雨（1日～6日）

1日は、前線上の山陰沖の低気圧が東へ進み、前線が南下して九州付近から関東付近にかけて停滞した。また、日本海中部の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、奄美から東日本にかけて大雨となったところがあった。また、九州や関東では強風となったところがあった。2日から3日にかけては、引き続き前線が九州付近から関東付近にかけて停滞した影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、九州南部地方から東日本にかけての太平洋側や伊豆諸島で大雨となったところがあった。また、日本海北部の低気圧が千島近海へ進んだ影響で、北海道を中心に雨が降った。4日は、引き続き前線が九州付近から関東付近にかけて停滞し、前線上の関東の東海上に低気圧が発生して北東へ進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて、および北日本の一部で雨が降り、九州南部地方や伊豆諸島では大雨となったところがあった。また、北陸の一部で雷を伴った。5日から6日にかけては、前線が九州付近から本州南岸にかけて停滞した。この前線や上空の寒気の影響で、沖縄・奄美や九州、四国のほか、近畿から東北南部にかけての太平洋側で雨が降り、九州の南部や伊豆諸島では一部で大雨となった。また、弱い気圧の谷の影響で、北海道で雨が降ったところがあった。

前線や台風第9号の影響で南西諸島から東日本にかけて雨、南西諸島や九州で大雨や暴風（7日～12日）

7日は、九州付近から本州南岸にかけて前線が停滞し、その後九州付近の前線が北上した。この前線や湿った空気の影響で、南西諸島の一部や西日本から東日本にかけて雨が降り、九州北部では大雨となったところがあった。また、サハリンの西海上の低気圧が千島近海へ進んだ影響で、北海道の一部で雨が降ったほか、強風となったところがあった。8日は、前線が北上して本州付近に停滞し、また、日本の南海上を台風第9号が北上した。台風からの湿った空気と前線の影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨が降った。9日は、引き続き前線が本州付近に停滞した影響で、西日本や東日本を中心に雨が降り、伊豆諸島の一部で大雨となった。また、台風第9号が沖縄の南海上を北西へ進み沖縄本島付近に達した影響で、沖縄・奄美で雨が降り、暴風や強風となった。10日は、台風第9号が沖縄本島付近から東シナ海へ進んだ影響で、南西諸島では雨が降り、沖縄で大雨となったほか、沖縄・奄美で暴風や強風となった。また、はじめ前線が西日本付近に停滞し、前線や湿った空気の影響で、西日本や東日本で雨が降ったところがあった。11日から12日にかけては、台風第9号が東シ

ナ海を北上して黄海に達した。この台風や湿った空気の影響で、南西諸島や西日本で雨が降り、奄美や九州、四国で大雨となったところがあった。また、沖縄・奄美の一部で強風となった。

湿った空気の影響で南西諸島や西日本で雨、北日本は低気圧や前線の影響で雨（13日～14日）

13日から14日にかけては、台風第9号が朝鮮半島付近へ進んで温帯低気圧に変わった後、沿海州付近へ進み、前線を伴ってサハリンの西海上へ進んだ。これらの影響で、北海道を中心に雨が降り、一部で大雨となった。また、湿った空気の影響で、南西諸島や西日本を中心に雨が降り、九州や四国では大雨となったところがあった。

台風第11号や湿った空気の影響で全国的に雨、西日本や東日本で大雨や強風（15日～19日）

15日は、オホーツク海に低気圧がほぼ停滞し、前線が北日本付近を南下した。また、台風第11号が日本の南海上を北上した。これらの影響で、本州や北海道を中心に一部で雨が降り、東北地方の一部で雷を伴った。また、湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降った。16日は、台風第11号が日本の南海上を北上し、午後11時頃に高知県室戸市付近に上陸した。この台風と湿った空気の影響で、西日本から東北南部にかけて雨が降り、本州の太平洋側や四国では大雨となったほか、西日本や東海地方で強風となったところがあった。17日は、台風第11号が引き続き北上し、午前6時頃岡山県倉敷市付近に上陸した後、日本海に達し、午後9時頃熱帯低気圧に変わった。また、前線が北日本付近に停滞した。これらの影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、近畿地方を中心に大雨となったほか、西日本の一部で強風となった。一方、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。18日は、日本海西部の熱帯低気圧が北へ進み、引き続き前線が北日本付近に停滞した。また、沖縄の南海上に熱帯低気圧が発生し、北へ進んだ。これらと湿った空気の影響で、全国的に雨が降り、近畿から東日本にかけて大雨となったところがあった。19日は、沖縄本島付近の熱帯低気圧が九州の西海上へ進んだほか、引き続き前線が北日本付近に停滞した。これらと湿った空気の影響で、全国的に雨が降り、南西諸島や四国で大雨となったところがあった。

前線や湿った空気の影響で全国的に雨、南西諸島や西日本で大雨（20日～24日）

20日は、九州の西海上の熱帯低気圧が対馬海峡付近へ進んでほぼ停滞し、前線が朝鮮半島付近から東北地方付近へのびた。これらと湿った空気の影響で、南西諸島から西日本にかけて、および関東から東北地方にかけて雨が降り、沖縄・奄美や九州南部地方、東北南部で大雨となったところがあった。21日は、前線が北日本付近を北上した影響で、北日本で雨が降った。また、湿った空気の影響で、南西諸島や西日本で雨が降り、四国の一部や九州南部地方で大雨となった。22日は、湿った空気の影響で、西日本や東海地方を中心に雨が降り、一部で大雨となった。また、前線が北日本付近に停滞した影響で、北海道で雨が降り大雨となったところがあったほか、東北地方では大気の状態が不安定になった影響で、一部で雨が降った。23日は、前線が北日本付近を南下した。また、台風第12号が日本の南海上を北西へ進んだ。台風からの湿った空気や前線の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、北陸や甲信地方、東北地方で大雨となったところがあった。24日は、前線が北日本付近を北上した。この前線や湿った空気の影響で、関東や北陸、東北地方を中心に雨が降った。また、台風第12号が日本の南海上を西へ進んだ影響で、南西諸島の一部で雨が降った。

台風第12号の影響で南西諸島や西日本で雨、北日本は前線の影響で雨（25日～26日）

25日は、台風第12号が九州の南海上を北へ進んだ影響で、南西諸島で雨が降り、一部で大雨となったほか、沖縄・奄美の一部で暴風や強風となった。また、前線が北日本付近に停滞し、この前線上に低気圧が発生した。これらの影響で、北日本で雨が降り、東北北部で大雨となったところがあった。26日は、台風第12号が九州の西海上を北へ進み、午後6時頃長崎県西海市を通過した後、午後7時頃長崎県佐世保市付近に上陸し、その後日本海に達した。この台風の影響で、南西諸島や九州、四国で雨が降り、奄美では大雨となったところがあったほか、九州の一部で強風となった。また、引き続き前線が北日本付近に停滞した影響で、東北北部や北海道で雨が降った。

前線や湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけて一部で雨（27日～31日）

27日から28日にかけては、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、九州の南部では大雨となったところがあった。また、南西諸島では大気の状態が不安定となった影響で、一部で雨が降った。

29日から30日にかけては、関東沖に低気圧が発生し、東へ進んだ。この低気圧のほか、気圧の谷や湿った空気の影響で、本州や北海道の一部で雨が降り、関東北部で大雨となったところがあった。

31日は、前線が北海道付近に停滞し、この前線や湿った空気の影響で、東北部から北海道にかけての一部で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

8月

南からの湿った空気の影響で西日本や東日本の山沿いを中心に一部で雷雨、北海道は前線の影響で雨(1日～6日)

1日は、前線が北日本付近を通過した影響で、北海道で雨が降り、一部で雷を伴った。その他の地域は、大気の状態が不安定となった影響で、九州の山沿いや東日本の山沿いで雨が降ったところがあったほかは、高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、気圧の谷や上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけての山沿いや北日本では一部で雨が降り、関東甲信では雷を伴ったところがあった。3日から4日にかけては、南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東日本にかけての山沿いを中心に雨が降り、東日本の一部で雷を伴ったほかは、高気圧に覆われ概ね晴れた。5日は、オホーツク海の低気圧が東へ進み、伴う前線が北海道付近へのびた。この前線の影響で、北海道で雨が降った。また、本州南岸の熱帯低気圧や南からの湿った空気の影響で、東日本の山沿いや近畿南部を中心に一部で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。6日は、はじめ北海道付近に前線が停滞し、この前線や湿った空気の影響で、北海道で雨が降った。また、上空の寒気や湿った空気の影響で、近畿や東日本を中心に雨が降り、東海地方の一部で大雨となったほか、近畿や東日本で雷を伴ったところがあった。一方、台風第13号が沖縄の南海上を西へ進んだ影響で、南西諸島を中心に雨が降った。

台風第13号の影響で沖縄で大雨や暴風、気圧の谷や湿った空気の影響で西日本から北日本にかけて一部で雷雨(7日～11日)

7日は、台風第13号が沖縄の南海上を北上した影響で、先島諸島で大雨となり、沖縄で暴風や強風となったところがあった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、九州から北海道にかけて一部で雨が降り、西日本や東海地方で雷を伴ったところがあった。8日は、台風第13号が先島諸島付近を通過した影響で、先島諸島で大雨となり、沖縄で暴風や強風となったところがあった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、四国や本州を中心に一部で雨が降り、近畿で雷を伴ったところがあった。一方、台風第14号が小笠原諸島付近を通過した影響で、小笠原諸島で大雨となった。9日は、大気の状態が不安定となった影響で、西日本の山沿いを中心に一部で雨が降り、近畿で雷を伴ったところがあった。また、湿った空気の影響で、南西諸島や東北地方で雨が降ったところがあった。10日は、小笠原諸島付近の台風第14号が北上し、また、オホーツク海付近に前線が停滞した。これらの影響で、関東南部や北海道を中心に雨が降り、北海道の一部で大雨となった。また、大気の状態が不安定になった影響で、本州の山沿いを中心に雨が降り、東北地方の一部で雷を伴ったほか、湿った空気の影響で沖縄の一部で雨が降った。11日は、台風第14号が関東の南東海上を北上した。この台風からの湿った空気や上空の寒気の影響で、東北地方の太平洋側や関東北部、北海道で雨が降り、北日本の一部で雷を伴った。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、九州北部で大雨(12日～15日)

12日は、九州の西海上の低気圧が対馬海峡付近へ進み、伴う前線が西日本付近を通過した。これらの影響で、西日本を中心に雨が降り、九州北部で大雨となったところがあったほか、西日本の一部で雷を伴った。また、湿った空気や上空の寒気の影響で、関東から北日本にかけて雨が降り、雷を伴ったところがあった。13日は、山陰付近の低気圧が日本海中部へ進み、前線が本州付近を通過した。これらの影響で、九州から北日本にかけて雨が降り、西日本や東海地方では一部で雷を伴った。14日は、関東の東海上の低気圧が三陸沖へ進み、低気圧からのびる前線が九州の南海上に停滞した。また、日本海中部の低気圧が秋田沖に進んだ。これらの影響で、南西諸島や東日本、北日本を中心に雨が降り、関東や東北地方で雷を伴ったところがあった。15日は、三陸沖の低気圧が東へ進み、低気圧からのびる前線が九州付近に停滞した。また、秋田沖に低気圧がほぼ停滞した。これらの影響で、南西諸島や東日本、北日本で雨が降り、北海道の一部で雷を伴った。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、東日本を中心に大雨(16日～22日)

16日は、西日本付近や日本の南岸に前線が停滞した。この前線や湿った空気の影響で、全国的に雨が降り、南西諸島や四国で大雨となったところがあったほか、九州や関東で雷を伴ったところがあった。17日は、前線が

九州付近から関東付近にかけて停滞し、低気圧が日本海中部を北東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、九州の南部、近畿南部、東日本、および東北地方で大雨となったところがあったほか、西日本や東日本では一部で雷を伴った。18日は、引き続き九州付近から関東付近にかけて前線が停滞し、前線上の三陸沖に低気圧が発生して、釧路沖へ進んだ。また、秋田沖の低気圧が北東へ進んだ。これらの影響で、九州から関東にかけての太平洋側、および北陸から北日本にかけて雨が降り、伊豆諸島や北海道で大雨となったところがあった。19日は、釧路沖の低気圧が東へ進み、九州付近から関東の南海上にかけて前線が停滞した。これらの影響で、西日本及び北日本を中心に雨が降った。20日から21日にかけては、本州付近に前線が停滞し、前線上の低気圧が対馬海峡付近を通過して東へ進み、山陰沖に達した。これらの影響で、九州北部から東北地方にかけて雨が降り、九州北部で大雨となったところがあったほか、九州の一部で雷を伴った。また、千島近海の低気圧がオホーツク海へ進み、ほぼ停滞した影響で、北海道で雨が降った。22日は、前線上の日本海中部の低気圧が秋田沖へ進み、前線が本州付近を通過した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降った。また、台風第15号が沖縄の南海上を北上した影響で、沖縄で雨が降った。

台風第15号の影響で全国的に雨、南西諸島や西日本で大雨や暴風（23日～26日）

23日は、引き続き台風第15号が沖縄の南海上を北上し、先島諸島付近に達した影響で、沖縄で雨が降り、先島諸島で大雨となったほか、沖縄の一部で暴風や強風となった。また、はじめ東日本付近に前線が停滞したほか、台風第16号が日本の南東海上を北上した。前線や台風第16号周辺の湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降った。24日は、台風第15号が先島諸島付近から九州の南海上へ進んだ影響で、沖縄や九州で大雨となったところがあったほか、沖縄・奄美を中心に暴風や強風となった。また、湿った空気の影響で、近畿から北海道にかけての一部で雨が降った。25日は、台風第15号が九州の西海上を北上し、午前4時過ぎに鹿児島県阿久根市付近、午前5時過ぎに熊本県宇城市付近を通過した後、午前6時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸し、その後日本海に進み、午後9時に同海域で温帯低気圧に変わった。この台風の影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、西日本では大雨となったほか、西日本や東海地方、北陸で暴風や強風となったところがあった。26日は、日本海西部の低気圧が前線を伴って北へ進んだ影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、伊豆諸島の一部で大雨となった。また、湿った空気の影響で、沖縄で雨が降った。

湿った空気や前線の影響で南西諸島から東北地方にかけて雨（27日～31日）

27日は、東海沖に低気圧が発生し、ほぼ停滞した後消滅した。この低気圧や湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけての一部で雨が降った。また、湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降り、一部で雷を伴った。28日は、湿った空気や気圧の谷の影響で、南西諸島から九州にかけて、および近畿から東南北部にかけて雨が降り、近畿や東海地方で大雨となったところがあった。29日は、前線が九州付近から四国や本州を通過して関東の東海上にかけてのび、前線上に複数の低気圧が発生した。これらと湿った空気の影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、九州や四国で大雨となったところがあったほか、近畿の一部で雷を伴った。30日から31日にかけては、前線が西日本から東日本にかけて停滞し、前線を複数の低気圧が東へ進んだ影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、西日本や東海地方で大雨となったところがあったほか、九州の一部で雷を伴った。

9月

前線や低気圧の影響で全国的に雨（1日～6日）

1日は、対馬海峡付近の低気圧が日本海中部へ進み、伴う前線が西日本や東日本にのびた。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、西日本や東海地方で大雨となったところがあったほか、西日本や東日本の一部で雷を伴った。2日は、日本海中部の低気圧が北海道付近へ進み、伴う前線が本州付近を通過した。また、九州付近に前線が停滞した。これらの影響で、全国的に雨が降り、東海地方や北海道では一部で大雨となったほか、沖縄・奄美や北海道では雷を伴ったところがあった。3日は、前線上の九州の西海上の低気圧が九州付近を通過して東へ進み、日本海中部やサハリンの西海上に低気圧が発生した。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州の一部で雷を伴った。4日は、南西諸島から関東付近にかけて前線が停滞した影響で、東海地方の一部や南西諸島、伊豆諸島、関東で雨が降り、関東の一部で雷を伴った。一方、前線上の釧路沖に発生した低気圧や宗谷海峡付近の低気圧が東へ進んだ。これらと湿った空気の影響で、北陸や北日本を中心に雨が降り、北陸や東北地方日本海側の一部で大雨となったほか、北陸の一部で雷を伴った。5日は、華中の低気圧が黄海へ進み、伴う前線が九州付近にのびた影響で、中国地方の一部や九州で雨が降った。また、

上空の寒気や湿った空気の影響で、北陸から東北地方にかけての一部や北海道で雨が降った。6日は、九州付近から関東付近にかけて前線がのび、前線上を低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて、および北海道の太平洋側で雨が降り、九州南部地方や近畿南部を中心に大雨となったところがあった。また、南西諸島や西日本では一部で雷を伴った。

前線や台風の影響で全国的に雨、西日本から東北南部にかけて大雨（7日～11日）

7日は、南西諸島から東日本付近にかけて前線が停滞し、前線上の東海地方付近の低気圧がほぼ停滞した後消滅した。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて、および北海道の太平洋側で雨が降り、東海地方の一部で大雨となった。8日は、本州南岸に前線が停滞し、台風第18号が日本の南海上を北上した。台風周辺の湿った空気が前線に向かって流れ込んだ影響で、四国や中国地方、東日本、東北南部を中心に雨が降り、山陰や近畿南部、東海地方、伊豆諸島で大雨となったところがあった。また、はじめ南西諸島付近に前線が停滞した影響で、南西諸島の一部で雨が降った。9日は、東海沖の台風第18号が北上して午前9時半頃に愛知県西尾市付近に上陸し、日本海に進んだ後、温帯低気圧に変わった。また、鳥島近海の台風第17号が北西へ進んだ。これらの台風周辺の湿った空気の影響で、九州から北海道にかけて雨が降り、関東を中心に西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となったほか、近畿や関東では一部で雷を伴った。また、台風第18号の影響で、東海地方の一部で強風となった。10日は、日本海中部の低気圧がほぼ停滞し、台風第17号が日本の東海上を北上した。台風周辺の湿った空気や日本海の低気圧の影響で、九州北部から北日本にかけて雨が降り、関東から東北地方にかけて大雨となったところがあったほか、近畿や関東では一部で雷を伴った。また、北海道の一部で強風となった。11日は、日本海中部の低気圧が東へ進み、また、日本の東海上の台風第17号が北上して北海道の東海上に達し、温帯低気圧に変わった。これらの影響で北陸や関東、北日本で雨が降り、東北地方で大雨となったところがあった。

前線や低気圧の影響で山陰や北陸、北日本で雨、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れ（12日～15日）

12日は、日本海西部の低気圧が前線を伴って日本海北部へ進み、また、サハリンの西海上の低気圧がほぼ停滞した。これらの影響で、九州北部や山陰、北日本を中心に雨が降った。13日は、北海道付近の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が東日本や北日本を通過した。これらの影響で、山陰や北陸、北日本で雨が降った。14日は、上空の寒気の影響で、北陸から北日本にかけて一部で雨が降り、北海道の一部で雷を伴った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。15日は、本州付近は高気圧に覆われたが、日本の東海上から南西諸島にかけて前線が停滞した影響で、南西諸島や九州、四国で雨が降ったところがあった。また、上空の寒気の影響で、北海道の一部で雨が降った。その他の地域は概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、北日本を中心に大雨（16日～19日）

16日は、東シナ海から本州南岸にかけて前線が停滞し、九州の西海上や前線上の九州付近に低気圧が発生した。これらの影響で、東日本の太平洋側や南西諸島、西日本、伊豆諸島で雨が降った。17日は、南西諸島付近から本州の南岸にかけて前線が停滞し、九州の西海上の低気圧や前線上の四国沖の低気圧が東へ進んだほか、北陸付近に低気圧が発生した。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、東日本から東北南部にかけての太平洋側では一部で大雨となったほか、九州や東海地方、関東では雷を伴ったところがあった。18日は、関東付近から三陸沖にかけて前線が停滞し、日本海中部の低気圧が秋田沖へ進んだ。これらの影響で、山陰や東日本、北日本で雨が降り、東海地方や東北地方では大雨となったところがあったほか、関東で雷を伴った。また、湿った空気の影響で、九州の一部で雨が降った。19日は、台風第20号が小笠原諸島付近を北上した影響で、小笠原諸島で大雨となった。また、三陸沖に低気圧が発生し、前線を伴って釧路沖へ進んだほか、秋田沖に低気圧がほぼ停滞した。これらの影響で、北陸や北日本を中心に雨が降り、北海道の太平洋側で大雨となったところがあった。

上空の寒気や低気圧の影響で北日本で雨、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れ（20日～22日）

20日は、釧路沖の低気圧がオホーツク海へ進んだ影響で、北日本を中心に雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。21日から22日にかけては、上空の寒気の影響で、北海道の一部で雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄や九州の南部で雨が降ったところがあった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で九州から東北地方にかけて雨（23日～26日）

23日は、華中の低気圧が九州の西海上へ進み、伴う前線が九州付近へのびた。この影響で、九州や四国、中国地方で雨が降り、九州北部では一部で大雨となった。その他の地域は、高気圧に覆われ、概ね晴れた。24日は、九州の西海上に低気圧がほぼ停滞し、伴う前線が九州付近を通過した。その後、前線上の本州南岸に低気圧が発生した。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、四国の太平洋側を中心に大雨となった。25日は、日本の南海上に前線が停滞し、前線上の低気圧が本州南岸を東へ進んだ。また、別の低気圧が日本海中部に発生した。これらの影響で、本州や伊豆諸島を中心に雨が降り、東海地方や伊豆諸島で大雨となったところがあった。26日は、本州南岸に前線が停滞し、日本海中部の低気圧がほぼ停滞したほか、沿海州の低気圧からのびる前線が北海道付近を通過した。これらの影響で、西日本の太平洋側や東日本、北日本で雨が降った。また、台風第21号が日本の南海上から沖縄の南海上へ進み、台風周辺の湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降った。

台風第21号の影響で先島諸島で大雨や暴風、前線や気圧の谷の影響で九州や北日本で雨（27日～30日）

27日は、台風第21号が沖縄の南海上を西へ進んだ影響で、沖縄・奄美で雨が降った。また、九州付近から本州南岸にかけて前線が停滞した影響で、西日本や東日本の太平洋側を中心に雨が降った。一方、サハリン付近の低気圧からのびる前線が北日本付近を通過した影響で、北日本で雨が降り、北海道の一部で雷を伴った。28日は、台風第21号が先島諸島付近を通過した影響で、沖縄・奄美で雨が降り、先島諸島で大雨、暴風となった。また、前線が九州の南海上に停滞した影響で、九州の一部で雨が降った。一方、網走沖に低気圧が発生し千島近海へ進み、この低気圧や上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、東北地方の日本海側や北海道で雨が降り、北海道の一部で雷を伴った。29日は、台風第21号が台湾海峡を西へ進んだ後、熱帯低気圧に変わった。また、前線が九州の南海上に停滞した。これらの影響で、南西諸島や九州で雨が降り、沖縄・奄美の一部で雷を伴ったほか、先島諸島で暴風や強風となった。また、北日本を中心に冬型の気圧配置となった影響で、東北地方の日本海側や北海道で雨が降り、一部で雷を伴ったほか、北海道の一部で強風となった。30日は、引き続き前線が九州の南海上に停滞した。この前線や湿った空気の影響で、九州で雨が降った。また、北日本を中心に冬型の気圧配置が続いた影響で、東北地方の日本海側や北海道で雨が降った。

10月

発達した低気圧の影響で全国的に雨、北海道で暴風、その後高気圧に覆われ概ね晴れ（1日～7日）

1日から2日にかけては、黄海の低気圧が発達しながら日本海を通過してサハリン付近へ進み、伴う前線が日本付近を通過した。これらの影響で、全国的に雨が降り、山口県を含む九州北部地方や東海地方、甲信地方、北海道で大雨となったところがあったほか、西日本や東日本の一部で雷を伴った。また、北海道で暴風となり、西日本から北日本にかけて強風となったところがあった。3日は、オホーツク海の発達した低気圧がほぼ停滞したのち東へ進んだ影響で、北日本で雨が降り、東北地方の一部で雷を伴ったほか、北海道で強風となったところがあった。また、湿った空気の影響で、沖縄の一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。4日は、北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置（以下冬型と略す）となった影響で、北日本の日本海側で雨が降った。また、気圧の谷の影響で、北陸の一部で雨が降ったほか、湿った空気の影響で、先島諸島や東海地方、関東地方で雨が降ったところがあった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。5日は、台風第23号が日本の南東の海上を西へ進んだ影響で、小笠原諸島で雨が降った。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけての一部で雨が降ったほか、湿った空気の影響で、先島諸島の一部で雨が降った。6日は、台風第23号が日本の南東の海上を北上した影響で、小笠原諸島で雨が降った。また、上空の寒気の影響で、東海地方や甲信地方で雨が降ったところがあった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。7日は、台風第23号が日本の東海上を北上した影響で、関東南部で暴風となったところがあった。また、湿った空気の影響で南西諸島の一部で雨が降った。西日本から北日本にかけては、高気圧に覆われ概ね晴れた。

発達した低気圧の影響で北日本で雨、その後前線や低気圧の影響で全国的に雨（8日～11日）

8日は、台風第23号が温帯低気圧に変わり、この発達した低気圧が日本の東海上を北上して北海道の東海上に達した。この低気圧の影響で、北陸、東北日本海側及び北海道で雨が降り、北海道で大雨となったところがあったほか、北日本の一部で暴風や強風となった。一方、湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。9日は、千島近海の発達した低気圧がオホーツク海へ進み、また、日本海中部に低気圧が発生して北東へ進んだ。これらの影響で、北陸、東北日本海側及び北海道で雨が降り、北海道の一部で暴風や強風となった。

一方、先島諸島付近に低気圧が発生し、南西諸島に前線がのびた影響で、南西諸島で雨が降った。10日は、沖縄の南海上から日本の南海上にかけて前線が停滞した。この前線や湿った空気の影響で、南西諸島や近畿から東日本にかけての太平洋側で雨が降った。また、寒気や気圧の谷の影響で、北陸や北日本日本海側を中心に雨が降り、北陸の一部で雷を伴ったほか、北海道で強風となったところがあった。11日は、前線上の関東の東海上に低気圧が発生し、北東へ進んだ。また、日本海西部の前線を伴う低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が日本付近を通過した。これらの影響で、全国的に雨が降り、北海道の一部で雷を伴ったほか、北海道で強風となったところがあった。

低気圧や冬型の気圧配置の影響で北陸や北日本を中心に雨や雪（12日～14日）

12日から13日にかけては、宗谷海峡付近の低気圧が北東へ進んだ後、サハリンの西海上に低気圧が発生して東へ進み、西日本から北日本にかけて冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北海道の一部で強風となった。14日は、オホーツク海の低気圧が東へ進み、はじめ東日本や北日本を中心に冬型になった。これらの影響で、北陸や東北地方で雨が降り、北海道では雨や雪が降ったほか、北海道の一部で強風となった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

気圧の谷や湿った空気の影響で関東を中心に雨、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れ（15日～19日）

15日から16日にかけては、気圧の谷や湿った空気の影響で、関東南部や伊豆諸島を中心に雨が降った。また、前線が沖縄の南海上に停滞した影響で、沖縄の一部で雨が降った。17日は、引き続き気圧の谷や湿った空気の影響で、関東甲信や伊豆諸島で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。18日は、沿海州付近の低気圧が北東へ進み、伴う前線が北日本付近を通過した影響で、北海道の一部で雨が降った。また、湿った空気の影響で、伊豆諸島や関東南部で雨が降ったところがあった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。19日は、気圧の谷の影響で、東北南部で雨が降ったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で北日本で雨、南西諸島は湿った空気の影響で雨（20日～23日）

20日は、日本海北部に低気圧が発生して千島近海へ進み、伴う前線が北日本付近を通過した。これらの影響で、東北日本海側や北海道を中心に雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄の一部で雨が降った。21日は、気圧の谷の影響で、東北北部から北海道にかけて一部で雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄の一部で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。22日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降った。また、小笠原諸島付近に前線が停滞したほか、台風第25号が小笠原諸島の南の海上を東へ進んだ影響で、小笠原諸島で雨が降った。一方、気圧の谷の影響で、北陸や北日本の一部で雨が降った。23日は、引き続き気圧の谷や湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、西日本や北日本を中心に概ね晴れた。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で北陸や北日本を中心に雨や雪（24日～26日）

24日は、沿海州の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が東日本や北日本を通過した。これらの影響で、西日本の日本海側や北陸、東北地方で雨が降り、北海道では雨や雪が降ったほか、北陸の一部で雷を伴った。また、北海道で強風となったところがあった。一方、沖縄の南海上の低気圧や湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、沖縄の一部で大雨となった。25日は、千島近海の低気圧が発達しながら北東へ進み、北日本を中心に冬型となった。これらの影響で、北日本を中心に雨や雪が降ったほか、北日本では暴風や強風となったところがあった。その他の地域は、次第に高気圧に覆われ概ね晴れた。26日は、北日本を中心に冬型が続いた影響で、北海道の一部で雨や雪が降ったほか、北海道では強風となったところがあった。また、湿った空気の影響で、九州北部や南西諸島で雨が降ったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧が通過した影響で全国的に雨（27日～28日）

27日は、沿海州の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が西日本や北日本を通過した。これらの影響で、西日本や東海地方、北陸、伊豆諸島を中心に雨が降り、北海道の一部で雨や雪が降った。28日は、サハリンの西海上の低気圧が前線を伴って北へ進み、前線が東日本や北日本を通過した。その後、日本付近は一時的に冬型となった。これらの影響で、近畿から北海道にかけて雨が降ったほか、北海道の一部で強風となった。

低気圧の影響で北陸や北日本を中心に雨や雪、南西諸島や九州の南部は前線の影響で雨（29日～31日）

29日は、関東の東海上に低気圧が発生して東へ進んだ影響で、関東の一部で雨が降った。また、日本海中部に低気圧が発生し、この低気圧や寒気の影響で、北陸や北日本で雨が降った。30日から31日にかけては、南西諸島付近に前線がのび、前線上の九州の南海上に低気圧が発生した。これらの影響で、沖縄・奄美や九州の南部で雨が降った。一方、日本海や関東の東海上の低気圧が東へ進み、その後、北日本を中心に冬型となった。これらの影響で、北陸や北日本を中心に雨や雪が降った。

11月

低気圧や上空の寒気の影響で西日本や東日本で雨（1日～3日）

1日は、気圧の谷が西日本付近を進んだ影響で、九州や四国、中国地方で雨が降った。また、湿った空気の影響で、北陸の一部で雨が降った。2日は、本州南岸の低気圧が前線を伴って北東へ進み、日本海中部に発生した低気圧が東へ進んだ。これらと上空の寒気の影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降った。3日は、秋田沖で消滅した低気圧や上空の寒気の影響で、関東の一部や近畿から東北地方にかけての日本海側で雨が降り、北陸では雷を伴ったところがあった。一方、日本付近は次第に高気圧に覆われ、西日本を中心に晴れた。

前線や湿った空気の影響で南西諸島や西日本で雨（4日～7日）

4日は、先島諸島付近から日本の南海上にかけて前線が停滞した影響で、先島諸島や小笠原諸島で雨が降り、先島諸島の一部で大雨となった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。5日から6日にかけては、湿った空気の影響で、南西諸島や四国、中国地方、伊豆諸島、これらの一部で雨が降った。また、日本の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞した影響で、小笠原諸島で雨が降った。7日は、前線が華中から黄海を通過して本州付近にのびた。この前線と湿った空気の影響で、西日本を中心に雨が降り、四国で大雨となったところがあった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨（8日～11日）

8日は、東シナ海から日本海にかけてのびる前線上の日本海西部に低気圧が発生し、東へ進んだ。これらの影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、甲信地方の一部で大雨となったほか、北海道太平洋側を中心に雨や雪が降った。9日は、前線上の秋田沖の低気圧が千島近海へ進み、前線が本州付近を南下して南西諸島から関東付近にのびた。その後、前線上の関東付近に低気圧が発生した。これらの影響で、全国的に雨が降り、奄美の一部で大雨となったほか、九州では一部で雷を伴った。また、北海道の一部で強風となった。10日は、沖縄の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の関東付近の低気圧が東へ進んだ。また、日本海北部の低気圧が日高沖へ進んだ。これらと寒気の影響で、南西諸島から北日本にかけて雨が降り、北海道で雨や雪が降った。11日は、日高沖の低気圧が釧路沖へ進んだ。この低気圧や寒気の影響で、北海道で雨や雪、北陸や東北日本海側で雨が降った。また、湿った空気の影響で、九州南部地方や伊豆諸島で雨が降ったところがあった。

前線と低気圧の影響で全国的に雨、西日本太平洋側で大雨（12日～16日）

12日は、釧路沖の低気圧が南東へ進んだ。この低気圧の影響で、北海道の一部で雨が降った。また、前線や湿った空気の影響で、先島諸島や九州、伊豆諸島で雨が降ったところがあった。13日は、東シナ海の低気圧が黄海へ進み、前線上の東シナ海に別の低気圧が発生して九州の西海上へ進んだ。これらの影響で、東日本の一部や南西諸島、西日本で雨が降り、九州の南部や四国で大雨となったところがあった。14日は、日本海西部の低気圧が東へ進んだ。また、前線上の九州付近の低気圧が消滅し、同じ前線上の関東付近に低気圧が発生した。これらの影響で、全国的に雨が降り、四国や近畿南部、東海地方で大雨となったところがあったほか、中国地方の一部で雷を伴った。15日は、日本海中部の低気圧が東へ進み、関東の東海上の前線を伴う低気圧が北へ進んだ後、これらの低気圧が一つにまとまって北海道の東海上に達した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、北海道太平洋側の一部で大雨となった。16日は、はじめ北日本を中心に冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった影響で、北陸や東北日本海側を中心に雨が降ったところがあった。また、黄海に低気圧が発生して東へ進み、華中から九州付近に前線がのびた。これらの影響で、九州北部や山陰で雨が降ったところがあった。一方、湿った空気の影響で、南西諸島や関東、伊豆諸島で雨が降ったところがあった。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、その後低気圧の通過と冬型の気圧配置の影響で東日本や北日本で雨や雪（17日～21日）

17日は、朝鮮半島付近の低気圧が日本海中部へ進んで消滅し、前線が華中から関東付近にのびた。また、北海道付近に低気圧が発生し、前線を伴って千島近海へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州南部地方で大雨となったところがあった。18日は、東シナ海から本州南岸にかけて前線が停滞し、前線上の東シナ海の低気圧が九州付近を通過して東海沖に達した。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、九州の南部や中国地方、伊豆諸島で大雨となったところがあったほか、九州の一部で雷を伴った。19日は、前線上の関東の東海上の低気圧が東へ進んだ影響で、西日本日本海側や東日本、東北地方を中心に雨が降り、伊豆諸島の一部で大雨となったほか、北海道の一部で雪が降った。また、関東で暴風となったところがあった。20日は、日本の南海上の低気圧や日本海西部の低気圧が東へ進んだほか、サハリンの西海上や北海道の東海上に低気圧が発生した。これらの影響で、山陰から東日本にかけて雨が降り、北日本では雨や雪が降ったところがあった。21日は、日本海北部やオホーツク海、北海道の東海上の低気圧が東へ進み、北日本を中心に冬型となった。これらの影響で、北陸から北日本にかけて雨や雪が降った。

前線や低気圧の影響で、全国的に雨や雪（22日～24日）

22日は、北海道を中心に冬型となり、北海道で雨や雪が降った。また、九州の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、この前線や湿った空気の影響で、南西諸島や九州、四国、伊豆諸島で雨が降ったところがあった。23日は、九州付近から日本の南岸にかけて前線が停滞した。また、サハリンの西海上に低気圧が発生してほとんど停滞したほか、日本海中部に低気圧が発生した。これらの影響で、先島諸島や西日本、東日本太平洋側、東北地方で雨が降り、北海道で雨や雪が降ったところがあった。また、九州の一部で雷を伴った。24日は、日本海中部の低気圧と関東の東海上の低気圧がそれぞれ前線を伴って東へ進み、東日本や北日本を中心に冬型となった。これらの影響で、四国や本州を中心に雨が降り、北海道では雪や雨が降ったほか、北海道の一部で強風となった。

低気圧の通過と冬型の気圧配置の影響で全国的に雨や雪、その後南西諸島は前線の影響で雨（25日～30日）

25日は、はじめ北日本付近で冬型となり、北海道で雪や雨が降った。また、対馬海峡に低気圧が発生して東へ進んだほか、本州南岸に複数の低気圧が発生して東へ進んだ。これらの低気圧や寒気の影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨が降った。26日は、低気圧が日本海中部を北へ進んだ。また、前線上の関東の東海上の低気圧が三陸沖へ進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪が降った。一方、台風第26号が日本の南海上を北上した影響で、小笠原諸島で雨が降った。27日は、日本海中部の低気圧が北海道付近へ、日高沖の低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本や北陸、北日本を中心に雨や雪が降り、北海道の太平洋側で大雨となったところがあったほか、北陸の一部で雷を伴った。また、北陸で暴風、四国や北日本で強風となったところがあった。28日は、西日本から北日本にかけて引き続き冬型となった影響で、山陰から東日本にかけての日本海側や北日本を中心に雨や雪が降り、北日本の一部で強風となった。29日は、はじめ北日本を中心に冬型となり、その後、日本海北部に低気圧が発生して消滅した。これらの影響で、東日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降った。一方、南西諸島付近に前線が停滞した影響で、沖縄や九州南部地方を中心に雨が降った。30日は、沖縄の南海上に停滞する前線の影響で、南西諸島や九州南部地方で雨が降り、奄美の一部で大雨となった。一方、日本海西部の低気圧が前線を伴って北海道付近へ進んだ影響で、中国地方から東日本にかけての日本海側で雨が降ったほか、北日本で雨や雪が降り、北海道の一部では暴風や強風となった。

12月

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で全国的に雨や雪（1日～5日）

1日は、オホーツク海の低気圧が北東へ進み、東日本や北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった影響で、山陰から東北地方にかけての日本海側で雨が降り、北海道で雪や雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。2日は、先島諸島付近に発生した低気圧が前線を伴って九州の南海上へ進んだ。この低気圧や日本海付近の前線、沿海州付近の低気圧の影響で、南西諸島から西日本にかけて雨が降り、北海道の一部で雪が降った。一方、高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、関東や東北地方の太平洋側で雨が降ったところがあった。3日は、四国沖の低気圧と日本海中部の低

気圧が、それぞれ前線を伴って北東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、北陸の一部で雷を伴ったほか、北海道では雨や雪が降った。また、西日本から北日本にかけて、一部で強風となった。4日は、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、北陸の一部で雷を伴った。また、西日本から北日本にかけて一部で強風となり、北陸や伊豆諸島では暴風となったところがあった。5日は、日本付近は引き続き冬型となり、北陸や北日本を中心に雨や雪が降り、北陸で大雨となったところがあったほか、北海道の一部で強風となった。また、湿った空気の影響で、先島諸島の一部で雨が降った。

北日本は冬型の影響で雨や雪、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れ（6日～9日）

6日は、南西諸島付近に前線が停滞し、前線上の沖縄付近に低気圧が発生して東へ進んだ。これらや湿った空気の影響で、南西諸島や九州を中心に雨が降り、南西諸島の一部で雷を伴った。また、北日本を中心に冬型となったほか、宗谷海峡に低気圧が発生してほぼ停滞した。これらの影響で、北陸や北日本で雨や雪が降り、北海道の一部で強風となった。7日は、沖縄の南海上から日本の南海上にかけて前線がのび、前線上の九州の南海上の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島や伊豆諸島で雨が降ったところがあった。また、北日本は引き続き冬型となり、北日本の日本海側を中心に雨や雪が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は、寒気の影響で、九州北部や山陰、北海道で雨や雪が降ったところがあった。一方、日本の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の日本の南海上の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、先島諸島や伊豆諸島、小笠原諸島で雨が降ったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。9日は、湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降った。また、気圧の谷の影響で、北海道の日本海側で雨や雪が降ったところがあった。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧の影響で全国的に雨や雪、西日本や東日本の一部で大雨（10日～11日）

10日は、東シナ海に低気圧が発生し、前線を伴って九州の西海上へ進んだ。この影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、先島諸島の一部で雷を伴ったほか、九州の南部や四国を中心に大雨となり、沖縄・奄美や九州では一部で強風となった。また、北日本では雨や雪が降ったところがあった。

11日は、四国付近の前線を伴う低気圧が東へ進み、三陸沖に達した。この低気圧の影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、西日本や東日本では一部で大雨となったほか、北陸の一部で雷を伴った。また、北日本では雨や雪が降った。このほか、西日本から北日本にかけて一部で強風となり、近畿や東海地方では暴風となったところがあった。

寒気や低気圧の影響で、山陰や東日本で雨（12日～14日）

12日は、寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨が降った。また、東海沖に低気圧が発生した影響で、東海地方の一部で雨が降ったほか、湿った空気の影響で、先島諸島の一部で雨が降った。13日は、寒気の影響で、西日本日本海側で雨が降った。また、東海沖の低気圧が東へ進んだ影響で、東日本や東北地方で雨が降ったところがあった。一方、湿った空気や気圧の谷の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。14日は、引き続き寒気の影響で、西日本日本海側で雨が降ったところがあった。また、本州南岸の低気圧が東へ進んだ影響で、関東や伊豆諸島で雨が降ったところがあった。一方、黄海に低気圧が発生して朝鮮半島付近へ進んだ。この低気圧や気圧の谷の影響で、南西諸島から九州にかけて雨が降った。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪、南西諸島は寒気の影響で雨（15日～19日）

15日は、朝鮮半島付近の低気圧が東へ進んで秋田沖に達し、日本海北部に別の低気圧が発生して宗谷海峡へ進んだ。これらや気圧の谷の影響で、南西諸島や西日本、東海地方、北陸、甲信地方、東北地方で雨が降り、北海道で雨や雪が降った。16日は、日高沖の低気圧が千島近海へ進み前線を伴ったほか、日本海北部に低気圧が発生してほぼ停滞した。また、関東の東海上の前線上に低気圧が発生して東へ進み、本州付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に雨が降り、北海道で雨や雪が降ったほか、北海道の一部で強風となった。一方、南西諸島では寒気の影響で、一部で雨が降った。17日は、日本付近は冬型となり、西日本から東北地方にかけての日本海側や北海道を中心に雨や雪が降り、山陰では一部で雷を伴ったほか、北海道では一部で暴風や強風となった。また、寒気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。18日から19日にかけては、日本付近は引き続き冬型となり、その後次第に西から緩んだ。冬型の影響で、本州や北海道の日本海側を中心に雨や雪が降った。また、寒気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。

低気圧や前線の影響で、全国的に雨や雪（20日～24日）

20日は、はじめ北海道付近は冬型が続き、北日本の一部で雪や雨が降った。また、本州付近は高気圧に覆われたが、その後、気圧の谷の影響で、西日本の一部で雨が降った。21日は、日本海中部に低気圧が発生し、北海道付近へ進んだ。この低気圧や気圧の谷の影響で、西日本や東海地方、北陸、甲信地方、東北地方を中心に雨が降り、北海道で雨や雪が降った。また、関東の東海上に低気圧が発生し、伴う前線が本州南岸へのびた影響で、南西諸島や伊豆諸島で雨が降った。22日は、日本の東海上の低気圧が東へ進み、東日本や北日本を中心に冬型となった影響で、北陸や東北地方日本海側で雨が降り、北海道で雨や雪が降った。また、南西諸島は気圧の谷の影響で、一部で雨が降った。23日は、東シナ海に低気圧が発生して東へ進み、また、華南から九州付近に前線がのび、前線上の九州の西海上や四国沖に低気圧が発生した。さらに、日本海中部に低気圧が発生した。これらの影響で、南西諸島から東北部にかけて雨が降り、九州南部地方では大雨となったところがあった。24日は、東海沖の低気圧が東へ進み、伴う前線が南西諸島を通過した。また、日本海中部の低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島から東北部にかけて雨が降った。一方、オホーツク海の低気圧がほぼ停滞し、伴う前線が宗谷海峡付近を通過した影響で、北海道日本海側の一部で雪や雨が降った。

冬型の気圧配置の影響で、山陰から北日本の日本海側にかけて雨や雪、南西諸島は気圧の谷や寒気の影響で雨（25日～31日）

25日は、日本付近は冬型となり、四国の瀬戸内側や山陰から東日本にかけての日本海側、北日本で雨や雪が降り、北陸の一部で雷を伴った。また、はじめ気圧の谷の影響で、関東や伊豆諸島の一部で雨が降った。一方、日本の南海上の前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。26日は、日本付近は引き続き冬型となった。また、日本海中部の低気圧が東へ進み、三陸沖に達して前線を伴った。これらの影響で、北陸や東北地方、北海道日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部で雷を伴った。また、北陸の一部で暴風となった。27日から29日にかけては、日本付近は冬型となり、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降ったほか、北日本の一部で強風となった。また、気圧の谷や寒気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。30日は、はじめ東日本や北日本を中心に冬型が続いた影響で、北陸や北日本の日本海側を中心に雪や雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われ概ね晴れた。31日は、四国沖の低気圧が東へ進み、その後、西日本から北日本にかけて冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側や四国の瀬戸内側を中心に雨や雪が降り、山陰の一部で雷を伴った。また、気圧の谷や寒気の影響で、沖縄の一部で雨が降った。